



みづは桜 (但馬御蔵山) 中川 光郎

世界の山旅 刃境の旅



「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

「新」総合カタログ完成

ツアーカタログをご請求ください



現地エキスパートTL同行の人気コース 山小屋泊まりの人気コース ニューージーランド・ベスト・トレッキング

NZ「アルプス街道」 日帰りハイキング満喫 8日間 <small>往復</small> 大阪・東京 ●4/10発 ¥362,000 ●3/13●3/22発 ¥382,000 ●4/24発 ¥388,000	ミルフォード・トラックと クィーンズタウン 9日間 <small>往復</small> 大阪・東京 ●3/12発 ¥528,000	ミルフォードとルートバーンと マウントクック 15日間 <small>往復</small> 大阪・名古屋・福岡 ●3/6発 ¥575,000
桃源郷フンザ滞在とラカポシ 氷河ハイキング 11日間 <small>往復</small> 東京 ●4/9●4/22発 ¥298,000 ●3/18●3/25発 ¥312,000 ●4/29発 ¥325,000	世界遺産・ブルーマウンテンズと Mt.コジオスコ登頂 7日間 <small>往復</small> 大阪・名古屋 ●3/27発 ¥388,000	アビスコ王様の散歩道 オーロラと スノーシューハイキング 6日間 <small>往復</small> 大阪 ●3/7発 ¥328,000
エベレスト・カラバタル登頂 トレッキング 19日間 <small>往復</small> 大阪・東京・名古屋・福岡 ●3/13●4/3●4/17●4/24発 ¥398,000	アンナプルナ・ダウラギリ パノラマ・トレッキング 9日間 <small>往復</small> 大阪・東京・名古屋・福岡 ●3/16●3/19●3/29●4/9発 ¥298,000	エベレスト・パノラマ トレッキング 12日間 <small>往復</small> 大阪 ●3/19●3/23●4/13●5/11発 ¥320,000 ●4/27発 ¥388,000
Mt.キナバル登頂と ジャングルクルーズ 6日間 <small>往復</small> 大阪 ●4/25●5/31発 ¥178,000 ●3/22発 ¥183,000	ブータンの聖峰チョモラーリB.C. トレッキング 12日間 <small>往復</small> 大阪・東京 ●3/20●4/23発 ¥498,000	キリマンジャロ ゆったり登頂 10日間 <small>往復</small> 大阪 ●3/16発 ¥478,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

アルパインツアーサービス株式会社
国土交通大臣登録旅行業第400号/北日本旅行業協会正会員 〇DFP登録
 本社 〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)
 (※りんゆう観光) 広島/☎082(542)1900(転送)
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。
 山岳会、ハイキングクラブで
 企画ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
 キングを企画したい、いつもの山仲間と海外の山歩き
 をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
 らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
 ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します



鬼追いの籠 (薬師寺)

春の訪れを告げるのは
 露のとう ほろにがい春の味
 鮮やかな緑 また椿の朱色
 東大寺二月堂の修二会お水取り
 本尊に懺悔し折る十一面観音法
 「お水送り」「青衣の女人」
 3月1日～14日毎夜繰り返される
 夜空を赤々と焦がす松明に導かれ
 一人また一人と階段を登り
 堂内へと消えて行く練行衆
 国家安泰 風雨順時 五穀豊穡
 万民快樂 本尊十一面観音に祈願
 3月12日夜 大松明が乱舞し
 本尊に供える水を汲みあげる
 天平の世が時を越えて蘇ってくる

桜 (彦根城)



Photo essay

乱舞

題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

修二会 (おたいまつ) ・東大寺二月堂



陽春

実景

湖西の春

撮影 武市通治



竹生島

湖畔早春 (新旭)

季節の



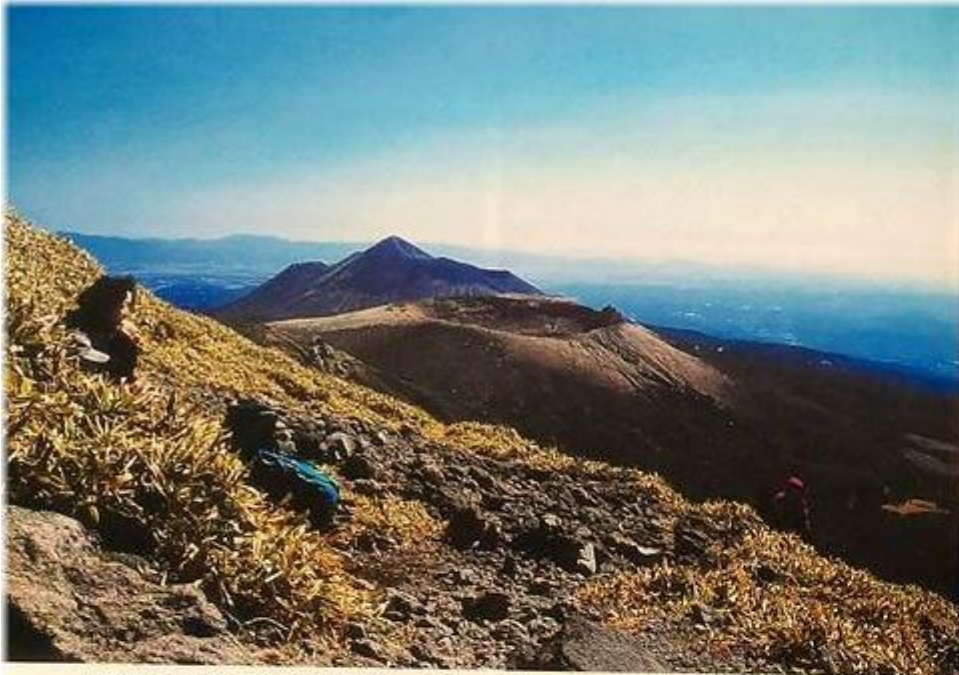
新緑 (新旭)



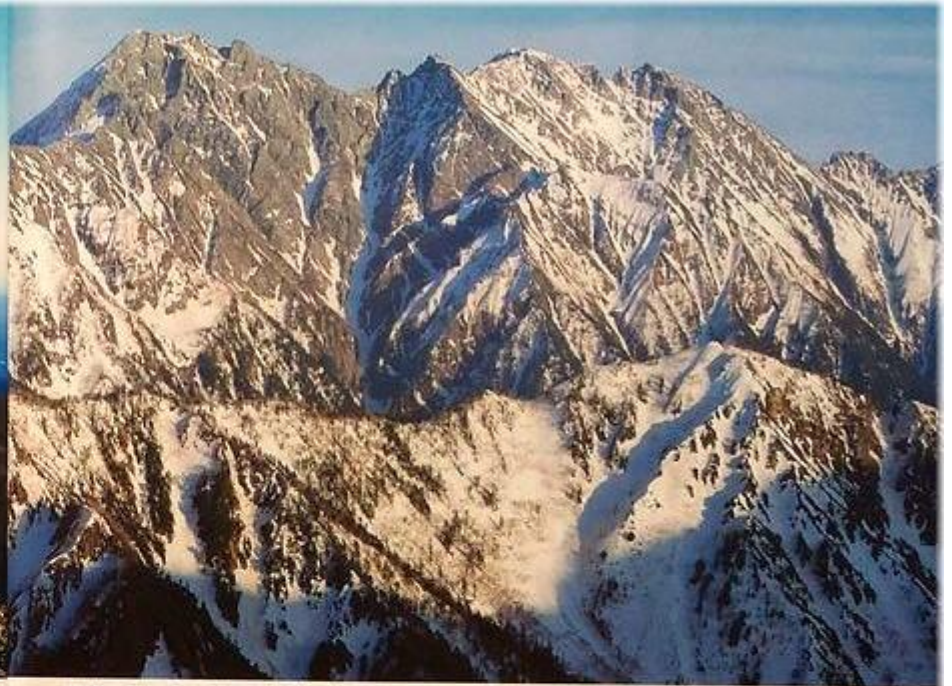
カタクリ (マキノ)

陽春





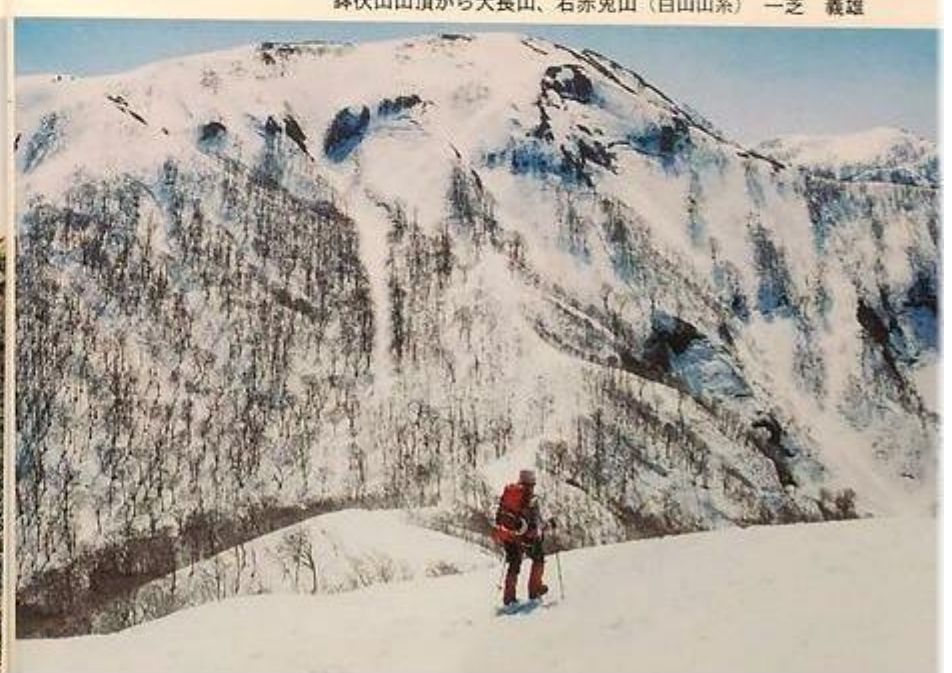
韓国岳から春近い高千穂峰（九州） 三浦 弘幸



弓折岳稜線より残雪の穂高（北アルプス） 武田 誠司



芦生京大演習林の春（京都北山） 中川 節子



鉢伏山山頂から大長山、右赤兎山（白山山系） 一芝 義雄

林床を埋めるカタクリ ふなお 山毛櫨尾山にて (両白山地) -

奥田 英一郎



●グラビア

乱舞……………撮影 由井 収 文 松永 惠一
 (口絵) 中川光郎 武田誠司 一芝義雄 三浦弘幸 中川節子 奥田英一郎
 随想(山のエッセイ)
 猿ヶ馬場山異聞……………編本 逸雄 増生
 「北山杉」という言葉……………長坂 文男 15 12 10
 クマの話……………田中 明 30 26 22 17

●紀行

ボンボン山の自然(京都西山)……………木村 太郎 30 26 22 17
 大塔山(南紀)……………小山 誠次 30 26 22 17
 牛山とトビ岩(北良)……………山田 明男 30 26 22 17
 冬瓜山(両白)……………品谷山・茶臼山・戸倉山・岳……………松田 敏男 34 32
 運載 標高による山の紹介シリーズ 21 △△△の山……………松田 敏男 34 32
 品谷山・茶臼山・戸倉山・岳……………松田 敏男 34 32
 鉢塚山(中巻)……………松田 敏男 34 32
 諸塚山・行勝山ほか(西九州)……………松田 敏男 34 32
 インカ古道(トレイル)を歩く(ヘル)……………松田 敏男 34 32
 運載 三角点を訪ねて……………松田 敏男 34 32
 伊吹山北の虎子山へ(南北)……………松田 敏男 34 32

●エリヤ別徹底研究

伊能ウォーク INやまと……………上田 倅弘 60 56
 ③王寺・當麻寺 ④当麻寺駅・法隆寺(奈良)……………中村 敏文 60 56
 ●畷傍山・天香久山・耳成山(奈良)……………中村 敏文 60 56
 ●文学歴史探訪ハイク……………中村 敏文 60 56
 ●高野三山を巡って(高野)……………中村 敏文 60 56
 ●(山のレポート)山の地名を歩く①「生駒山」……………西尾 寿一 71 68 64
 ●(山のレポート)山と自然災害……………生駒 巒峰 71 68 64
 ●①原山峠から白石平(湖西)……………長宗 清司 76 74 72
 ●②駒ノ尾山・天狗寺山(両山)……………山形 歳之 76 74 72
 ●③スモトリコバ・入道ヶ原(鈴鹿)……………山形 歳之 76 74 72
 コース……………山形 歳之 76 74 72
 ガイド……………山形 歳之 76 74 72
 沿線ハイキングガイド……………山形 歳之 76 74 72
 セセラギ……………山形 歳之 76 74 72
 サービスチェーン……………山形 歳之 76 74 72
 新ハイ関西山行計画……………山形 歳之 76 74 72

●目次

表紙: 松田敏男「藤原岳のフクジュソウ」(鈴鹿山地)
 ●作者プロフィール●1949年、京都府生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳漫画、山岳誌の執筆多数展開。(京都平安通園、南アルプス山小屋、東京ギャラリー一号、他) 京観山と野に親しむ会代表、日本山岳協会員

新川佳治 別冊 関西の山
 05年3・4月 陽春 第81号

●巻頭言

年が改まるとどうしても年齢のことを考えるようになり、「もう若くはないのだから、きつい山歩きは無理ではないだろうか」などと思うことがあります。近年、北アルプスなどでは中高年の遭難が多くなつたと聞きます。気は若いつもりでも身体は年毎に弱っていきます。まだまだ大丈夫だと思つて出かけ、ちょっとした弾みで転んで捻挫、時には骨折、特に下り道では細心の注意が必要です。 編集や運営に慌しくしていると、なかなか身体機能の向上につながる運動の機会が少なくなりました。このままではいけないと、暇なときは腕立てや腹筋運動をしますが、長続きができません。当会員も平均年齢は60歳位かと思えます。毎日、適度な運動を心がけ、身体を鍛えていけば山登りできる筋肉はまだまだ十分補強できます。要は1年老いたらそれだけ多く運動すればよいわけです。 そして、山を歩くときは80%くらいの力でゆっくり歩きましょう。私も、コースタイムを競うような山歩きはもうできないと思ひ、例会ではスローペースを心がけています。山行前後のストレッチも効果があるようです。

新ハイキング関西(代表 村田 智俊)



猿ヶ馬場山異聞

杉本 増生

飛騨白川郷の合衆集落に小さな祠がある。

祀られているのは、一尺ばかりの古ぼけた石と、数葉の絵馬である。石の面にはへさるつ可^とと彫られているのが辛うじて読みとれる。背後の板壁にかかっている絵馬は、彩色が剥げ落ち焼けただようになっている。あらわになった木目を避けて筆線をぞぞといていくと、浮かび上がってくるのはどれも馬の絵である。

人がしゃがんだほどの祠に戸はなく、冬になれば容赦なく雪が舞い込む。北国の雪は深い。ひと冬、この小さな祠は街道端で雪に埋もれるのである。やがて、春の陽が祠のまわりの雪を解かしはじめる。藁葺屋

根に続いて現れるのは柱にかか
る板切である。古ぼけた柱に比
してこれはまだ新しい。後世の
村人の手になるものであろうが、
それでも風雪に晒されて木肌と
馴染んでしまっている。
板切にはこう墨書されてあ
る。

——ろくささるつか
祠にまつわる言い伝えはこう
である。

六佐の父親は馬方であった。
白川街道を馬を引いて米塩を運
べば、旅の者を乗せて運びもす
る。六佐が14歳の春、父親は組
道から馬もろとも庄川に転落し
た。危うく木の枝に引っかかっ
て命拾いしたが、荷駄を括りつ
けられた馬は、逆巻く雪解水に
流されていった。この日から一
家の家落がはじまった。腰骨を
折った父親は殺つたままとなっ
た。家計は勢い、総領の六佐の
肩にのしかかっていた。身を粉

にして働いても、家族の口を糊
するのに精一杯である。新たに
馬を買うなど及びもつかない。
秋の一日、六佐は山へ入った。
父親が服用する薬草を採るため
だ。採取に夢中になって道に迷
い、山の中で日が暮れた。木の
根を枕に夜明けを待った。月が
昇った。満月である。風もない
のに目の前の草葉がそよんだ。
同時に、忍び音が漏れた。

六佐は目を凝らした。
草葉で子狼がうずくまってい
た。キキキと哀れげな鳴声を
あげ、背中を月光に晒して小刻
みに震わせている。六佐は近寄っ
て手を差し伸べた。子狼はおと
なしく身を委ねた。ぐったりし
ている。両掌に乗せて月光に照
らした。左手の小指と薬指が
付根からなくなり、血が滴り落
ちていた。狼にでも食いちぎら
れたものか。六佐は噛みしだい
た薬草を傷口に当てた。袖を
裂いて包帯代りとした。それか



随想

ら、子狼を懐に入れて木の根方
に戻った。
うとうととまどろんだようだ。
もの気配で目を開いた。月が
中天にかかっている。と思うと、
足もとで鳴き声がした。親狼が
草の上に乗って哀願している。
六佐は懐の子狼を返した。腹に
しがみつかせた子狼をさらに片
腕で庇いながら、親狼はじっと
六佐を見上げた。ついてこい、
と目で促しているのだ。月光を
受けて、澄んだ目がきらきら光っ
ている。六佐は従った。
山毛櫛(フナ)の太木が亭々
と立ち並んでいる。その樹幹の
ひとつひとつを、自分の月影が
通り過ぎていく。思いがけず親
子狼に導かれて、生まれて初め
て夜の深山をたどる。不思議に
恐怖はなく、夢幻の境に遊ぶよ
うな心弾みがある……
樹立が切れて、広々とした草
原に出た。
六佐は恩をのんだ。

多くの馬たちが、尾や鬣を靡
かせて、駆け巡っているのだ。
あるものはたく足で、あるもの
はゆっくりと、思い思いに蹄の
音を響かせている。三頭の馬が
纏れるように旋回している、と
見ていると、一頭がつつと離れ
て、草原の端にそびえる山の方
へと駆け出した。月光を浴び、
金色の矢のようになって斜面を
駆けていく。見る間に頂へと登
り着き、一声嘶くと、後ろ立ち
になった。山の端にかかる月輪
の中に、前脚で虚空を掻く優美
な馬の姿がくっきりと浮かび上
がった。
そして、六佐は見た。鬣にし
がみついて馬の背に跨る一匹の
狼の影を。
気づいてみると、馬の背には
皆、狼が乗っていた。さらには、
草原のあちこちに狼たちが屯し
て何やら興じている。木の実を
肴に酒を酌み交わしているの
だ。

親子狼に促されて、六佐は一
群の宴席に連なっていた。月明かり
の中、草原を駆け巡るけれどもた
ちの情景を愛で、自らも月光に
照らされながら、注がれるまま
狼酒に酔い痴れた。……
うすうすと目を開いた。やさ
しい馬の嘶きを聞いたような気
がする。まだ耳にその響きがあ
地好く残っている。ぐらりと地
面が揺らいだ。今度ははっきり
と目を開いた。朝陽が眩しい。
再び嘶きがやさしく聞こえた。
瞬く目の前に、首をひねってこ
ちらを見つめている馬の、黒く
濡れた瞳があった。
酔い潰れた六佐を乗せて、こ
の若馬は月明かりの山を下り、
今、六佐の家の前にたどり着い
たのである。
六佐は、父親のあとを継いで
馬方になった。性質のおとなし
い馬は、六佐によく馴染んだ。
六佐もまた馬を労りながら、馬
方に精を出した。



数年が過ぎた。荷駄を背に峠道を越える時、馬は喘ぐようになった。手綱を執る六佐が遅しい若者に成長したのとひきかえに、馬は早や老いはじめたのである。

月の明るい晩であった。厩から馬の姿が消えていた。一睡もせず夜を明かした六佐は、懐かしい馬の嘶きを耳にして戸外に飛び出した。

美しい娘が若馬の背に横坐りになり、微笑んでいた。

六佐は、娘を娶った。娘には、左手の小指と薬指がなかった。

新たな若馬と恋女房に恵まれて、六佐は馬方に精を出した。数年が経ち、馬が老いはじめると、馬は満月の晩に姿を消した。今度は六佐も慌てなかった。山の馬場に帰って、老いる身を楽しく暮らすのだと、女房が教えてくれたからである。翌朝になると、新たな若馬の嘶きが、軽やかに地面を打つ蹄の音とともに

に聞こえた。

こうして、幾頭もの馬たちに助けられて、夫婦仲のよい「馬方六佐」の名は、近郷で知らぬ者はないほどになった。

子供らに後を任せ六佐は満月の晩になると、古女房と縁に坐って山を眺める。すると、遙かな山の馬場で、月光に照らされてうち興ずる馬や猿たちの楽しげなさんざめきが、老いた耳に聞こえてくる……

猿ヶ馬場山——飛騨白川郷の東にそびえる。標高1875m。この山に登ろうと思いたったのは、六佐の物語を読み、さるがばんば……その響きに誘われてやまなかつたからである。道はなぬ。登路は雪上に求めねばならぬ。

3月下旬、山に入った。

深雪と吹雪に阻まれ、まる2日間雪と格闘して三分の一も進めなかった。

下山日は快晴だった。

ようやく探し当てた猿塚の祠は、観光客の行き交う往来から引っ込んだ路地に、ひっそりと佇んでいた。小さな藁葺屋根に新雪をのせ、半身は雪に埋もれて、陽光に照らされている。

傍らの雪を踏み固めて腰をおろす。前山へと続く雪尾根が白く輝いている。

さるが、ばんば……

そう呟いて私は、眼前の雪尾根のあなたを透かし見た。月光に照らされて山上の草原にさんざめく、けものたちの情景を想像しながら……

（参考）高山観光協会編「飛騨の昔語り」のうち「さるがばんば」

「北山杉」という言葉——地名を冠した京の特産名称

網本 逸雄

北山杉といえば、京都の北山



随想

にすくくと立ち揃う杉林の風景を誰もが思い描く。川端康成は『古都』（昭和36年）の一節「北山杉」で「じつに、真直ぐ立つ杉で、人の心をこめた手入れが、一目でわかる」と描写している。この作品で北山杉は一躍全国に知られる。「京都府の木」として昭和41年9月に制定された。北山杉は、昔から台杉丸太あるいは北山丸太・北山磨丸太といわれた、杉材の今日の名称である。

北山杉は室町時代から北山地方の民間で生産された特殊な杉材で、植林の技法は応永年間（1394~1428）に始まると伝えられる。この台杉林業は一本の台杉（株杉とも呼ばれる）から数本のまっすぐな支幹を育て、下から枝を切り払い上部だけ葉を繁らせて毛槍のように生育させた後、順次支幹を伐って砂で磨いて利用する。伐採（択伐）することにも萌芽させ次代

の幹を育てて、一本の木から次々と材を得た。伐られた支幹は細くて堅い。この台杉丸太が著名になるのは、茶道の流行にともない、茶室建築の発達する室町中期以降、茶室や書院の軒先の垂木に珍重された。

一方、垂木丸太に対して普通丸太（白杉丸太）も同じ頃から生産され、茶室・書院の柱・桁に用いられた（『日本史大事典』平丸社）。

大正時代頃まで、垂木や柱は台杉方式で枝打ちして生産されたが、陸運流通が発達して、より生産効率の高い一斉更新方式に変わった。この方式は普通に一本の幹を育てるが、やはり枝打ちして梢にわずかに枝葉を残すだけである。今日見るようなすらりとした幹が目立つ一斉林が出来る。枝打ちによって葉量を減少させた北山丸太は元口と末口の直径差が少ない。一代限りの方式なので一代林ともいう。

台杉は垂木生産に受け継がれたが、戦後は衰え、庭木として鑑賞されるようになった（『洛北探訪』淡交社）。

今日、老齢化した株杉の残骸が井ノ口山・片波山・尾越（かつては雲ヶ畑も）など山城・丹波の京都市近接山林の各所に見られる。芽生更新を目的に多数の杉が植林されたことを伝えるものである。

ところで「北山杉」という用語は「北山」と「杉」の合成語である。本誌79号の随想「京都三山の歴史」で地名「北山」の発生時期と変遷に触れた。すなわち、古代から近世まで北山といえは、一般に衣笠から船岡山周辺の洛外の北西部を指した。現代人の感覚からいえば、「北山」は平安京北郊一帯に広がる丘陵、山地と考えがちである。平安京は造営以前の条里地割の水田地帯の中心部に建設さ



随想

り歩きしている。
前述の『日本史大辞典』『世界大百科事典第2版』(平凡社)は同一執筆者でもあるが、「北山杉 室町時代から北山磨丸太の名で知られ」とある。
『洛北探訪』でも「北山杉とそれを育てた北山林業の名が確たるものになったのは、茶室建築に欠かせない床柱に北山杉が用いられたことなどに端を発し、それは必永年間頃であろう」という表現で済ませている。宗政五十緒『京の名所図会を読む』(東京堂出版)は「拾遺都名所図会」(1787年)の解説書だが、原文にない「北山」の項で(原文は「大木を伐として落す因」)、「押絵は「北山杉」を伐採して、川の流れを利用して運搬」と解釈している。ついでに言えば、当時杉だけでなく檜(扁柏)・榎・松・竹などを筏にして流した(『京都府誌』)。

坂本喜代蔵「北山杉の今昔と

れた。岩倉・松ヶ崎・嵯峨などに今も条里地名や地割遺構が残る。だが、京都盆地の北西側や東部の縁辺部には、傾斜のきつい一段と高い台地が存在し、水田化から取り残された「野」があった。「北野」「連台野」などがそうである。「野」には天皇・貴族の狩猟場や葬送地、寺院・別業が営まれ、森林に覆われた起伏のある原野を「山」ともいったことが古文獻から伺われる。

明治期でも「岩倉村大宮村廣峰村にも北山の名あれどその顯著なるは金閣寺」(吉田東伍「大日本地名辞書」周辺)だった。

したがって、今日北山杉生産の中心地である北区中川や周辺の山地は、近代以前は北山と呼ばなかった。「北区中川北山町」という町名があるが、昭和23年に成立した町名である。つまり、「北山杉」という言葉そのものは近代以前には存在しないので、

近世までの台杉丸太に対して地名「北山」を冠するのは当を得ないことになる。

台杉生産は室町期から始まる京の特産なので、山城国の産物としてその名称が諸文獻に残る。

俳書『毛吹草』(1645年)に季語、諸国物産などが載るが「山城」では「杉丸太」、「丹波」では「山国相丸太」是を嵯峨に出す故にサガ丸太とも云」とあり。百科事典『和漢三才図会』(1712年)に「丹波国土産 杉丸太」、「山城志」(1736年)の「葛野郡 土産」に「杉 丹州山中より下して嵯峨に運び貯える。是を嵯峨材木という」。見るように近世は、「北山」を冠した杉材の名称は見当たらない。ただ、庶民教育の心学書『鳩翁道話』(1835年)に、茶道方式の雪隠を建てるとの「北山の入節をつかひ」

古建築」(大日本山林会)は、北山林業の研究書として力作だが、室町期以後の沿革史を叙述するのには「北山」「北山台杉」という言葉自体を検討しないで繰り返して用いている。

以上見るように、昨今の北山杉に関する出版物は、キーワードそのものの成立時期・変遷等の歴史検討が不十分なまま使用されていることが多い。

クマの話

長坂 文男

昨年の夏から秋にかけてクマが人里に下りてくる、いわゆる異常出没で、毎日のようにテレビや新聞紙上を賑わしたことは記憶に新しい。

昨年は異常気象で、記録的猛暑や豪雨、相次ぐ台風の上陸のため、大好物のドンブリやブナ

とある。入節とは枝打ちして節が躰のように内部にへこんだ丸太をいう。

明治10年代の『京都府地誌』では中川村の項で物産として杉をあげ、「北山丸太と称す、木理(木目)極めて美」と注している。年間杉一万三千本を京版地域に搬出した。明治44年初版の『愛宕郡誌』は「名産 北山丸太 又は洗ひ丸太と称えて茶人数寄屋等の材料として著名なり雲ヶ畑諸村より産出す」とし、「京都府誌」(大正4年)にも「林業―台杉作業」の項で「北山丸太(方言白杉丸太)は書院或は茶室の柱又は桁用に供し、垂木丸太(方言カイフ)は軒先の垂木天井用に用ふ」とあり、明治以降「北山丸太」という用語が登場する。

だが、作品『古都』以来、とてもよいだろうが、「北山杉」が辞書・歴史書や林業書でひと

の実などの堅果類がほとんど落下し、餌不足で人里に下りてきたと思われ。

近畿地方でも、京都府北部や滋賀県北部、吉野・大峰・紀伊半島南部といった本来の生息地域のほか、大阪府北部の能勢や南部の泉南地域でも目撃情報が続いた。

私がかこ数年よく歩いている高野山周辺では、平成13年頃に目撃情報が相次ぎ、「クマ出没注意」の標識がそこかしこに立てられ、現在も町石道の矢立や大門脇、高野山ケーブルの高野山駅から女人堂間のバス専用道路脇、国道370号の高野トンネルの南側、七霞山から彦谷・行者へくだる林道脇などに標識が残っている。

私がグループで、クマの生息地域の京都府北部の芦生演習林や八ヶ峰を歩いたとき、その存在は頭の片隅にあるに過ぎなかった。元米腹病で人を恐れる動物



であり、大勢の人に出会ったら慌てふためて逃げるだろうなと、出合いを期待する気持ちさえあった。

しかし単独行の場合は正反対で、なるべくなら出合いにたくない。単独行はコース間違えによる迷いや事故の可能性があり、そのうえ余計なリスクを背負いたくないからである。

私がクマに遭遇したのはただ一度だけ、9年前の秋、比良山系の武奈ヶ岳山頂のやや北から北西にのびる支線を、安曇川沿いの細川から登ったときのことである。ブナ・ミズナラ・コナラ・カエデなどが繁る標高970付近で、あたりはすばらしい黄葉・紅葉に染まっていた。いきなり目の前で「ガオー」という地鳴りのような唸り声が出てビックリ仰天、頭の中が真っ白になる。「クマだ!」と思っただ瞬間、一目散に登ってきた山道を一気に駆け下り、林道に出

たときは放心状態であった。

今思えばお恥ずかしい話で、クマやイヌなどの食肉目(ネコ目)の動物は、背を向けて逃げたものを追いかける習性があり、出会ったときの対処方法として、最低のことをしてしまつた。

ゆっくり後ずさりし、相手が見えなくなったところで静かに立ち去るようにすればよかったが、当時はクマに対する知識が決定的に欠如していた。後で思い返すと、植林地を抜け出た所で、黒土の山道に不鮮明な大きな足跡を見たが気にもとめず、結果的にクマを追うような形で山道を登り続け、威嚇されたこととなる。

その後しばらくはトラウマ(精神的外傷)で、ササが風に揺れる微かな音を聞いてもビクッとなったものである。現在は単独でクマの生息地域の山に登るときは、クマ避けの鈴をザックにぶら下げるように心掛け、目

撃情報があるときは、場合によってはアメリカ製のクマ撃退スプレーを携行することもある。

『山でクマにあう方法』(采田一彦著)を読むと、クマ研究家の著者がクマに襲われ、スプレーを使用してクマを撃退する生々しい場面が描かれている。有効性は実証されているが、しかし有効噴射距離5以内で、向かってきたクマの顔面に、確実にヒットできる冷静さを持ち合わせているかとなると、いささか心もとない。

クマに出会ったときの対処方法は、多くの本にさまざまな方法が示されているが、定まった方法はなく、ケースバイケースで対処するよりほかなさそうである。しかし基本はただ一つ、難しいことではあるが、出会ったときにどれだけ冷静さを保てるかにかかっていると思う。

それぞれの四季の花巡り

ポンポン山の自然

田中 明

京都西山

昨春をもって晴れて雇われの身から解放された。待望の自由人、「さては時間始末や如何に」と家族の心配をよそに、当の本人はとっくの昔にその手法を決めていた。

ソフトランディングなる言葉も10年以上前から仕入れていたため、「自から將來は之にしかあらず、山歩きが相当なり」ましてや山野草の楽しさも身につけたことでもあり、行き先の山のことから花の楽しみ方等、その極意までもと、一人で結論づけているのを喋々と論ずる姿に、家族は「好きにしたら」と呆れ顔。そう、私のこれからは、山をお花をと、そのお付き合いである。

深い思慮など微塵もなく、極めて軽率な調子で始めたのだが、1年を通して25回も足を運んだポンポン山の自然を紹介することにす。

先人から能書は筆を扱はずとの理(ことわり)もある、私は筆を扱んでもこの文のお粗末さをお許しいただき、ご笑談いただくこととしよう。

(早春)

春一番のお花といえは、ここポンポン山では何といつてもそれはキンポウゲ科のフクジュソウである。

あのきらびやかな花びらに見える萼片の輝きは、まさに春を呼ぶスプリングエ

フクジュソウ



フェメラルの名に恥じない美しきで、これまでの大群落が近年やや淋しくなつたとはいえ、まだまだ見応え十分である。

昨今、群落減少を見かねた「乙訓自然を守る会」が主体となつて行った、遺跡路やそのためのローピングは興ざめ遺跡千万とはいえず、年々お花が少なくなる現状からは、止むをえない措置ではなからうか。



ヤマシロネコノメソウ

フクジュソウと相前後して、負けないくらい燦然と輝くのは、コガネコノメソウといわれるその変種である。ここではユキノシタ科ヤマシロネコノメソウと命名され、'99年に東京都立大学の植物学者が発表して以来一躍脚光をあび、誇らしげに咲き誇っている。

ヤマシロネコノメソウの同定ポイント、鮮黄色で四角状の直立する萼片より雄しべが突き出るところで、あたりより黄金を撒き散らしたかのように小川の邊を輝き埋める様は筆舌に尽くしがたい。ネコノメソウ属はこれだけではない。

ネコノメソウ・ヤマネコノメソウ・タチネコノメソウはどこにでも普通に会える。雄しべの先は花粉をつくる葯といわれ、その葯が暗赤色でひと際目立つニッコウネコノメでも、小群落が随所に見られるのもうれしい限りである。

画蛇添足ながら、ヤマシロネコノメソウは京都府の準絶滅危惧種に指定されている。これらの希少種が、心無い山歩きによって「落花枝に返らず」とならぬよう、更なる配慮が望まれる。

早春にはどなたにも人気のある、いわゆる山野草の女王ユリ科のカタクリが、北向き斜面に一斉に花を開かせる。その一帯も多くの人たちがどっと押し寄せるために山肌が痛み、見るも無残な状態となって出入りを制限せざるをえない昨今である。

京都西山のおおかたのカタクリ観察は幸か不幸か、隣の小塩山に譲ることとなり、ポンポン山ではやや平らな場所ですじんまりと楽しめるようになっていいる。この淡紅紫色の花被片は大ぶりです。以上は十分あり、曇りがりに出会うと陽光にきらきら輝き、見事な妖精ぶりを發揮してくれる。

花好きな人にはことのほか人気のあるキンポウゲ科のトウゴクサバノオは沢沿いを好む。花弁状の萼片は淡黄白色を帯びる6〜8片のお花で、その中に黄色い軍配形の五個の花弁を持つ小さなもの。草丈10〜20cmの小さな小さな数あるシロカネソウ属の一つでもある。

植物の名は発見者の名であったり、最初に見られた地域名であったりと複雑さわまりないが、このお花の和名は、果実二個が水平に広がってサバの尾のようになり、日本の東の方まで分布することからのものである。

このお花と向かいながら、まるで協奏曲のような水面を打つ音をBGMに、ループの世界に没り、マクロで超接写をきかせての沢筋でのデジ遊びは、何と幸せなひとときだろう。我を忘れて時が流れる。

早春の仲間たちは他に、セントウソウ・ユリワサビ・ツルカノコソウ・マルバコロンソウ・アオハコベ、もちろんシハイスミレなど数種のスミレたち。ケシ科のキンキエンゴサクなど、とても書き記せないほどの夥しい植物たちが見られる。春のこの山域は実に植生豊かな里山とい

えるであろう。

(初夏)

そろそろ暑くなってきて人気がない山を登ると、つづら折れの小道が続く。一汗かいて、頂上から谷筋をくだればそこには小枝をさらさら洗うせせらぎの音、水は静寂のなかのハーモニー。心ときめく一番のお気に入りの散策路である。木々の緑が急に色濃くなってくる頃、二本の可憐な花穂を立ち上げた姿に、通り過ぎがたいのはフタリシズカ。踊りがうまく気品の高い京都六条堀川亭の白拍



トウゴクサバノオ

子、上品な静御前のイメージと図鑑は教えている。

夏至の声を聞く頃、稜線道にササがのび出すと、背が高い薄ピンクの大輪のササユリが見られる。あたりにほんのりと香りを漂わせ、姿もやさしく優雅そのものである。

このお花の人気も半端ではない。あまりに可憐で目立ち過ぎることから心無い人に盗掘され、その数は激減一方の種でもある。私が知る限りこの傾向は早春のジュンランと全く同じ道を歩んでいるようだ。美しさゆえの悲しさであろう。

初夏から真夏までの季節もこの山では草花は多彩だ。5月後半から6月にかけては樹木が一年のなかで一番華やかな時を迎えるのではないだろうか。

夏草がのびた沢筋には、薄ピンクのお花が目立つ。タニウツギである。房状の薄紅色が華を運んでくれるように思える。ウツギと名乗る樹木にはその他、コゴメウツギ・コックバネウツギ・ツクバネウツギ、さらには三小葉のミツバウツギなどが多彩に華やかさを披露してくれている。

スイカズラ科の仲間たちも賑やかであ

る。ガズミ・コバノガズミ・ゴマギ・ムシカリ、それに忘れてならないお花、純白のヤブアマリはそのなかでも女王であらう。いち早く咲いて目立ち、両性花のまわりに直径4cmほどの大きな装飾花が平開し、眩いほどの白さをあたりへ派手に披露してくれる。

バラ科のなかでも個体数が多いカマツカもよく目につく。花弁1枚の白花を20個近くも固め、複数房花序として庭木にも使われるほどの樹木である。

ツツジ類も多く、ヤマツツジの他にモチツツジ・コバノミツバツツジが咲き、これらの仲間のネジキの花は一列に並んで下向きに咲き、遠目には枝全体が白く見えるほどである。

ナツハゼ・ソコゴ・イボタノキ・エゴノキなども可愛いお花をつけるが、まだまだ書き足りないのが残念である。

(初秋)

真夏の前から林中一帯を鮮やかなオレンジ色に染めあげているのはオオキツネノカミソリだ。訪れた時、夕日を受けてまるであたり一面が燃え立つような景色だった。

郵船トラベル・ハイキングツアー25周年イベント
今井通子先生 講演会「スイスを歩こう、山歩きと健康」

事前予約制

医師で登山家の今井通子先生が、山を歩くこと、ハイキングすることの健康への効果を、医師の立場から講演します。歩くことの楽しさ、山に親しむことの楽しさ、そして歩くことの健康促進への大いなる効果をわかりやすく語っていただきます。今回は英語家の香風亭正朝師匠、師匠の軽妙なトークとともに、楽しくてためになるひとときをお過ごし下さい。

【日時/会場】
3月29日(火) ホテルオークラ神戸 (JR神戸線・阪神電車 元町駅から徒歩10分)
18時開場 ※定員400名。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

【プログラム】

◎今井通子先生の講演 「スイスを歩こう、山歩きと健康」
◎香風亭正朝師匠のお話
◎弊社スイスアルプスハイキングツアーのご紹介 ◎お楽しみ抽選
入場無料ですが、事前申込みが必要です。(入場券が必要です)
ご希望の方はまずはお電話をお願いします。



日帰りハイキング講習会のお誘い

事前予約制

スイスアルプスハイキングの山岳ガイドでおなじみの中島政男氏のハイキング講習会。山歩きの基本が歩きながら身につきます。参加費は無料です。参加希望の方は下記のフリーダイヤルまで・・・

日時:4月6日(水)
集合場所:京阪鶴堂線「出町柳」改札口前
集合時間:09時30分
コース:比叡山(848.3メートル)
(歩行時間:約5時間10分)
出町柳→叡山電鉄/修学院駅→雲母坂登山口→
→水敷対峙の峠→千種寺領→比叡山頂上→
→根本中堂→竜堂→花園宮跡→日吉大社→
→東塔本坂下山口→京阪石山坂本線「坂本」駅→
→JR西線「比叡山坂本」駅



中島です。
私がお待ちしております!

郵船トラベル株式会社 711-ダイヤル:0120-819-215

大阪 〒541-0053 大阪市中央区本町3-2-6 7-11-本町ビル7階
TEL:06-6251-9143 FAX:06-6251-9190 e-mail:kob@ytk.co.jp
神戸 〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-2-18 郵船航空福本ビル
TEL:078-251-7611 FAX:078-230-6488 e-mail:kko@ytk.co.jp
ホームページ: http://www.ytk.co.jp

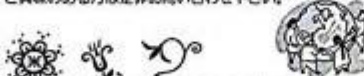
2005年6~9月
スイスアルプスハイキング
パンフレット出来ました!

スイスアルプスハイキングツアーは、おかげさまで25周年! 「ありがとう!」の気持ちを込めて通常のコースの他に25周年記念コースも企画しました。

まずはパンフレットをご請求ください。
説明会も随時実施中!

2005年これからのハイキング商品

次回のハイキング商品の発表は2月下旬です。現在カナダハイキング、九寨溝ハイキングを企画中! ご興味のある方は是非お問い合わせ下さい。



「やっと出会えました」の声に振り向くと、古老がにこやかな顔で近づいて来られた。あゝこの人もお花が好きなんだ。そのお年でここまで踏み込もうとすれば大変だったろうに、同情の顔を伏せてそっとうなずいた。

キツネノカミソリとの違いは、雌雄のしべが花冠より外へ長く突き出ているのがポイントであろう。

暑さもまだまだ残っているが、ジャコウソウが生い茂る夏草に負けじと草丈をのばし、葉にも茎にも毛をつけて紅紫色の唇形花をあたかも通りかかると「見てよ」と呼び込んでいるようだ。このお花も、茎葉をゆすると麝香のようなよい香りがするといわれるが果してどうだろうか。もっとももっと増えてくれるといいなと思いつつ楽しんでる。

弱々しい地味なお花はゴマノハグサ科ヒナノウスツボだ。花冠は7~9mmの暗紫色で目を皿のようにしていないと通り過ぎてしまう。

茎の高さが1mを超すナベナが可愛い。多数が集まって球状の頭花で2cmほどの淡紅紫色が見た目はとても可憐だが、緑色の刺も用意しているから手は出せない。

花期を終えてもそのままの姿で晩秋まで立ち枯れ、えも言われぬ風情をかもし出しているのには意味があるのだろうか。このお花はアルプスなどで感動させられるマツムシソウと同じ科のようだ。さすがに可憐さがうなずける。

もちろん、ポンポン山では秋の七草すべてが観察可能だ。ちなみに私はその七種を「お好きな服は」と容易な覚え方を薦めている。

ジンジソウ・アケボノソウ・キチジョウソウなど、春に負けず劣らずと多くの野草が秋にも見られるのである。

〔初冬〕

アキノタムラソウ・サワヒヨドリやイナカギク・ノコンギク・ヨメナなどの野草たちが短い秋を終え、樹木の果実たちが赤や黒や瑠璃色の実を付ける頃ともなると、ポンポン山にも足早に冬がやってくる。

寒さに暖かくなる頃、山では白い雄しべを二個のばしたヒイラギがあたりにより香りをまいている。樹林は葉を落とした姿ばかりが立ち並ぶ。

年を越すまでに白化粧することもある

のだが、この山では近年びっくりするほどの雪はないようだ。もっともどちらの山でも同じ暖冬傾向だろうが、これも人様の身勝手な生き様の報いで、結果的に災害などに繋がっているのだろう。

さてポンポン山の四季の自然を見てきたが、つい先日、山道に春の草が萌え出し、楽しい夢も覚めぬうちに、ポンポン山頂上のイソノキが静かに葉を落として冬の気配が忍び寄ってきた。

まだまだ植生豊かな自然を目の当たりにして、次の世代にこのすばらしい自然を引き継ぐため、自らは何をすべきか、「一年の好景、君須らく記すべし」の言葉を胸に自問自答を繰り返していくことであろう。

*03年9月から壱ヶ谷への入山は京都市への届出と結果報告が必要である。新ハイの皆様方もルールとマナーをお守りいただくようご理解の程よろしくお願いたします。

ポンポン山壱ヶ谷入山届出先及び報告先
京都市建設局水と緑環境部緑地管理課
TEL 075(222)3586
FAX 075(212)8704

深山幽谷の熊野を歩く

大塔山

「日本歴史地名辞典」によれば、「熊野」とは深山幽谷の樹木の生い茂った地をいうとある。和歌山県南部から三重県南部にかけての、旧紀伊国牟婁郡一帯を指す広域地名でもある。現在の西牟婁郡大塔村の奥地に広がる大塔山系は、熊野の名にふさわしい深山幽谷にいだかれた山地を形成している。

近畿道の吹田入口を5時に通り、約東の5時半に八尾で友人を拾い、阪和道を南部で降りる。この日の山行目的は大塔山。前年に法師山や半作嶺に登った時は御坊までだった阪和道が、南部までのびたので登山口まで時間短縮できた。南部からの海岸沿いの道には熱帯産の

木村太郎

南紀

常緑高木が植えられ、南国らしい景観である。この道は、熊野詣でが盛んな頃に熊野那智大社・熊野速玉大社へ歩かれた大辺路に当たる。田辺から熊野本宮大社へ向かう中辺路へ折れ、富田川沿いに大塔村に入り、富里温泉の近くで安川渓谷への林道を目指す。

半作峠に通じる橋を右手に見て集落を抜け、安川渓谷に進む。無数のササユリが道辺に咲いていた去年夏の安川渓谷の風景が思い出された。宗小屋谷橋を過ぎて大塔林道と分かれ、法師山登山口の吊り橋が架かる大岩あたりからダートに変わった。去年は大杉トンネルの工事で、大塔林



大塔山付近略図

から大塔山へ登る計画である。安川林道中間あたりのヤイチ谷出合から登れば、周囲コースがとれるが、841峰と一ノ森の間に数ヶ所のギャップがある。安川林道終点から905峰への支尾根に取り付き、一ノ森経由でピストンすれば、最も短時間で大塔山をピークハントできると考えた。

林道終点という思いから奥へ奥へと未舗装路に四駆を走らせる。幅広の谷に大きな鉄板がかぶせてある橋を乗り越え、

短いが急勾配の坂地へ乗り上げて行くと軟土質の道になる。これ以上は走行できない感じがしたので、林道端に四駆を乗り捨てる。

林道の最奥に堰堤が見えている。登山靴に履き替え堰堤の右岸を登り始めるが、すぐに道が無くなる。引き返し周りを探し回ると、堰堤手前の沢下流の小木にリボンを見つけた。登山口に達しないものと判断し、踏み跡薄い溜沢をジグザグに登って行く。ほどなく道がはっきりした植林帯の支尾根に入る。

植林に囲まれ薄暗い歩きやすい道が続く。道標にもテープにも出合わないの、いやな胸騒ぎを覚える。南東に歩いてきたが少し南寄り山道が曲がり出した。「登山道でない袖道に登っている」と、同行の信田さんが言い出した。とにかく多少の誤差はあっても、方角は大塔山と法師山との縦走路に突き当たると確認し合い、前進することにした。

大塔山ケルンと指導標



道は宗小屋谷橋に通行止めゲートがあった。「中部関西山岳林道コース」を著した安細純太郎氏は大塔林道を、V字形の大峽谷を通るすばらしい林道と紹介している。本宮町川湯方面へ一度走り抜けてみたいが、まだ機会がない。大杉トンネルを過ぎたあたりには、北からの大塔山弘法杉登山口への林道がある。だがこの日は、安川林道終点の登山口

◆ウォーキング W◆
2気室切替式短期縦走モデル

☆321☆
カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ

- 重量 1550g
- 素材 高強度ナイロン
- 価格 ¥15,000

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

・両面ジッパー付き小ポケット
・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を変えることが出来る、ザックの型くずれを防ぎます。

・左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付
・内部の仕切りフラップの開閉により1~2気室に切り替えて使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。

イモック山遊行くらぶ
春夏秋冬、シーズンを気にせず
嵐山、低山、名山を訪ねます。
詳細はお問い合わせ下さい。

イモックと
神んで下さい!

IMOCK.
KOBE

〒653-0020 神戸市東灘区日吉町3丁目1番30号
カナソビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00~20:00 日曜日不定休

★ザックのカラーが改正版が発表しました。

明るい尾根上に飛び出したが、そこにも道標はない。もし帰りに同じ道を引き返すとき、目印が無ければ行き過ぎそうである。尾根上に立つ大木と下山道の近くにあらかじめ用意してきたリボン結び付け。縦走路を北東にとってなお進んで行く。小さなコブに出てやっとなお進んで行く。法師山と大塔山を矢印で結んだ木標を見つけて安堵する。

道分かれするジャンクションピークでなく縦走路途中のコブなので、905峰峰でないことは確かだ。予定のコースよりも稜線の南寄りだったので、かなり大廻りしていることに気がついた。登って来た側は植林帯だが、反対側は気持ちのいい自然林だ。尾根を突き進むと突然目の前に急峻な壁が立ちはだかる。

岩登りに長けた信田さんが先になり、樹木と岩の割れ目を手掛かりに登ってくれた。上から信田さんが大声で、「捲き道がないか」と聞いてきた。登山道とは思えない急角度の岩場を乗り越えようと道はゆるんだ。帰りに通りたいくない岩場を後に、稜線上を楽しく行くと、コブが現れた。

コブに上ると木の幹に木標が打ち付け

方面からのサブコースにリボンを付けに来たようだった。

大塔山の古い山名標示板が新しいものに取り替えられた。近畿南部の山頂でよく目にする、ふくろうの絵が入った標示板である。後日譚だが、二週間後(3月27日)に果無山脈の冷水山を歩いた時に「紀州わらじの会」メンバー3人に出会った。奇遇にもその中に植木さんという女性が出て、この日大塔山に来ていたメンバーの1人だった。

北は熊野本宮、東は熊野新宮、南は古座川町、西は大塔村という方位指導標が山頂に立ててある。古座川・大塔川・日置川源流の山でもある、深山幽谷の大塔



くんだり着いた大塔山登山口

てあり、やっと思望の905峰に着いた。左手に登山道の分岐を見つけ、間違いないジャンクションピークだと確認できた。遅れを取り戻そうと少し急ぎ足で急坂になった自然林の道を登り切ると一の森に着いた。

大塔山について「紀伊統風土記」は、双峰高くそびえ緩根延びて熊野の鎮山というべしと記述している。つまり大塔山は、二ノ森の本峰と北隣の一ノ森との、双峰を合わせたの山名なのである。それゆえ今回は古座川町側から登らずに大塔村から入り、双峰を踏む形で登頂することにしたので。

大塔の由来である大和という、一ノ森からたわわな尾根を鞍部までくだり、登り返すと二ノ森の大塔山(1122m)の山頂である。ケルンが積み上げられた3等三角点の頂上部の周りはブナの原生林である。男性の先客が一人で休息をとっていた。尋ねると神戸から来た人で、ぼくたちと同じ安川林道終点から登って来たと言う。

置き車があったので、先行者がいるはずなのに、だれも山頂にいないので不審に思っていたと言う。聞けば30分程前に

山に別れを惜しんで下山にかかる。先に出発した神戸からの登山者は、841峰を踏んで下山すると言っていた。ぼくたちは905峰までは登りと同じ道である。

登山口を間違えたために、ぼくたちも予定にない周囲コースをとることができた。往路で確認していた905峰から分岐する道をくだる。尾根はやせており樹木も疎らで北面の視界が開ける。いま通って来た一ノ森の盛り上がり左側遠くに、美しい山脈稜線が広がりを見せている。

大声で「果無山脈だ!」と信田さんが知らせた。ぼくは無言でうなずき、空と隙とを鮮やかにくぐるマウンテンラインの美しさに陶然としていた。必ず近いうちに、あの果無山脈の一角に立ち、大塔山系を眺めてみようと思った。

林道終点の正規の登山口は四駆を乗り捨てた直前の、谷に鉄板の橋を渡した所であった。清流が落ちてくる谷間の左岸から支尾根に取り付く細い道が付いていた。よほど気をつけて探さなければ見落としてしまう、大塔山登山口という小さな木標があった。

登頂したと言う。つまりそれだけ余分の時間を費し、遠廻りして大塔山にたどり着いたわけである。

山頂で憩いの時を過ごしていると、北尾根からも1人の男性が登って来た。大塔林道の弘法杉道のゲート前に車を置いて登って来たらしい。神奈川県から和歌山へ仕事で来ているが、休日を有意義に過ごそうと紀州の山を訪れたと言う。周囲に広がる重畳たる熊野の山並を眺め、丹沢よりも山深く景観がすばらしいと感嘆しきりだった。

関西の山に馴染みがないという話だったので、東方の大雲取や那智山、西方の法師山や半作嶺など、自分でわかる範囲で山名を告げた。特に「乙女の寝顔」という愛称の半作嶺に興味をいだかれたようだった。可愛い愛称とは不似合いなほど、半作嶺は荒々しい岩石質の頂きだったと、去年登ったときの様子を話した。

古座川町側からは10数人のグループが登って来た。両手には木杭を持ち、多くのリボンや腰に結わえているリーダーらしき人に聞いてみた。「紀州わらじの会」のメンバーで、よく歩かれていたポピュラーな大塔橋からの道ではなく、崩ノ川

登山口は林道終点というガイドの一文が頭にこびりつき、堰堤へと付けられた補助的な道を林道の続きだと錯覚して進んだわけだ。ともあれ無事に登頂が果せたので、よき相棒の信田さんに感謝するばかりである。

話は変わるが、アララギ派の歌人土屋文明は、熊野への旅を八度も行っている。熊野三山詣ではもとより、大雲取越えや小雲取越えなどの熊野古道の難所も踏破しており、愛してやまない熊野を題材にした短歌は二七九首もある。

熊野八たび二たび君と共にしき
中辺路の山中辺路の川
作中の君とは、二度旅行を共にした歌友斎藤茂吉のことである。深山幽谷の熊野山地は、いつの時代にも旅人にとりこにする魅力に満ちた山域なのである。

(平成16年3月14日歩く)

▲コースタイム▼

安川林道最奥登山口(55分)縦走路出合(30分)905峰(30分)一ノ森(35分)大塔山二ノ森(25分)一ノ森(20分)905峰(50分)安川林道終点登山口
△地形図V2万5千1木守

鶴川から山頂を経て北小松ヒルへ

牛山とトビ岩

比良

小山誠次

平成16年6月19日は、前日の天気予報によれば、大型で非常に強い台風6号の北上に伴って暖かい湿った空気が流れ込むため、全国的に雨・強風・雷とのことだった。したがって、比良山行を諦めざるをえなかった。

しかし、19日早朝の京都市内は、曇天とはいえず、雨の気配はなさそう、滋賀県の降水確率は午前中0割、午後になって10割と好転していた。そこで、急ぎよ、かねてからの計画を実行すべく、京都駅8時14分発のJR湖西レジャー1号でいそいそと出かけた。こうなるのだったら、前夜は1時半まで机に向かうのでなく、もっと早く寝るべきだった。

比良山系に近づくと、折立山の山容は辛うじてわかるものの、権現山は雲のなかであった。蓬萊駅を通過する頃でも、蓬萊山・打見山山頂は全く見え、また秀麗な堂講岳の山頂も隠れてしまっている。

さて、予定通り北小松駅で下車した。実は以前から湖西線に乗っていて、北小松駅を過ぎると、左手に牛山からの稜線がトビ岩で突出した後は、その稜線が湖西線と平行に鶴川までなだらかにくだっているのを常に目にしてきた。この稜線の傾斜程度ならば、やぶ漕ぎしても登高できるはずだという思いがあり、それを本日実行に移すことにしたのだ。

(写真1) 湖西線越えに見る牛山とトビ岩



北小松駅を8時51分に出発して、湖西線と国道161号線との間の舗装路を北東に向かう。湖西線越しに牛山とトビ岩の写真(写真1)を撮る。その後湖西線は短いトンネルに入る。そのまま舗装路を行くと、国道161号線の歩道になっていくと、左手に小さな地藏堂があり、石柱には「岩除地藏尊」と刻まれている。山行の無事を祈った後、湖西線がヨロ

イ岩のトンネルから抜け出るのを左手に確認して、そこから二つ目の農道をたどる。この道は国道161号線からは左斜めに少し登りの道で、やがて湖西線のガード下を滑ることになる。

付近の水田の稲は高さ15センチ程のび、見れば大小二種類の異なったオタマジャクシが所狭しとひしめき合っていて、その様子にししばし見入った。



さて、農道は最初の送電線の下を通り、二本目の送電線の下を滑る頃から少し鬱蒼とした樹林のなかの道となり、途中で左斜め前方に三本目の送電線の鉄塔への道が開けている。ここまで来れば、右手すぐに鶴川が流れているはずである。

ここから本番である。準備して9時33分出発。鉄塔に達すると、稜線と平行に小さな道が南西方向に続いている。これを少したどり、右手やぶのなかの踏み込みやすそうな場所を選んで登って行く。要は、稜線を頭に思い描いてそれにのっかって行くだけである。

本日のコースは、登高途上で常に湖西線の電車の通過音がよく聞こえる。7月11日の参議院議員選挙の立候補者の呼び声もよく聞こえていた。考えてみれば、事前運動か。出発開始後20分余りすると、稜線上に踏み跡とおぼしきものに出合った。これが登る方向にもくだる方向にも繋がっているの、これをたどって行くことにしたが、あまり明瞭な踏み跡ではない。ただし、稜線さえ外さなければ、あえて踏み跡を追求しなくとも、登高しやすいルートを独自に判断して行った。

雨ではないものの、台風接近のためか曇天で青空は全く望めず、おまけに全体に湿度と温度が高くて咽がよく乾く。飲水のための休憩がいつもより多い。

さて、昭文社の「比良山系」地図上、標高330m付近に露岩が描かれているが、実際そのすぐ左側は急な切れ込みになっており、露岩の隙間を抜けて稜線が続くので、登路もそれに従う。

間もなく「北小松区有林」の札が木に括り付けられていて、裏には「H13、11/24」と書かれているそばを通りかかった。同じ札はこれからもしばしば見かけることになる。本日下山路に予定している滝山から北小松ヒルに到る道でも、同じ札をよく見かけた。実はこの札に出合う頃から、道はしばらくの間大変歩きやすくなったので、やぶ漕ぎをする必要がなかった。両側はシキミとヒサカキの低木が並び、枯れ葉が堆積した滑りやすい道を登って行く。



(写真2) 牛山山頂



(写真3) 滝山からの下山路との出合

せない。

実は本日、牛山登頂の前にトビ岩に寄って行こうと考えていたのであるが、高度計があまり役に立たないので、標高からトビ岩の位置を割り出すことができそうになかった。やむをえず、牛山直登だけを目標に据えることとし、このルートからのトビ岩到達は後日の課題とした。

もうすぐ牛山山頂と思われる頃から、再びやぶ漕ぎ道に戻った。否、道はない。こうなれば、磁石と見渡せる限りにおいての稜線上の最高地点の確認によるのみである。幸い、雨が降ってこないことだけが救いであった。見れば、斜面の枯れ葉に半分隠れながら、小さなツルアリドオンシが可愛らしい楚々とした二つの白い花を咲かせているので、カメラに収めた。

11時35分、牛山山頂に到着した。山頂に三角点はなく、566㍎の標高点標石が埋設してある(写真2)。しかし、周囲は全く展望がなく、単にやぶ山の頂点というにすぎない。確認のため、高度計を見ると630㍎を指している、気圧の変化は乱高下であることを示している。改めて標高点にセットし直した。

筆者は実のところ、牛山登山は今回が初めてである。地図上では、牛山の西方に直線上で500㍎ほど尾根が続いているが、なにぶんやぶだらけであり、磁石を頼りに進むほかはなかった。

予定としては、牛山山頂より高くなるコブの手前でほぼ南にくんだり、滝山からの北小松ヒルへの下山路に出合うことである。

牛山山頂から西方には踏み跡やテープが時に出現するが、なにぶん連続してないので、ちょっと追跡してもすぐに不透明となってしまう。うっかりすると、尾根を外しそうになるので、予定地までは平坦な尾根をたどることに専念した。山頂から出発後、間もなく最初のコブを通過したが、さすがに全く展望のきかない初めてのやぶ山の中では、進路の選択に難渋した。もし、ある程度試行錯誤しても予定通り到達しなければ、引き返すことも覚悟していた。

そのまましばらく進むと、標高566㍎よりやや高い二つ目のコブに到達した。その手前でほぼ南向きに進路をとり、以後は一種のストレート・ウォークを意識して行動した。12時20分尾根上のやや南

斜面上に湿地を見出した。名前が付いているかどうかは知らないが、その湿地の西側に沿ってさらにはぼ南に進むと、小さな沢の広い源頭にやって来た。

そこで、この沢に沿ってなおもくだると、12時35分無事に滝山からの下山路に出合った(写真3)。このときは正直なところ、内心大いに安堵していっぺんに気が抜けてしまった。

久々の緊張感を味わった後なので、昼食はゆっくりととることとした。ここから15㍎ほど先にはこの沢が流れ込む本流との出合があり、小鳥が水浴びを楽しんでいる。見れば、木の枝に「ひるめし広場」と書いた布が結んであるではないか。



(写真4) トビ岩に立ってより長く約40分間の昼食タイムを心底楽しんで。後は北小松ヒルに下山するだけとなった。

で、見覚えのある下山路をたどることとした。途中、ちょっと寄り道をしているとき、さほど遠くない距離で「キヤー」という猿の鳴き声に似た音を聞いたので、しばらく立ち止まっていると、若い男女3人組が下山して来た。彼らの発した声だった。聞けば、目印のテープが途切れがちで不安だとのこと。この道でいいむねを話し、先に行くことを告げた。

本日は新しく買った登山靴の二回目の着用だが、前の靴と比べて、足底の感触が石コロだらけの道で特に勝っているようだ。その反面、靴擦れにはまだ要注意である。

13時52分に北小松ヒル到着。後はアスファルト道をのんびりと歩き、いつもの生権茸の直売所に立ち寄り、今晚のおつまみを買って求めた。14時9分北小松駅に到着し、14時28分発の新快速で京都に戻った。帰路では比良山系の山並が頂上までくっきりと見えていたのが嬉しかった。

尚、同年11月21日、本コースの稜線をたどってトビ岩に達した(写真4)。牛山山頂手前で、再びやぶ漕ぎ道に戻ってから80㍎登高した後、左手直角に方向を變

えて斜面をくだると、正面に目印のテープを見出した。後は20㍎ほどくぐってトビ岩で、少し早い目の昼食とした。

約1時間ゆっくりと眺望を楽しんだ後、今度は牛山の山腹をトラバースする通常の道をたどり、途中からは琵琶湖に向かって直降する谷道をくだって、そのまま民家の裏手に無事到着した。そこから道なりに帰路をたどると、「岩除地蔵尊」の真横に下りて来たので、山行の無事を謝して合掌した。

11月21日の山行は、6月19日に残した宿題を果たしたことになる。

(平成16年6月19日、11月21日歩く)

▲コースタイム▼

(6月19日) J R北小松駅(21分) 岩除地蔵尊(14分) 取付口(23分) 踏み跡出合(31分) 北小松区有林の最初の札(19分) 再び道なき道(40分) 牛山山頂(45分) 湿地(15分) 滝山からの下山路出合(35分) 北小松ヒル(17分) 北小松駅

△地図▽

山と溪谷社「比良・北山東部」
昭文社「比良山系」(1989年版)

山行記録 三角点が二つある山

冬瓜山

山田明男

両白

白山スーパー林道の石川県側料金所（中宮料金所）真北に位置するこの山の名は普通では読めない。石川・岐阜・富山の県境にある笈ヶ岳へのアクセスを検討するなかで、この山から笈ヶ岳へ目盛りで、5月の残雪期に歩かれていたことをインターネットで知った。名の通り冬瓜（とうがん）を転がしたような、そのユニークな姿は印象的だ。冬瓜山から笈ヶ岳へは残雪期に歩く人は少ないと、6月の無積雪期に行く人は少ないと言ふより、全く無いと言ふてよいだろう。

昨年6月13日朝5時に、白山自然保護センター中宮展示館駐車場を出発、ジライ谷野猿公園を目指す。一昨年の秋に下

見で入る予定でいたが、スーパー林道が閉鎖後で工事通行止めとなった。よってぶつけ本番でジライ谷右岸を目指すことにした。

尾根に歩ける道があるかどうかともわからなかったが、尾根の末端から20分も登れば尾根芯に付けられた踏み跡に出合った。ずいぶん多くの人が上り下りしており、完全に道と化しているではないか。これなら帰路も早く安全にくだれそうなので安心した。道がないまま登った場合に元に戻る自信はあるが、時間はずいぶんかかるだろう。登りは急でゆっくりと歩く。美濃の蕎麦粒山への登りに似ているが、標高差は1000m、その倍程もある



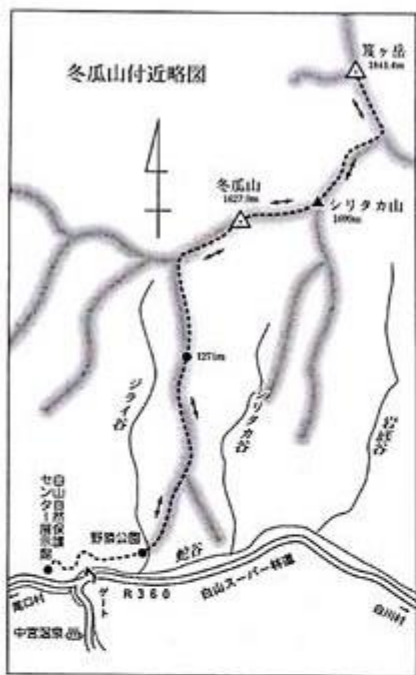
冬瓜山の次三角点

り、時間も倍かかりそう。登りが一段落したら、少しのアップダウンの繰り返しで距離をかせぐ。西の山毛榉尾山からの尾根を合わせると、踏み跡は消えてしまった。後から考えると、5月初旬に雪があれば踏み跡は残らないので、このあたりからは残雪があるのだろう。かすかな踏み跡を探しながら、忠実に尾根をつめて登って行く。

入口から4時間はかかるとみていた冬瓜山（1628m）山頂に、ちょうど4時間後の9時に到着した。冬瓜山の山頂部は岩場で狭く、三角点は60cm程厚き上がって斜めに建てた。少し休憩後、次のピークのシリタカ山へ向かうとして、三角点の横を歩いていともう一つの標石があるのに気がついた。こちらのほうが古そうなのでよく見ると、これもまた三角点と書いてあるではないか。二つも三角点があるなんて、もっとよく見てみると次三角点と読め、普通の三角点とは違うことはわかったが、それ以上詳しく

くはわからなかった。

先を急いでいたので写真も撮らずにシリタカ山・笈ヶ岳へと向かったが、写真には写らなかった。帰ってから三角点に詳しい、新ハイキングの誌面でもお馴染みの磯部さんに尋ねてみた。さすがに詳しい磯部さん、調べてくれた答えは、明治時代に森林の測量に使われた三角点で、本三角点と、補点に相当する今回の次三角点があったそうである。今の地図作成のための三角点とは違う種類の三角点であった。残雪期には雪に埋もれているであろうこの三角点には、5月初旬にここを通る人は気づかないであろう。



冬瓜山を9時5分に出て、笈ヶ岳へは13時40分に着いた。帰りの冬瓜山は17時50分と予定を大幅に超えて遅くなってしまった。山毛榉尾

山への分岐に唯一付けた印を見つけ、野猿公園に向けて尾根をくだるが、19時30分には暗くなり、尾根下りで30分はライトを使い、駐車場には20時30分に帰れた。冬瓜山への登りは4時間、下りは2時間35分であった。

1等三角点も最初の原・三角点なるものがまだ残っている場所が4〜5箇所確認されているようだし、本三角点も探してみたい。
鈴鹿や他の場所でも確認している4等三角点の代わりに使われたという図根点だが、昨年9月本図根点と表示されたものを鈴鹿の仙ヶ岳の南で確認した。
三角点・水準点・天測点・基準点・図根点を含め、山にはいろいろな標石があるが、今年の秋に冬瓜山の次三角点を再度見に行く予定である。
(平成16年6月13日歩く)

▲参考コースタイム▼
白山自然保護センター中宮展示館駐車場
5・00―冬瓜山9・00―5―笈ヶ岳13・40―冬瓜山17・50―白山自然保護センター中宮展示館駐車場20・30
△地形図▽2万5千▽中宮温泉

新ハイ関西81号
標高△△81mの山

品谷山	(881m)	京都北山
茶白山	(581m)	野坂山地
戸倉山	(1681m)	伊那山地
岳	(781m)	鈴鹿山地

品谷山

京都北山の数多い山のなかで山の風情や品格の高さで、品谷山は最高位にランク付けしたい好印象の山だった。
初めて行ったのは新緑の5月で、ゲンノ峠から廃村八丁に入って品谷峠からの往復という一般的なコースだったが、八丁手前の八丁川のしっとりとした流れや、峠から山頂への緑滴る広葉樹林の美しさに、奥深い山の霊気を感じた。
二回目は大山さんがリーダーの9人の会山行で初冬に行った。オバナ谷を登って佐々里峠から美山町と京北町の境界尾

根をたどって山頂に達し、真南の谷を四郎五郎峠への道にくだって峠越え後、峠谷から小さな尾根を乗り越えて広河原スキー場をくだった。ハイライトは町界尾根だった。ブナを主体とする落葉した広葉樹林の繊細な美しさは雪国の里山を思わせるあたたかさにあふれていた。

- △コースタイム▽
(初回) 広河原菅原町(4時間) 品谷山(4時間) 広河原尾花町(3時間30分)
(二回目) 品谷山(2時間30分) 広河原尾花町(2時間30分) 広河原尾花町
△地図▽昭文社「京都北山」

茶白山

北陸自動車道の滋賀県から福井県に入った所にある刀根パーキングエリアを通過するあたりで、いつも北側の笹の川をはさんだ小さな山並が美しく望まれて心惹かれていた。地形図「中河内」を広げてみれば、一帯は広葉樹林マークで埋め尽くされている。
深い積雪を利用して杉の奥の池河内



から△646・6mに登る予定で7人の会山行で目指したが、杉の奥は除雪されてなく、その場で急ぎ北西の尾根をたどって・581mに登ることにした。
時高さんがどこから仕入れたのか、△646・6mはタカノス、・581mは茶白山と教えてくれた。
山に入ると、一部植林の所もあったが、冬枯れの明るい広葉樹林の尾根はラッセルが爽快だった。△542・9mから南の鞍部へくだる予定だったが、東南の支尾根をくだっているのに気づき、東西に長い標高500mラインの東端まで登り返した。現在地をしっかりと確認して小さな尾根を谷を指してくだり、尾根が消えた地点からは谷筋までくだり切らずに右岸の上部をトラバース気味にくだった。最後は谷筋に降り立って杉密に戻った。



雪がたたくさん積もっていたので、小さな山でも山に身を投げ出して全身で歩いて行くような楽しいひとときを過ごすことができた。
(平成11年1月15日歩く)
△コースタイム▽
杉密(3時間) 茶白山(3時間) 杉密
△地形図▽2万5千〃中河内

戸倉山

大山さんがリーダーの3人の会山行で、文化の日の連休に登った。前日は中央アルプスの北端にある経ヶ岳に登り、南アルプスの大観を満喫した。前日の快晴とは打ってかわって戸倉山は雨のなかの登降となった。だから間近に南アルプスを眺めるといふ楽しみはなかったが、黄色を主体とした紅葉が雨に濡れそぼっていて、それはそれはもの淋しくも哀しいまでに美しい印象深い山行となった。
この山には伊那盆地から眺めた形から伊那富士という別称がある。
(平成2年11月4日歩く)
△コースタイム▽
駒ヶ根市中山本村(2時間20分) 戸倉山

岳

賑やかな春の日差しに身も心も温まる日、水源寺町の里山の岳に3人の会山行で登った。
南向かいの鏡子ヶ口には何度か登っているが、その登山道より見た、小さいながらも一気にのび上がっている山容の岳には惹かれるものがあった。
眺めての通り急登の山だったが、登ってみると山頂近くにはゆるやかな流れがあり、大きな杉の木付近には神秘的な香りすら漂っていて、小さな割には奥深い所もあった。
山ノ神峠経由で里近くまでくだってき た所の美しい雑木林には、ヤマブキの黄色が目鮮やかに咲いていた。
(平成15年4月27日歩く)
△コースタイム▽
黄和田(2時間) 岳(2時間) 山ノ神峠(1時間) 政所
△地図▽昭文社「御在所・霊仙・伊吹」

鉢盛山

鷺見守康

中信

鉢盛山は、乗鞍連峰の南東に位置する標高2446呎の山岳である。夏道は東面の長野県朝日村にある。役場でゲートの鍵を借り、鉢盛山林道を40分余りも車で走って登山口に至る。林道は役場が管理している割にはかなりの悪路だ。

この鉢盛山を積雪期に反対側の奈川村から登るのだ。無雪期には一面のシノザサの群落と灌木にはばまれ、積雪期でなければ歩けないルートである。奈川村の某ペンションオーナーからは、下りに使うならやぶを分けて何とか歩けるといふ情報を得たことがあるが、8月に山頂から見渡したかぎりでは、踏み跡はおろか登山者が立ち入った形跡も見当らず、

密生したササが一面に広がるばかりだった。そして、見はるかす通過点の小鉢盛山ははるかに遠く、「あんなに歩くのか」と溜息が出たくらいだ。

野麦峠スキー場からリフトを使用する。コースに特に危険な箇所はないものの、小鉢盛山を越えて縦走し、往復するコースは行動時間が長くなるため、リフトの使用は不可欠であると思う。したがって、リフト営業時間の8時から16時20分までに歩き切る必要がある。

リフトの始発時間に合わせてスキー場に到着。華やかな服装のスキーヤーに混じり、リフトに乗車した。二本乗り継ぎ

原生林をぬうように進む。尾根は広いので、特に危険な箇所もないのだが、尾根の東側には雪庇が発達している。コースどりに注意が必要だ。

2時間ほどを要して小鉢盛山に到着。ちょうど全行程の半分の地点だ。「山頂まで届くかな……」少しずつ時間が気になり出していたが、天候のこれ以上の悪化はないようなので、再び出発した。

北東に向きを変え、鉢盛山との鞍部まで大きくくだる。ルート中、わかりにくいといえばこのあたりだろうか。これまでの方向からかなり右に振る感覚で、尾根筋を外さないように進む。

平坦な鞍部からいよいよ鉢盛山への登りとなる。コース中もっとも苦しい所だ。

斜面が急となり、スノーシューでは登りにくい。パーティもバラバラな状態だ。「どうしよう……」登りながら私は迷っていた。最終リフトの時間まで余裕はなくなっている。昼食の時間も必要だ。パーティメンバーの足も揃っていないわけではない。最悪、リフトが止まってもゲレンデを歩けば下山はできるのだが、長くて急斜面のゲレンデは疲れた身体には応え

るし、日没にもなってしまいうから、そんな事態は避けるべきだ。山頂へはまだ20〜30分は要するだろう。

私は撤退を宣言し、鞍部まで戻って昼食とした。雪の山でじっと動かずにいると、身体はシンシンと冷えてくる。40分ほどで食事休憩を切り上げた。

復路は全体には下りとなるが、往路と比較して決して楽とはいえない。むしろ、積雪量が少なく、所によってはアイスバーン状の斜面もあって神経をつかう。スノーシューの扱いに慣れないメンバーもいて、所要時間も増加する。

本日は、私たちのほかに登山者はいないものと思っていたが、小鉢盛山を越えた所で、他のパーティ

のテントに遭遇する。雪のブロックを切り出して壁をつくっており、雪山経験豊富なパーティのようだ。明日鉢盛山に向かうのだろう。

朝の出発地点方向を目指しながら、私は直接上部ゲレンデにくだるショートカットのルートを探していた。上部の二本目のリフトは下りには使用できないからだ。まもなく樹間の向こうにスキーヤーの姿を認めた。そこからトレースのない林間をくだり、ゲレンデに出た。とりあえず、ほっとする。なんとか無事に下山できるようだ。

ゲレンデはなかなかの急斜面であり、スキーヤーの邪魔にならないようスノーシューのクランポン（アイゼン）をきかせながら、バタバタとくだった。下のリフトのりばからはリフトでくだる。

リフトを降りると、「鉢盛山まで行かれましたか？」とにこやかに声をかけてきた人がいた。見覚えのある顔だ。地元の人で、奈川村主催の「鉢盛山スノーレッキング」の際には、リーダーの1人として活躍する人だ。「時間切れで、山頂直下で引き返してきました」と応えると「苦労さまでした」とあくま



山歩き & ウォーキング 総合カタログ

2005年4月 ▶ 山歩き & ウォーキング
2006年3月 ▶

3月上旬完成予定 **送料無料**

お電話・FAX
お手紙にて **ご請求ください!**

山歩き & ウォーキング (年間・総合カタログ) ▶

国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した
総合カタログ、オールカラー！写真も満載！

ツアーのポイント！

- 安全・安心登山宣言。
全コース日本山岳ガイド
連盟認定のガイドや、登
山経験豊富なツアーリー
ダーが同行。
- 始めての方、中高年の方、
お一人での参加も大歓迎。
- 日得りの低山から、憧れ
の日本百名山、世界の名
峰を歩きます。



大阪支店に 高山病対策 & 高所登山はこれで解決!! 低酸素室設置

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m～4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高所登山を計画されている方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



- ① ます低酸素室に約30分間入ります。
 - ② 次に低酸素の状態で、心拍数と血中の酸素飽和度を監視しながら、自転車をこいで30分間トレーニング。
- これで終了です。
できれば事前に体重を上げながら登山に慣れておくのがおすすめです。

- 利用料 (1回/1時間)
メンバーズ会員 ¥1,000
非会員 ¥3,000

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

でもにこやかだった。時刻は16時を回っていた。やはり撤退は正解だった。
今回は雪質や天候に恵まれず、山頂直下で時間切れとなってしまったが、2000mを超える雪の尾根縦走は、それなりに充実していた。メンバーの表情にもそこはかとなく満足感が見えた。

翌日は朝から青空。1日違いで絶好の天候となり、口惜しい思いがある。今日の予定は「野鳥の森」をスノーシューで散策するというものだが、積雪も中途半端で、何となく意気が上がらない。それでも、気を取り直して森に入ってみたが、予想に反し、1時間余りで終わってしまった。残った時間をどう使うか。「スキー場へ行きたい!」という多数の声があり、バスをスキー場へ回した。

一本目のリフトで高みに登り、そのあたりから山岳展望を楽しむつもりであったが、下部ゲレンデからの見晴らしだけでもけっこういい。不審げなスキーヤーたちの目もはばからず、ゲレンデの端でワイワイガヤガヤと騒ぐ中高年の集団と化した。
ゲレンデからの山岳展望は見応えがあっ

た。大気は澄み、山は雪化粧をしているので山容は鮮明だ。これだけの展望があると、おのずと山岳同定に心奪われる。
山岳同定する場合は、いつも砂原さんが中心となる。彼女の山岳同定に寄せる熱意と根気はかなりのもので、豊富な知識と体験に支えられた説明には、私たちがうならせるものがある。

この日、皆が大いに湧いたのは、まず前穂高岳だった。実は、昨日からバスで移動している最中、村のあちこちから見事に「ツン」と尖った鋭峰が垣間見えた。「槍だ!」の一声で、誰もが槍ヶ岳と信じて疑わず、その雄姿に感嘆していた。

スキー場から改めて眺望し、私は「槍ヶ岳から大喰岳」と説明した。ところが、自身何か引っかけたものを感じていた。疑問に答えたのは砂原さんだった。大喰岳と見えるのは奥穂高岳で、槍ヶ岳と見えるのは前穂高岳ではないかとの意見には、胸にストンと落ちるものがあった。角度のせいも、実に「槍から大喰」と瓜二つの「前穂から奥穂」であった。

山岳同定は熱を帯び、次に西穂高岳と考えたものが、実は霞沢岳と判別できた時には佳境に入っていた。この時も西

穂高岳だと言い出したのは私だが、またしても自身納得できていなかった。その疑問点を皆が突いてくる。皆で疑問を出し合い、その疑問点を追求していくことにより、同定が正確になっていったのだ。そのプロセスは謎解きのようなものであり、ワクワクするようなときめきがあった。「謎解き」をリードしたのは、むろん砂原さんだった。
(平成16年3月20日〜21日歩く)

▲コースタイム▼

(3月20日) くもりのち雪 野麦峠スキー場8・15(リフト)リフト終点地8・40
50-小鉢盛山10・40-鉢盛山直下鞍部11・50(昼食)12・30-小鉢盛山13・30
1野麦峠スキー場16・05

△地形図▶2万5千||吉見・賢川
△参考▶

このコースは、地元の長野県奈川村が毎年3月下旬の土・日に実施する「鉢盛山スノーレッキング」で歩ける。スノーシューのレンタルもある。

(問い合わせ先)
奈川村役場観光企業課

0263 (79) 2125

宮崎・大分の山々（九州百名山）

諸塚山・行勝山ほか

生駒聳峰

西九州

行勝山と滝（日本百名滝）



冬眠から覚めての春一番の山行は、暖かい九州からである。前年の鹿兒島に続き、宮崎・大分方面を目指す。出発はお彼岸頃からの予定だったが待ち切れず、お水取りが済むと早々に出発する。

日本百名山や1等三角点峰は登頂済みで、九州百名山と今西錦司博士の登られた山々を目指す。もちろん名所旧跡や名流・名水・温泉などの観光も目的である。まず大阪南港からフェリーで別府に上陸する。

◎高崎山（6281 2等）

海の前そばにそびえる高崎山は猿で有名なが、猿公園は海側で登山道は南側に

ある。林道には猿が下りてこないように電流が流れる柵が続く。「猿に会っても目を見つめないように」と注意書きがしてある。さしずめ猿はヤクザと同じか、「眼（ガン）を切ったな」と怒るらしい。

登山口には10数台の駐車スペースがあり、そこから林道跡を登って行く。姿は無いが猿の足跡が多数あり、このあたりまで下りて来るらしい。高崎山は城跡で、所どころに堀などの表示があるのだが、手入れがされずに草ぼうぼう。一番高そうな所に2等三角点と、大友某の墓石が草に埋もれていた。登山者の姿も無く、猿公園の賑わいは嘘のように静かである。

◎夏木山（13861 3等）

祖母領山系系の南東部に位置し、大分県と宮崎県の境界にある。宇目町から藤河内溪谷に入る。温泉からさらに砂利

道をとると、簡単な登山口表示があった。そばにステレンス製の立派な登山届け入れが立っていて、二日に1人くらいの名があった。

道の取り付きからザイルの下がる急登で、その後も岩湿じりの急坂が続き息が切れた。周辺の木々はいまだ眠りから覚めず、山は冬枯れ状態であった。それにしても何ヶ所もザイル場があるきつい登りであった。

夏木山は傾山からの縦走路上の一峰で、新百姓山から周遊するコースが一般的

だが、梯子の架かる岩場も多く、老年向きでないのと同じコースを下山したので、少しハードな山であった。

藤河内の温泉は鉱泉の沸かし湯だが、訪れる人は少ない。老人1人が番をしているだけで、素朴な山の湯が満喫でき

◎行勝山（8311 2等）

難しい眺めの山である。山とともにこの滝は日本百名滝で、岩壁が屏風を立てたように屹立した中央部に滝がかかっ

◎三國峠（6641 3等）
豊後・日向・肥後三國境の三國峠は、破線の車道から簡単に登れる。峠周辺は西南の役の西郷軍の陣地跡で、薩軍はここから敗退していった。幾つもの戦死者の墓があり、山頂には薩軍第一累跡とある。展望はすばらしい。

ている。しかしこの時には水は無く、岩壁に水跡があるのみだった。いったいどこを登るのかと思わせる岩壁である。

行勝神社の前を通り登山口に行く。5〜6台の駐車が可能で、滝までの案内板が立っていた。急な石畳道はよく整備され、滝まで20分。滝は後回しにして峠に登り着くと、小さい神社がまつられていた。ここから登山道は裏側に廻り込む。表と違って穏やかな道で、ポツカリと岩峰の上に出た。眼下には延岡市街から日向灘が広がる。新しい2等の標石が設置されていた。下から眺めた山は荒々しかったが、思ったより簡単に登れた。

この大岩壁にかかる滝は水量があれば豪壮なのだが、一滴の流れでは滝とはいえない。梅雨などの増水期はどうだろう。

◎双石山（5091 3等）

宮崎市郊外のあまり高くない山脈でハイキングの山である。縦走するのが一般的だが、マイカー山行なのでピストンにする。

県道の姥ヶ神社に車を置く。先に車が止まっていて、先行者がいるのかと思っ



たら神社の名水を汲んでいた。登山準備をしている間にも、次々と地元ナンバーの水が水を汲みにやって来た。

神社の鳥居を降り急な参詣道を登る。神社まで35分もかかった。そこから山頂までは1時間足らずだが、三角点があるだけの平凡な山であった。

県道を南に走ると椿園地に到着する。広く展望のよい公園で、ゆっくり昼食をとった。

宮崎神社・護国神社を訪れる。展示された戦死者の遺品などは、戦争経験者としては痛々しい。平和公園の「八柱一宇」の意味を妻に尋ねられる。若き日頭に叩き込まれた文字も、今は何だったのか思い出せない。ここの城輪公園の群像はおもしろかった。

◎鳥帽子岳 (1126m 3等)

西都市から一ツ瀬ダムを通り、車で日平峠に登る。全く辺鄙な所で、鳥帽子岳登山口の表示を見てはっとした。登山道は下から登っているが、少しでも楽に登ろうと日平峠に走ったが、どこまで登るのかと思うくらい林道はほとんどと高度を上げ、鳥帽子岳の稜線の一角に登り着

いた。日平峠は正式な登山口でないの、何の表示も駐車場もない。稜線には林道が分岐し、チェーンが張られていた。

林道を歩く。見渡す限りの伐採地で、山頂部だけにわずかに樹林が見える。結局伐採地を山頂下まで歩いて行った。ところが最近植林されたばかりの伐採地は貴重な鹿避けネットに囲まれ、人1人が潜れる余裕もない。あちらこちらと探したあげく、ネットの下を腹這いで抜け、山頂に立った。登山道はネットの外側を登っている。こんなに伐採されては、もう山の魅力は全くない。九州百名山からも除外しなければならぬだろう。

◎三方岳 (1479m 独峰)

南郷村から平家伝説の椎葉村に向かい、大河内峠に登る。国道といっても大型車は通行不可能な道で、はるかな山稜にガイドレールが見える。あんなに登るのか、車での登山だ。大河内峠には登山口の表示がないが、九州大学の登山者注意書が登山口を示していた。

稜線伝いの道はガイド本の道とは違いますが、明瞭で歩きやすい。先ずは3等点峰を乗り越越す。演習林のためか道標は全く

◎白岩山 (1646m 3等)
◎向坂山 (1684m 3等)

椎葉村には適当な車泊場がないので、連日蘇陽町(熊本県)の道の駅に泊まっている。以前は登山口に泊まり、早朝から登山していたが、今は少しでも快適な所(トイレ・食料のある)を探して泊まることにしている。なるべく日常の生活に近い暮らし方をしないと、長期の登山は続けられない。山行も一日一山と定め、時間が余っても次の山には登らないことにしている。

諸塚山に登った時に、一ヶ所だけ真っ白な山があった。それが九州最南端の五ヶ瀬スキー場で、向坂山にある。スキー場は山の八合目くらいで良い車道が通じているが、すでにスキー場は閉鎖されている。人影は無い。駐車場から砂利の林道を登り、白岩峰を目指す。峠から左すれば白岩山、右すれば向坂山で、先ず白岩山に向かう。なだらかな縦走路で霧立越えと言いつ、扇山に通じている。やがて岩峰が現れる。よじ登ってみると白岩山のピークであった。石灰岩の鋭く尖った峰は、誰が見ても白岩山と言っだろう。岩峰を捲く道をさらに縦走すると、



椎葉村の扇山

無く、鳥獣保護区の表示が案内板代わりにある。ここでも山はまだ全く冬の状態で、芽吹いている木は何もなく、また三角点の無い山頂は何かも足りない。

椎葉村の鶴宮屋敷は雨だったが、民族館は内容が豊富で、たくさんモニターが民謡やお祭りを写していた。椎葉では車泊できる所はなく、五ヶ瀬村までくだった。

◎諸塚山 (1342m 2等)

諸塚山の山頂近くを国道500号線が横断し、飯干峠近くから登山道がある。国道といっても林道並みで、峠は園地の造成中であつた。峠は林道が交錯して少しわかりづらいつ。登山口には神社の鳥居が立ち、駐車場も広く参詣道がのびていた。山頂には2等三角点と小さい神社があつた。

林道に赤土岸山登山口の印を見つけ、登ってみる。今西錦司博士の登った山で、山頂は公園に整備されたばかりであつた。

◎扇山 (1661m 2等)

五ヶ瀬村から国見トンネルを抜けて椎葉村に入る。中の瀬で集落を抜けると舗装が切れる。その後は砂利の林道が延々

「水呑みの頭」の山頂に到る。3等が設置され、通常これが白岩山らしい。

同じ道を戻り、向坂山に登る。ここにも3等がありスキー場の上になる。スキー場に向かっていると、まだ残雪が大量にあり、雪の山の感触が楽しめた。スキー場では地元の中学生在がソリを楽しんでいた。駐車場に戻る道すがら今晚のおかずの露の芽を摘んだ。

◎祇園山 (1307m 2等)
◎揺岳 (1335m 3等)

祇園とは京都を思わせる名前だが五ヶ瀬町にある。先日の向坂山と国道を挟んで向い合う九州中央山地の一角で、良い山が集中している。登山口は大石峠で、揺岳と向かい合い二山で一日行程になる。

先ず祇園山に登る。少し急坂もあるが簡単に頂上に到る。山頂は公園状に整備されて展望もまずまずで、2等三角点がある。

揺岳は九州百名山ではないが、ついでに登ってみる。おだやかな道だったが、最後の登りにザイルが架けられていた。こちらは3等であつた。

と山に向かっていく。全くの悪路である。やがて大きな自然石に登山口と刻まれていた。

ここは「内の八重」登山口で、良い道が稜線にのびる。稜線はササの切り開きで、簡単に山頂に到着した。展望も良く穏やかな山である。山頂から南にくると山小屋があり、上椎葉の登山口に通じ、北の向坂山から霧立越えの縦走路が合流している。

車に戻り上椎葉に向かったら、落石が多くて危険なので引き返した。まだ春早く、手入れがされてないようだった。



日ノ影町の比叡山

◎比叡山(918呎 独峰)

祇園山と言ひ比叡山と言ひ、どうして京都と同じ名の山があるのだろうか？

日ノ影町の鹿川溪谷に入つて行く、岩壁を連ねる山々が望まれる。矢筈岳の大岩壁が迫ると比叡山の登山口に到着する。こちらも岩の積み重なつた山で、登山口の神社から2000呎くらいで展望台に出る。一つの岩壁の頭の上で、県道がトンネルで下を通る。鹿川溪谷から矢筈岳の大岩壁が望まれ、目的の比叡山も岩

の肌を晒していた。展望台までは観光客も来るが、この先の登山道には人影は無い。道は明瞭だが見上げるような急坂でガラ石が積み重なり、木の枝をつかんで慎重に登る。切り立つた岩壁を廻り込み稜線の一角の岩峰に立つ。切り立つ崖の上で足が震える。ここは第一展望台で、比叡山と刻まれた大きな石柱が立っていた。ひと息入れて登路を眺めると、鋸歯のような峰が続き意気消沈。「君子危きに近寄らず」と自分に言い聞かせ、写真撮つて下山した。

◎酒呑童子山(1181呎 2等)

おもしろい名の山である。酒呑童子といえは大江山を思い出す。何か関連があるのか。

宮崎県から阿蘇国立公園を越えて北上し、大分県の津江村に入る。有名な鯛生金山から日田スーパー林道に入り、登山口の峠に到着する。

前山の小鈴山を乗り越して小鈴峠に降り立つ。地蔵尊が一つ。その後ひと登りで山頂だったが、最後に少し鎖場がある。展望はすばらしいが、広がる山々は、全く土地勘がなく一つも同定できない。下

山は小鈴峠から林道にくだり、登山口に戻った。

◎渡神岳(1150呎 3等)

日田スーパー林道を北上して行く。この林道は曲がりくねりながら峰々をぬっている。広くはないが全線舗装で、車の数も少なく走りやすい。

渡神岳は椿が鼻ハイランドから登る。この山は富士山型の美しい形で、見た目は惚れ惚れとする。本来一日に二山は登らないことにしているが、同じ林道沿いで時間もあるのでアタックすることにした。登山道は整備されているが、何しろ形の良い山は急傾斜で、最後は階段を数えながら息を切らして登る。

広くはない山頂に3等三角点と石塔が一つ。大展望が広がっていた。下から見上げていた尖峰に、今立っているとは信じられない気分であった。

◎檜原山(745呎 3等)

耶馬溪にある檜原山には正平寺があり、山頂には奥宮がある。お寺に車を置いて道標に従って行く。登山道は行場になつていて、大岩を捲いたり滑ったりして一

周する。山頂の林のなかには石組みの社殿が三基。少し離れて反射板が立っていた。

◎大岩扇山(691呎 3等)

玖珠の町に屏風のような岩壁を連ねる大岩扇山は、見かけではどんな山かと思われるが、裏に廻れば牧場もある穏やかな山である。牧場入口まで車で行く。三角点は台地中央にあり、リンドウが紫の花を咲かせ始めていた。隣の小岩扇山も牧場であった。

◎倉木山(1155呎 独峰)

由布院温泉から別府に向かって走り、由布岳登山口の手前から南斜面の林道に入る。ここは由布岳の大展望台だ。カメラマンが三脚を立てている。その背後の山が倉木山で、裾野の牧場から登る。道は尾根を直登するものと、中腹を捲いて反対側の峠から登るのたが、山を一周している。中腹を行き尾根をくだるほうがよいとされている。

由布院温泉の町を見下ろし、背後に大きな由布岳を背負って捲き道を登る。山頂は樹木のない小ザサの山で、岩が積み

重なっていた。何一つ違えるものはないが、ともかく由布岳が巨大であった。

◎猪群山(458呎 2等)

国東半島の猪群山は、巨石のストーンサークルで売っている。豊後高田を通り、真玉町に入ると、ストーンサークルの道標に従って山に入る。登山口にはストーンサークルまで40分とあり、猪群山よりストーンサークルのほうが主役である。整備された丸太階段を登って行く。山頂には休憩舎が建ち2等三角点があるが、林のなかで展望はない。少しくだつて尾根の肩に出ると、草原のなかに自然石が幾つか直立している。自然のものと思われ、雨乞いの場所にでも使用されたらしい。元々ストーンサークルはイングリッドで、私も訪れているが、本家とは比べものにもならない。誰が名付けたのだろうか。

登山口にある飯牟礼神社は、神殿の一つがまさに倒壊寸前の哀れな姿であった。下山後は真玉温泉で汗を流せる。

◎三俣山(1745呎 3等)

久住高原に戻り長者原に泊まる。三

俣山は今回最後の山である。久住の山は幾つも登っているが、この山は始めてである。登山口までの林道を1きほど入るとチェーン止めされている。この林道は硫黄谷まで通じているが、登山道は高原の中を登っている。硫黄谷からは盛んに噴煙が立ち昇り、危険なので沢の中に迂回路が付けられていた。すがもり峠でひと息いれると最後の登りにかかる。山は三つばかりの峰から成り立ち、登山道が縦横に走っている。最初に一番高そうなピークに登つたら南峰で、本峰が北にそびえていた。草原状の山頂は広くて展望もよく、双峰の由布岳が形よく望まれ、眼下には久住高原が広がっていた。

1ヶ月に渡る旅も終了した。九州百名山を主体に記述したが、それ以外の山も含めて35山に登頂し、十数ヶ所の滝や名水、そして十数ヶ所の温泉にも入った。もっとも一回も宿泊はしなかった。その他鐘乳洞・神社仏閣・城跡、さらにサクラ見物、地熱発電所の見学と十分に九州の春を楽しんだ。

(平成16年3月〜4月)

白銀のアンデス山脈を見ながら

インカ古道(トレイル)を歩く

金谷 昭

ペルー

熊野古道が最近、世界遺産に登録されて賑わいを呈しているが、すでに1983年に自然と文化両者の複合遺産として登録された世界的に有名なペルーの「幻の空中都市マチュピチュ遺跡」をたどるインカ古道のトレッキング・ツアーに参加した。

14・15世紀、南米大陸で繁栄を極めたインカ帝国時代につくられた当時の都クスコを中心として張り巡らされた街道をインカトレイルと称す。その総延長は4万キロにも及ぶといわれているが、そのうち古都クスコと、16世紀スペイン占領に對して抵抗のため密かにアンデス山中に建設され、その後突然放棄されて多くの

謎に包まれた空中都市マチュピチュとを結ぶ古道が、近年整備された。その古道を4日間かけて歩いた。二つの4000メートルの峠越えもある石畳の旧街道を、当時の生活の雰囲気を感じながら最終日にはマチュピチュ遺跡に到達するトレッキングである。遺跡到達後はさらにその後ろにそびえる鋭峰ワイナピチュにも登頂し、マチュピチュ遺跡の壮大さと精巧さを満喫した。

地球の反対側の南米ペルーまでのフライトには15時間(短路は19時間)、途中の乗り換え時間を含め時差の関係で所要時間はさっぱりわからなくなったが、お

マチュピチュ遺跡(背後の鋭峰はワイナピチュ峰)



よそ2日間を要し、大変遠かった。

首都リマ到着は2日目の深夜で、睡眠時間もそこそこ早朝のフライトでクスコに飛ぶ。海拔1600メートルのリマからいきなり海拔3360メートルの高地クスコに着くと、全員何らかの高山病の徴候を呈していたようで、午前中はホテルで休養した。午後からはインカとスペイン統治時代の混在融合したセピア調の街並のなか、

石畳の道を抜けてクスコ近郊丘陵にある最近発掘されたサクサイマン遺跡を見に行く。

ここで初めて書物で読んだことのある石積の目地に剃刀の刃一枚入らぬ精巧さに、いきなり「目から鱗が落ちる」思いであった。

この遺跡から見下ろすクスコの街はスパニッシュの豊(スペイン瓦)の茶褐色で統一されたセピア調で古都の雰囲気を感じさせていた。街全体が世界遺産に登録され、建物の外装の統一のみならず、道路の広告やネオンの禁止等の厳重な綱が掛けられ、伝統保存には官民挙げて並々ならぬ努力が感じられた。

・トレッキング第1日

クスコ発午前6時のペルー鉄道の急行列車に乗車し、マチュピチュまで114キロを高地平原を流れる聖なるウルバンパ河に沿ってくだり、その手前88キロ地点のトレッキング開始のキャンプ場に向かう。クスコを取り囲む丘陵を何回かスイッチバックしてきわめてゆっくりに上がって行く。丘陵を越えたとウルバンパ河の広い河川盆地の農耕地を囲み、兩岸は乾燥

山肌。その上部にアンデスの雪を頂いた高峰メロニカ(5730メートル)が望めるようになってきた。

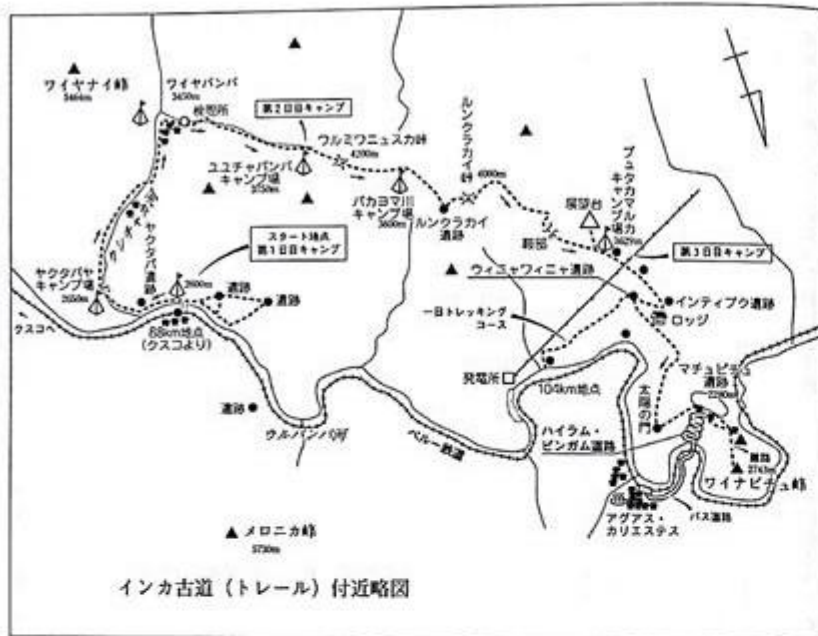
車窓から見えていた車道は途絶えて、唯一の交通機関は鉄道となって深い峡谷を行く。やがて88キロ地点に停車した。線路沿いに数軒の編立小屋の店のある寒村で、もちろんプラットフォームも無し。我々日本人トレッカーのみを残して列車はすぐにトンネルの中に消えていった。駅を出るとトレッキング管理所があり、パスポートを提示してキャンプ場に向かった。不安定な吊り橋を対岸(左岸)に渡ってすぐの所であった。

広い芝生のキャンプ場は食堂を備えたロッジ(民家)と石造薬草のシャワー室と男女別水洗便所が設けられていた。ここで現地のスタッフが紹介された。我々日本人15名(男5名、女9名、ツアーリーダー1名)に対して、現地ガイド(主・サブの2名)、キッチンボーイ4名、ポーター25名、合計46名の大所帯である。我々日本人にとっては大名旅行であるが、この国でも貴重な遺跡の保護のため、オーバークース対策として、本インカトレイル全コースで1日に現地スタッフを含めて5

00名の人數制限がなされており、人数のトレイルだけに予約を早期にとる必要があるとのことであった。従ってキャンプ場は我々以外に数人のアメリカ人のみで、ゆったりとした宿泊地であった。各自すでに用意されたテントで旅装を解く。昼食後には、海拔3360メートルのクスコより海拔2600メートルに降りて来たのがきいたのか、高山病の徴候は消失していた。なおも高度順化を兼ねて近くに見える山腹の遺跡見学に3時間程かけて行く。

遠くからは山腹の段段畑のように見えていたのがインカの遺跡であった。実際畑として使われた半円形の遺跡の上に監視台と水路の石垣があったが、一つの遺跡は狼煙通信のため必ず両方向の隣の遺跡と見通しのきく位置に建設され、明日行くヤクタバヤ遺跡を見通すことができた。高低差約300メートルの軽いトレッキングで高度順化に適した運動量であったようである。高山病で悩む隊員は少なくなっ

た。夕食はロッジの庭先で、パンを主食とした一応スープから始まる現地食のフルコースだ。私は、高山病のためか食は進



インカ古道(トレール)付近略図

は食堂テントにて現地調達のパン・チキンを主としたものであった。少し量が多かったが、けっこういだけた。食後、全員に明日の4200mの峠越えに対してパルスオキシメーター(血液中の酸素飽和度測定)の検査があった。私は水分摂取と腹式呼吸に努めているので、85%(低地が100%)とまずまずでひと安心する。

・トレッキング第3日

今日は高度4200mと4000mの二つの峠越えの最大の出場である。最初に越えるワルミワニユスカ峠はキャンプ場からよく見えている。スケールではとても及ばないものの、峠の姿は比良の正面谷からの金鷲峠によく似た容状である。キャンプ場より峠に向かうにつれて樹木は灌木に、そして草肌、果ては荒涼とした岩山であった。振り返るとワイヤナイ峰の頂上付近にはガスがかかっていた。高度4200mのため寒い。登りの際の汗も冷えてきて余計に寒い。慌てて防寒具を着用した。峠を越えようと石畳と石段の急な下りとなった。石畳はパカヨマ川にくだつてさらに登り返し、次のロンクラカイ峠(高度4000m)を越えてなおも続いていた。よくぞつづいたものである。膝を庇いながら長い下りを行くと、ロンクラカイ遺跡を始めとして多くの遺跡が出てきた。ロンクラカイ遺跡は比較的小規模であったが、他に見られない円形で伝令や旅人の一夜の宿となっていた。いずれの遺跡も精巧な石積と乾燥岩山の中にあつて、その水源が現在も未解明の、今も生きている水路を備えたものであった。途中の勾配のゆるむ所には花が咲き、灌木

まなかつた。食後には紅茶・コーヒー以外にマテ茶が出てきたが、私の嗜好には合わなかつた。少し麻酔性がありトレッキング終了までにすっかり好きになつた人がいた。マテ茶の葉は麻葉の一種として国外への持ち出しは禁止されている。なお飲料水は炊事の際の沸騰水かミネラルウォーター(650cc・約83円)を購入した。

・トレッキング第2日

本格的なトレッキングの開始日、朝食をとっている間にポーターはテントを撤収し、足早に次のキャンプ場に向かって行き、我々は軽装でゆっくりと出発した。ウルバンバ河に沿ってクスコに戻るように上流に向かって、ユーカリ林の河川段丘をゆるやかに登って行く。このあたりから高温多湿なアマゾン源流の熱帯雨林(セルバ)の様相を呈してくる。ユーカリはスペイン統治時代にスペイン人が移植を薦めたが、当時の住民にはあまり受け入れられなかつたようで、貧相な樹林帯となつていた。

急登を終えるときンシチャカ河対岸に出現したアルパカやリャマの牧場、畑に花が咲き乱れる農村風景は、まるで桃源郷である。このあたりのインカトレールは石畳ではなかつた。山高帽子に派手な彩色のスカートの女性がアルパカを引き連れて、長閑なアンデスの山村風景を演出していた。

飲料水の販売を示す先端に赤布を巻いた丸太を軒先に吊したロッジの一軒に立ち寄り、先行したキッチンポーターの調理を待たせ、急登を終えるときンシチャカ河対岸に出現したアルパカやリャマの牧場、畑に花が咲き乱れる農村風景は、まるで桃源郷である。このあたりのインカトレールは石畳ではなかつた。山高帽子に派手な彩色のスカートの女性がアルパカを引き連れて、長閑なアンデスの山村風景を演出していた。

急登を終えるときンシチャカ河対岸に出現したアルパカやリャマの牧場、畑に花が咲き乱れる農村風景は、まるで桃源郷である。このあたりのインカトレールは石畳ではなかつた。山高帽子に派手な彩色のスカートの女性がアルパカを引き連れて、長閑なアンデスの山村風景を演出していた。

急登を終えるときンシチャカ河対岸に出現したアルパカやリャマの牧場、畑に花が咲き乱れる農村風景は、まるで桃源郷である。このあたりのインカトレールは石畳ではなかつた。山高帽子に派手な彩色のスカートの女性がアルパカを引き連れて、長閑なアンデスの山村風景を演出していた。

急登を終えるときンシチャカ河対岸に出現したアルパカやリャマの牧場、畑に花が咲き乱れる農村風景は、まるで桃源郷である。このあたりのインカトレールは石畳ではなかつた。山高帽子に派手な彩色のスカートの女性がアルパカを引き連れて、長閑なアンデスの山村風景を演出していた。



キャンプ場展望台からサルカントイ峰(左)とプマンジヨ峰(右)

大根・芹・蕨が生えていて、修理で掘り起こされた土は肥沃であった。この遺跡を過ぎると高圧送電柱が出てきて、ウルバンバ河の眺望がきく所となった。ウルバンバ河に築かれたダム発電所からの送電線であった。世界遺産登録前に建設されたらしく、殺風景な送電柱はいかんともしがたかった。ここより見えている中腹のロッジに降り立ち、昼食となった。

昼食後は近くのウイニャウイニャ(永遠に若い)遺跡を見に行く。この遺跡は隣の空中都市マチュピチュが人口飽和となったため、建設されたとされ、かなり大規模なものであった。石積の壁には南米原産のペゴニアが赤い花を付けていたが、日本のそれと比べれば別種かと思わせる程大きかった。なおこの遺跡には麓のアグアス・カリエンテスからの一日コースのトレッキングトレイルが登ってきているのが望めた。ただし、一般には1日ではハードとのことである。

今日のコースは下りばかりと思っていたが、そのうち尾根鞍部への登りとなってきた。たどり着いた峠の手前で、先頭を行くサブリーダーが突然握手を求めてきた。最初はわけがわからなかったが、すぐ右の遺跡が出てきて「太陽の門」であった。

当時のインカにはすでに太陽暦があったとされ、マチュピチュの神殿に向かって夏至の日の出が、この「太陽の門」から出るように配置されているという。この門を滑ると、マチュピチュ遺跡を目前にしてくだる本トレイルのクライマックスである。残念ながら霧がかかり目に

することができなかった。しばらく霧の晴れるのを待ったが晴れた気配はなく、やむをえずゆっくりとマチュピチュに向かったところ、数分後突然霧が晴れて、夢にまで見た空中都市マチュピチュ(老いた峰・高度2280m)が全容を現した。

突然の出現に自分自身の時間が停止してしまったような感激の瞬間である。中央の尾根を挟んで片側は神殿・住居、他側は高度差600m以上に及ぶ段段畑、その背後にはインカ時代の地上の象徴ピチュマが蹲る形で明日登山するウイナピチュ(若い峰・高度2748m)がそびえ、そして空の象徴コンドルが今飛び立とうとしているかのように、その左手前の小ピークが形どっている。周囲を石垣で囲まれた要塞都市は総面積5平方kmの広大な遺跡である。

マチュピチュ遺跡に近づくにつれて、その壮大さははらさがしひしと感ぜられてくる。遺跡の撮影ポイントである入口高台にある見張小屋の前でガイドの説明を聞きながらゆっくりと休憩する。後は登山バスに乗って今夜の宿泊地アグアス・カリエンテスにくだるだけだ。

休憩後は遺跡の一部を見学する。中央

のある池塘が出現し、水の豊富さを証明していた。

二つの峠の最低地のキャンプ場に達して休憩となった。隊員の中にはこれまでの峠越えの疲れでこのキャンプ場に泊まりたい者が多かったが、ツァーリーダーから「次の峠越えしたキャンプ場に泊まったことの意味は、明朝にわかるだろう」との意味深長な話で、ルンクラカイ峠越えの登り返しを頑張ることとなった。

峠へ向かって、いきなり急な石段を登って行くと思いが開け、前方に列車から見た雪を頂いたメロニカ峠が立ちほだかってくる。峠手前の小さな遺跡と池塘を過ぎ、たどり着いた峠も荒涼とした岩山であった。

ここからも急な石段の長く続く古道を降りて行くと、かなり大きいゴンチャマルカ遺跡が出現した。それを過ぎると竹を交えた樹林帯となり、樹林が開かれるとキャンプ場が出てきて、遅くなった昼食をやつとありつけた。昼食はメルサー(魚)のフライ・サラダ・スープに、久しぶりに米飯(現地産)で各自大いに食が進んだようであった。

昼食後、アマゾン源流の様相を呈し始

めた樹林の山腹を行くと、霧が多く湿度が高いためか道端の土手に水苔がぎっしりと生えていた。

内部が暗い急な石段のトンネルを抜け、尾根鞍部に出ると眺望が広がり、はるか下にウルバンバ河が蛇行し、それに沿ってクスコからの鉄道が走っていた。日暮れ近くになってプユタカマルカ遺跡近くのキャンプ場(高度3600m)に到着し、本トレッキング最大の山場を無事クリアした。

キャンプ場は見晴らしのよいゆるやかな草肌の尾根の上、夕方の霧に包まれて視界はきかなくなっていたが、晴ればテントで寝ころびながらアンデスの山並が望めそうである。ここだけはトイレは急存えのテント・トイレであった。

・トレッキング第4日

深夜降雨があり、翌朝の天候が心配であったが夜明け前、モーニングティで起こされる頃にはすっきり晴れ上がり、ヘッドランプを点けて近くの展望台に登る。360度の大展望で、南に純白のサルカントイ峰(6271m)、その右にやや低いこれも純白のプマンジヨ峰(6070

m)が前穂高岳の北尾根のような鋸歯状の岩尾根を従えて立ちほだかっていた。日の出頃には残念ながらサルカントイ峰の頂上部にガスがかかったが、さらに遠くにアンデス高峰の山並が出現し、すばらしい展望となった。ツァーリーダーが我々をこのキャンプ場まで歩をのばさせた意味がよくわかった。

朝食後、ポーター・キッチンボーイとお別れのセレモニーとなった。

合同の写真撮影と彼らのアンデス賛歌の合唱、それに対する返礼として我々は「山男の歌」を合唱し、握手を交わした。その前に彼らに報酬が配られたようで、皆微笑みつつ別ルートで足早に下山して行った。

今日もキャンプ場より急な石段が始まった。すぐ出てきたかなり大きいプユタカマルカ(雲の上の街)遺跡でも水路には清冷な水が流れていて今も生きています。霧に煙るうっ蒼たるジャングルのなかをいつ途絶えるかわからない石段をくだって行く。ここでも内部が階段となっているトンネルを滑って行き、石段に飽きてきた頃やつと下りもゆるやかになって、インティブク遺跡が出てきた。細跡には

広場ではアルバカヤリヤマが草を食み、長閑な風景を演出していた。かなりの見学者があったが、それでも今朝は雨のため普段より少ないと言う。インカ古道と違つて乗物で来られるだけに大勢の人が押しかけるようだ。

登山バスの山頂駅には、立派なレストランとホテルを兼ねるサンクスチャアリ・ロッジがあり、観光シーズンは登山バスの混雑を避けるために宿泊する観光客が多い。宿泊費は高価とのことである。登山バスはクスコから麓まで陸路が無いため、鉄道によって車体ごと運搬された25人乗りのミニバスが頻繁に動いている。登山道路は標高差4000級の急傾斜の山腹に付けられた日光イロハ坂を思わせる九十九折れの道路だが、幅は一・五車線と狭く未舗装。この遺跡の発見者に因んで「ハイラム・ビンガム道路」と呼ばれている。登山バスでインカ古道を横切りながら降り立った麓のアグアス・カリエントスからは山上に壮大な遺跡があると思えず、ただ樹林の高山がそびえ立っているだけであった。

1911年7月にアメリカの歴史学者ハイラム・ビンガムが、文字による記録

がほとんど無いなか、秘密基地ビルガバンパに関する古文書の数行の記述にヒントを得て、ジャングルの山腹をよじ登り、累々と広がる遺跡を発見し、長い眠りから目覚めたのである。

アグアス・カリエントスは日本の六甲有馬温泉を思わせる観光基地で、温泉(泉湯)も湧き、日本人観光客もけっこう見かけた。ホテルで旅装を解き、久しぶりの本格的な料理(中華)を味わい、ベッドで横になることができた。

マチュピチュ再訪とワイナピチュ登山
明ければ晴天。観光客の混雑を考えて早朝にマチュピチュ行きの登山バスに乗る。1人の若い日本人男性の横に坐り、彼と話をする。神戸からで会社から休暇を貰って1人でマチュピチュとチチカカ湖現地のツアーに参加したが、彼以外は全てアメリカ人と言う。インカトレイルでアメリカ人の団体に若い日本人女性が唯一人参加しているケースに出会ったが、何んこの頃の若い人の物怖じしない度胸には恐れ入る。

30分程で遺跡入口に到着したがすでに入場管理所には大勢の人で混雑を極めて

いた。入場料は20ドル(額割有り、10ドル但し国際学生証必要)とけっこう高いが、これにはトレッキング途中で遺跡の修理や除草に多くの人が働いているのを目にしたことを考えれば納得できた。なお昨日の入場料はトレッキング料に含まれていた。また遺跡内にはトイレが無く、入口の有料トイレは0・5ソル(約17円)を払つての利用となっている。

バスポートを提示して入場し、さらにワイナピチュ峰の登山口で登山者名簿に記帳して入山する。昨日遠くから眺めたワイナピチュは垂直の岩山で、とても登れそうになかったが、やはり取り付いた登山道は険しく急な石段の連続ではある危険箇所にはロープや手摺りが設置され慎重に登ればさほど問題は無い。なにぶん道幅が狭く、登降の行き交いで待ち時間がかかり、1時間半程で頂上近くになった。

何と断崖絶壁としか思えないこの山に段段畑が出てきた。石垣の高さ約3尺に幅約1・5尺と大変狭い畑だ。頂上の月の神殿に捧げる農作物を収穫するためのものである。一部石垣修理のため堀り起こされた肥沃土が出ていた。岩だらけの

山なので麓から搬入したのであろう。

段段畑を過ぎて危険な露岩や大岩滑りを慎重に登り切ると、頂上の岩場に躍り出た。日本の槍ヶ岳頂上より狭い。全く平坦な所はなく各自岩の上で休憩する。昨日とは反対方向からマチュピチュ遺跡を見下ろしたが、頂上の月の神殿へは修理中で進入禁止となっていた。

次から次へと登山者が登って来るので休憩もそこそこにして下山する。下山は膝を庇いながら慎重に降りたが意外に早かった。1時間余りで全員無事入山管理所に下山し、遭難者把握のための下山時刻を記載した。ここは転落事故が多く、数日前にも発生したとのことであった。

下山後は遺跡を再訪。遺跡の中心にある太陽の神殿、王家の神殿、最高所にある日時計、今も使える水飲み場、住居跡、ミイラの置かれてあった陵墓、生け贄を繋いだとされる不思議な穴のあいた石、墓地の下に繋がるインカ古道に侵入した敵に対してすぐ落せる橋などを見学。クスコの遺跡で見た「12角の石」の剃刀の刃も通さぬ石積の目地以上に、「20角の石」に代表される精巧な石造りには感嘆せざるをえなかった。

石の工作場も出てきたが当時は鉄の工具は無く、燧石を利用して切断加工されたとされる。石の切断には石目に沿って開けた小穴に水を含んだ木の小枝を突っ込み、低温時の水の凍結膨脹を利用して、ひたすら石で石を割り、そして砂と砥石で削ったというインカの人々の驚くべき執念と努力の様子がうかがわれた。遺跡を見ていると興味津津、いつ果てるかわからなかったが帰りの時刻も迫り、後ろ髪を引かれる思いで遺跡を後にした。

昼食は遺跡入口のレストランでとる。ピュッフェスタイルで観光客で混雑していたが、フォルクローレ(アンデスの牧童の民謡)を演奏していた。演奏後、楽団員が彼らのCDを売りに真先に我々日本人の所に来てきた。彼等には日本人はよほど金持ちに映るらしい。さっそく値切り交渉し、一枚15ドルを8ドルに負けたが、彼らはけっこう上乗せだった。果たして安値な買物だったか疑問であった。

クスコ行き急行列車は六両編成の全車指定席で本日は満席であった。各車両には男女各1名の車掌が乗車し、軽食のサービスは往路と同じであった。しかし、途

中から男性車掌の狭い通路での民族衣装のインカ踊りが始まり、乗客達は突然の演出で唖然とした。続いて女性車掌のアルパカ衣装のファッションショーが行われ、車内は華やいだ雰囲気包まれた。クスコ手前の丘陵越えのスイッチバックに時間を要するので、我々は一つ手前の駅で降り、手配のバスで丘陵を越えて帰った。丘陵途中からのクスコの街の夜景は世界遺産に登録されているだけに、派手なネオンはいっさい見られず、古都らしい落ち着いた雰囲気に包まれていた。その夜は往路と同じホテルに投宿し、レストランでフォルクローレの演奏を聴きながらクスコ最後の夜を楽しんだ。

翌朝リマに飛び、日本人移民、故天野氏のアレ・インカ時代の貴重な収蔵品のあるアマノ博物館を訪れ、日本人学芸員の懇切丁寧な説明を受けるなどの市内観光をし、深夜のフライトでニューヨーク経由で帰国した。

時差と長時間のフライトですっかり疲れ果てたが、白銀の下、多くの謎を秘めたインカ・ペルーの旅は、ぜひもう一度訪れたいと思っている。
(平成16年9月17日〜26日歩く)

伊吹山北の虎子山へ

湖北

磯部 純

伊吹山から北へ続く県境稜線上の国見峠までを「伊吹北尾根」と呼ぶが、虎子山は国見峠から県境稜線を北西に登った所にある。近江・美濃の国境線上にあるといっても、近江側から登るにはアプローチが長いうえ交通の便が悪く、どちらかというと美濃の山といってもよいだろう。そんな山へ山科の大兄のワカン個人山行で登った。国見峠からのピストン往復だけだったら楽な山行だったろうが、東の急尾根をくだったことでリングワンデリング。こんなことはままあることだが、ハブニングが続発し、その対応に心ある人達から非難されることが多いと思われるが、今後の反省となる山行であった。

今日こそ忘れ物が無いようにと、十二分にチェックして家を出たが、やはりあった。携帯電話だった。最近私は、新ハイ仲間の間で何かを忘れてくる人の代名詞のように言われており、毎回、その汚名を晴らしたいと、十分にチェックをしているつもりなのだが……

山科駅で大兄の車に同乗する。この日は甥の彼女との3人で、一路関ヶ原インターを目指す。この数日、天気が悪かったこともあり、綿向山や雨乞岳も山頂は真っ白。比良の山々も例年より雪が多そう。こんなに雪が多いのでは新雪を踏んで登ることになる。膝のことを考えると、登る前から気が重くなってくる。

関ヶ原インターへ着くと、奈良の彼と、久しぶりにいっしょに歩く鈴鹿の彼女がすでに到着していた。待つこと3分、物集女(向日市)のご夫妻が到着。参加するの間に聞いていたお神酒徳利の2人は仕事のため欠席とか。これでこの日の山行メンバーは7人となった。

四台の車が連なり国道216号線を東へ走る。方向を北へ変え、池田山の麓の



虎子山へ向かう

農道を走って行くと、前方に小島山が……その右手に雪を被った小津権現山が顔を覗かせていた。粕川を渡って、黒田から小島山の登山口を通り越してさらに西へ走り、小宮神で粕川沿いの右の道をとると、その奥が寺本。国見峠へはここから西へ入り、尾西谷に沿った細い道を邁る。雪のある時期、どこまで車で入れるかわからないが、何とか国見平スキー場の駐車場まで乗り入れた。ここで登る準備をする。

空は晴れ渡り、陽が差してきて全く心配なし。スキー場の西には、手の届きそうな所に虎子山が大きく横たわっていた。雪はあまり多くなく、新雪をラッセルし



て登らなくてもよさそうにも見える。それを見て気が軽くなった。

9時出発。国見峠へと登って行く。上に登るに従い、路面にも雪が現れてきた。それまで虎子山と国見山しか見えていなかったのが、高みを増すと貝月山やブンゲンがだんだんとその全容を現してくる。所どころで道端にネコヤナギを見る。まるで花のように山麓がぶら下がっている。雪はあっても、春が確実に近づいてきている。

9時55分、国見峠へ到着。近江と美濃を結ぶ峠で、歴史の間道ともいわれ、「伊吹の野麦峠」との呼称もあるという。その理由については看板に標記されていたが、書き漏してしまった。峠は何台もの車が駐車できる広さで、広場の南には平成6年12月国見林道開通記念の立派な石碑が建っていた。その右手には観音像が納められた社と長森大師と書かれた石像があり、何かチグハグな感じがしないでもない。目を南へ向けると、山頂が平らで雪をかぶった大きな伊吹山が横一杯に広がっている。

アイゼンを装着して、県境尾根を北西へ登る。左杉右雑木の尾根である。傾斜

は急なうえ、固い雪の上に10〜20cm程の柔らかい雪が積もっていて、簡易アイゼンでは足を横にしないと効きが悪い。

登るにつれ雪の深い所が現れ、標高約1000mあたりでワカンを着ける。細い尾根を雪上の小木を右に左に避けながら登って行くと、やがてブナの木が目立ってくる。そんな尾根を登り切ると、高い木は無くなり主稜線へと飛び出した。東側の展望は最高で、眼下に広がる濃尾平野のみなたに恵那山が薄っすらと姿を見せ、その左に雪を頂いた中央アルプス・御嶽山・乗鞍岳と白く浮かんでいる。すぐ目の前には鍋倉山連山・貝月山・ブンゲンが連なっている。虎子山山頂は白く続く稜線のはるか先だ。

雪に覆われた主稜線を北へ向かう。稜線には雪庇が張り出していて、その東側下に行く。思いのほか雪が積まっていて歩きやすい。一つ目のピークを越え、次のピークで尾根なりに左奥へ進むと、木の枝に「虎子山」と書かれた山名標識が下がっていた。11時40分の到着。

虎子山、別に尾西山・元国見山・胡桃山とも呼ばれている。無雪期には、下がっている標識に覆立たく思うが、積雪期



虎子山から見る貝月山

には山頂を見ることがあるだけに、何とこの山名標識がありがたかったことか。この山名標識を入れて登頂の証写真を撮る。三角点標石は深い雪の下で探しようにないが、虎子山へ登ったことには間違いない。三角点は点名「古田」、1183・2の3等三角点である。山頂すぐ西、檜林の陽だまりで昼食とする。この日はバーナーで炊いての鍋焼きうどんの昼食だ。

この谷へくだり、渡ろうか」とも言っていたが、左手に見える東へのびる尾根へ逃げたほうが楽そうに思えたのか、斜面を北へトラバースし始める。これが三つ目の失敗。その後の苦しい登りで、「思い切って谷へ降りればよかった」と悔んだが遅かった。簡単に引き着けそうだったが、小さな谷を二つ渡って尾根にのっても、見えていた尾根はまだ向こうにある。この地点からあの尾根にのるのに、急斜面をこれ以上トラバースすることもくだることも無理と判断したのか、今度はそこから尾根を登り出す。尾根分岐まで登り返そうというものであった。標高差で70分登っても尾根分岐には至らない。この間、遅れた彼女に夫人が付きつきり。少し視界のきく場所まで登り、休憩とする。あたりを見渡すと、谷南にのびていた疎林の尾根が間近に見えていた。これなら北の尾根へ向かうより、南の尾根へ向かったほうが近いこと間違いなし。ここで方針を変更して南へ向かう。小さな谷を渡り急斜面を横切っていると、突然前を歩く奈良の彼が足を滑らせた。上にいる者はただその行方を見守るだけ。

天気は最高、陽は燦爛と降り注いでいる。陽を顔にまともに受ける位置に坐ってしまった鈴鹿の彼女は、慌てて日焼け止めクリームを探すが持ってきていない。「いままさら塗っても、もう遅い」の声を耳をかき、物集女の夫人にクリームを借りて、ひと息つく。「まだ嫁いでいない娘の結婚式に黒い顔では……」と言うのがその理由。

12時30分、下山となる。初めの予定では、登った尾根をくだることにしていたが、どう気分が変わったのか、三角点からスキー場へのびる最短距離の尾根をくだることにした。地形図を見ると急過ぎる程急だが、距離が短いので何とか乗りそう。そのうえ天気は崩れそうもなく大丈夫。

だが、後のことを考えると、ここでハッキリと「どの尾根をくだるのか」を、地図読みの人達が寄って打ち合わせすべきだった。これが一番目の失敗。

山頂から南西へのびる尾根をくだる。始めはあまり木の多くない快調な尾根だったが、少しくだと、その先は急過ぎる程急で、左の斜面をくだることにする。尾根をそのまま行くより、いくぶん斜

20分も滑落して、幸いにして木に引っかかって止まった。打ち身だけでその他は異常無し。ラッキーとしか言いようのない出来事だった。そのまま谷へ落ちていたら大事だったに違いない。

そこから次の尾根へのると、そこは先ほどくだった尾根で我々の足跡が残っていた。何と、小さなリングワンデリングをしってしまったのである。そこから尾根を横切り、南のすり落ちそうな急斜面を木につかまりながら谷へとくだる。谷を渡って疎林の尾根へのった時には、正直、やっと終わったという気持ちだった。あとは疎林の尾根をくだるだけ。この尾根に咲いていたマンサクの花を見た時には、それまでの苦勞が洗い流されるようにも思えた。

16時30分、スキー場第一リフト降り場へ降り立つ。ゲレンデの端を通って駐車場へ戻ったのは16時55分。虎子山の登りは2時間40分だったが、下山は直線距離は短かったのに、4時間25分もかかっていた。明るいうちに下山できて幸いとしか言いようがない。

ゲレンデの下から、今下山してきた虎子山東斜面を見上げると、壁のようにそ

面がゆるかったからだ。そこから再び、最初の尾根へ捲き込んでのればよかったのに、そのままくだったってしまったのが、失敗の二つ目。

斜面がゆるいといっても比較的ゆるいというだけで、足を滑らせるとどこまで滑るかわからない斜面に変わりはない。最初にくだった尾根ははるか右上にあり、もう軌道修正はできない。気がつくとも急斜面の下りに弱いあの人が遅れ出す。物集女の夫人がしっかりとサポートしてくれているのを見て、彼女に任せろ。

降りやすい所を歩き、少しくだと檜林に入り、視界を閉ざされる。木を透かして見て、右の尾根、左の尾根とくだりやすい方へ行くが、だんだん現在地点があやふやになってくる。そのまま檜林のなか、小さな急尾根をくだって行くと、先頭を行っていた彼が止まっている。「この尾根の先は崖状になっていてくだれない。下は谷の合流点だ」とのこと。木の枝を透かして見ると、右手下、谷を挟んだすぐの所にリフト降り場の小原が見えているではないか。ここでやっと現在地が特定できた。右手の谷は比較的切り込んだ谷で、リーダーは「無理しても

そり立っていて、よくあんな斜面をくだったものだ、ただただあきれるばかり。それにしても、あんな猫の顔程の狭い範囲でウロチョロしていたとは、信じられない気がした。深い雪に悩まされ、苦勞して下山した彼女など、「二度とあの山を見たくない」と言うなり、見上げようともしなかった。

17時、駐車場解散。家に着いて荷物を整理すると、帽子と手帳がどこにも無い。大兄の車に忘れていたのである。この日の山行は忘れ物に始まって忘れ物に終わったといつてよい。

また、今なら笑って話せるが、その時は真剣そのもの。少し判断を誤ると遭難は間違いなく、非難を受けても仕方のない状況だった。この反省を次に生かさねば……。

(平成15年3月12日歩く)

▲コースタイム▼

国見平スキー場駐車場(55分) 国見峠(1時間30分) 虎子山(4時間) 国見平スキー場第一リフト降り場(30分) 国見平スキー場駐車場

△地形図V2万5千II美東

エリア別徹底研究

伊能ウオーカーNやまと③

王寺く畠田く尼寺く上中く狐井く良福寺く今在家く當麻寺

上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年11月晦日〔みそか・30〕〔1809・1・15〕

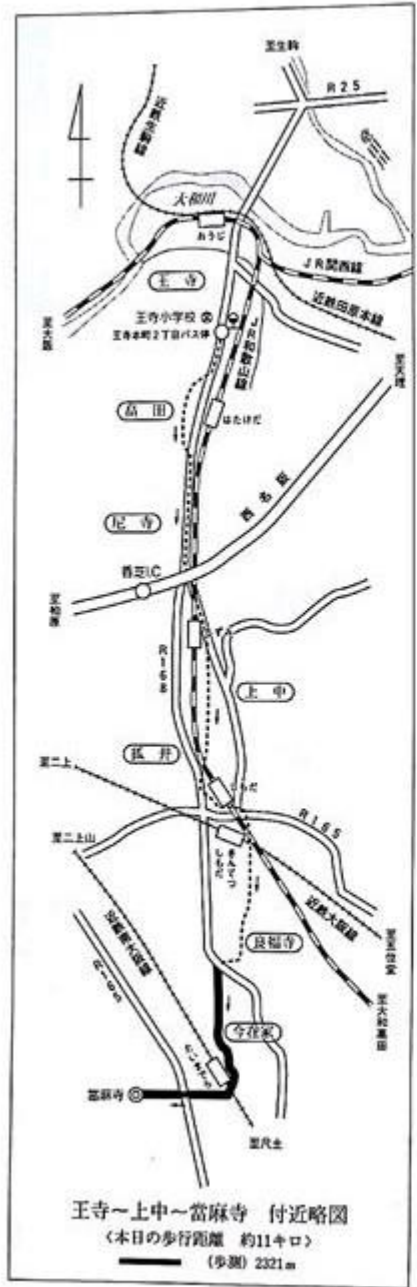
朝晴。六ツ半頃〔7時頃〕〔小幡中務支配〕王字村出立。〔松平甲斐守領〕畠田村、上里村〔現在の山中明治21年・1888年中筋村と合併〕、同枝今市〔現北今市〕、下田村〔此地内往来より右六七丁に、武烈天皇廟あり。一三丁離て頭宗天皇の廟あり。石郭にして中空なり〕。狐井村〔中倉酒屋彦右衛門〕、良福寺村、今在家村、大橋村〔是迄同上郡山領〕、それより〔中幡中務支配〕、中村〔同前〕、當麻村迄測〔ル〕〔大橋・中村・當麻・三ヶ村共に軒を寄〔ス〕〕、九ツ半頃〔午後一時頃〕に着。直〔チ〕に當麻寺〔二〕参詣。〔當麻寺御朱印三三頁、境内六町四方。止宿大阪屋源兵衛。此夜晴天測量。當麻寺（一上山といふ）真言・浄土の二宗。草創は人皇三十四代推古天皇御宇河州交野郡山田郷に建立。七堂伽藍、号万法藏院、其後六十一年人皇四十四代武天皇白鳳十四年遷造、於当山いふ。奥院横本多政勝の寄附、天樹院伏見の居室なりといふ。古金襴狩野永徳画大に好〔シ〕、靈宝教品あり。別に記す。此日郡山地方役坪内并藏・伊藤總平・吉村新治・郷役人黒松八五郎・小原善三郎村々へ出て挨拶に及〔ブ〕。〔伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達夫編著より引用

當麻寺到着14時00分、30分ばかり先生の説明を聞き、閑かな境内を散策した。元来た道を通って、當麻観速の墓と伝承する五輪塔と當麻町相摸館を横に見て、近鉄當麻寺駅に15時00分到着。本日ここで解散した。

今日は梅雨の盛りで曇り空に時折り小雨がぱらつく、むしろ暑い一日であった。本日の歩行距離は約11・0km。歩測というやり方で全国を測量した伊能忠敬の努力と忍耐に驚きと感動を覚える。

〔記録・金田雅一〕

△地形図▽2万5千Ⅱ信貴山・大和高田



王寺町本町のブリキ屋前にて



當麻寺にて



●実施日 平成12年7月11日(火) 曇時々小雨
●参加人数 17名

9時30分、王寺本町2丁目のバス停〔王寺小学校の東南角、前日6月13日に解散した所〕に集合。車の多い道に注意しながら南へしばらく行ってから右折し、畠田の芦田池で先生の説明を聞く。右手前方に二上山が見え隠れする道を南に向う。乳垂地蔵尊から尼寺を通り約1時間ばかり歩いて、JR志都美駅と武烈天皇陵の近くのお寺で小休止。さらに南に向かい、下田を通りJR和歌山線と近鉄大阪線を越えて狐井の杵築神社に11時50分に到着。神社の境内で昼食。約1時間の休憩。上田先生と伊藤さんからおいしい紅茶を御馳走になりました。ありがとうございます。

午後は、また南に向かい狐井城山古墳の横を通り、良福寺を過ぎて、国道168号線と交叉する地点から本日の歩測を行った。歩測区間は今在家を通り近鉄南大阪線を越えた所を右折し、當麻寺仁王門前までアスファルト舗装の平坦な道で約2・3kmであった。

エリア別徹底研究

伊能ウオーカーNやまと④

当麻寺駅〜良福寺〜杵築神社〜
達磨寺〜龍田神社〜法隆寺

上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年12月朔〔1〕日〔1809・1・16〕

晴天。朝六ツ後〔7時半ごろ〕當麻村出立。無測量にて同國葛下郡王子〔寺〕村へ立帰〔り〕、昨日残印より初〔メ〕、同國平群郡神南村〔美人領、木村宗右衛門支配〕、稲葉東漸村〔植村駿河守御預所〕、小吉田村〔同上〕、竜田村迄測〔ル〕、中食。同所より初〔メ〕、〔植村御預所〕法隆寺村字新町〔又、並松といふ〕迄測〔ル〕、印杭を踏し法隆寺門前迄測〔ル〕、九ツ〔12時〕頃法隆寺村へ着。止宿百姓平右衛門〔二軒〕それより法隆寺へ越〔コス〓行ク〕、諸堂拝覽、靈宝一見。〔伽藍靈宝別紙にあり。御朱印千石〕。此夜晴天測量。

〔伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達夫編著より引用

●実施日 平成12年8月8日(火) 晴天
●参加人数 16名

近鉄当麻寺駅8時30分集合。8時50分発。地形図を片手に車の多い道に注意しながら歩く。先月歩いた道をもう一度、北に向かって10分程行き、左に二上山を見ながら行くと菊作りの盛んな所に出る。良福寺と書いてある所の信号を左に見てさらに進む。阿日寺〜狐井城山古墳〜岡氏の城がある。10分程説明をうける。

杵築神社で小休止をし、9時35分出発。下田東2丁目〜下田西2丁目を通り、左へ左と行く。線路を越えんとJR志都美駅で、トイレ休憩と小休止。水分をとる。10時45分出発。

一路龍田神社へと向かう。国道168号線を歩く。車が多く、アスファルトの暑さに皆まいてる。38・4℃。乳垂地蔵尊11時03分着。説明を受け、達磨寺へ11時30分着。昼食とする。紅茶のサービスを受ける。その時、住職に会い、話を20分も聞くことになる。小冊子もいただいた。達磨寺を出発(12時30分)。

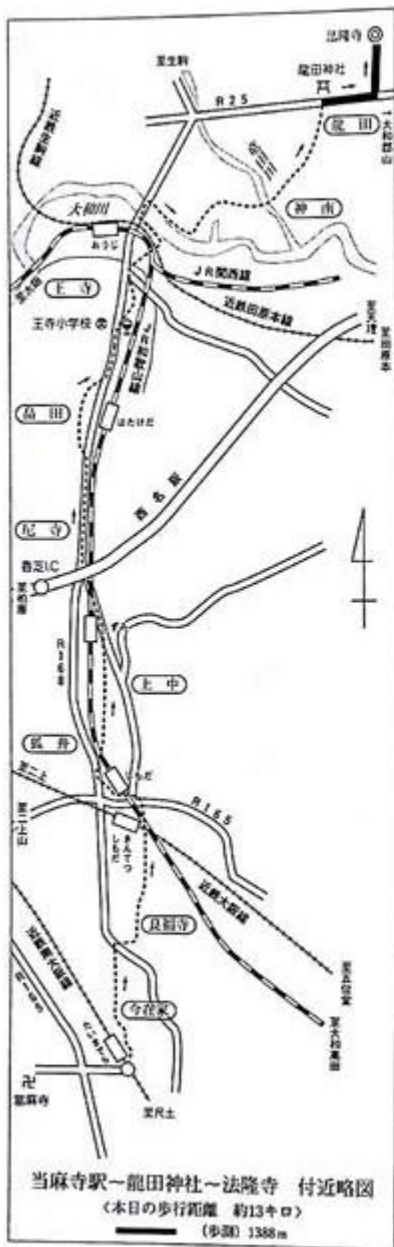
ここより二ヶ所の川(葛下川・大和川)を渡り、ちょっと休憩。今日は暑いので

休憩を多くとる(自給にて)。12時45分出発、一途龍田神社へ。トイレ休憩し、いよいよウオーキングメジャーを持って先頭に立つ。ドキドキ。うまくいくことができますか、無言にて法隆寺南大門階段下までで歩測は終わり。

本日突然の大役を言われまして、びっくり。心づもりもなく、非常に困った次第でした。本日は笹木さんのカメラがお休みで、森田さんでした。非常に暑い一日でした。おつかれさまでした。

(記録・北之間塚多子)

△地形図▽2万5千〓大和高田・信貴山



法隆寺南大門にて



法隆寺南大門に入った所



大和三山回遊と初期天皇陵 畝傍山・天香久山・耳成山

コースとコースタイム 近鉄畝傍御陵前駅 20分、緩靖陵 (5分)、神武陵 (10分)、橿原神宮 (20分)、橿原陵 (10分)、安寧陵 (15分)、天香山神社 (25分)、畝傍山 (25分)、橿原森林公園 (35分)、孝元陵 (20分)、甘樫丘 (1時間)、天香久山 (35分)、興隆寺経由、橿原宮跡 (35分)、耳成山 (20分)、近鉄大和八木駅 (徒歩15分、約5時間30分)

中村 敏文

大和三山を比較的に多人数で回遊できるコースと企画し、実施してみた。

① 緩靖天皇陵 (橿原市四条町)

近鉄畝傍御陵前駅から西へ畝傍御陵前バス停まで歩き、大通りを北へ農業試験場前バス停を過ぎると緩靖陵へ着く。鳥居の奥に畝傍山を背に南面する裾部が、八角形の御陵である。第二代緩靖から第九代開化天皇までの八代は欠史八代といわれ、「記紀」にも皇居・在位期間・享年と御陵の記事だけで治績の記事がない。

神武天皇の末子で事代主命の娘、五十鈴依媛を皇后とあるが、欠史八代は実在しない。

性が乏しい天皇である。畝傍山西北山麓にスイセン塚もあるが、当陵の桃花鳥田丘上陵を緩靖陵と治定された。

② 神武天皇陵 (大久保町)

緩靖陵の南200mの畝傍山東麓に第一代天皇陵にふさわしい神武陵がある。文久三年(1863)に治定されてより幾度も整地拡張され、昭和16年の皇紀2600年に現在の御陵となった。

『日本書紀』と『延喜式』記載の畝傍山東北麓と称される宮内庁の管轄で、橿原宮で即位した神日本磐余彦尊は漢風諡号で神武天皇となり、日本国民は千有余年も日本建國の天皇として信じてき

た。初代ゆえか御陵・橿原神宮ともども参拝者が多い。



畝傍山

③ 橿原神宮 (畝傍町・久米町)

神武陵から南へ向かい、表参道から北神門を潜って畝傍山を背にした拝殿に着く。神武天皇・姫蹈躰五十鈴姫命を祭祀する橿原神宮は明治21年の橿原宮治定に始まる。地元有志の神社創立の請願が認可され、同22年より建立が始まり、京都御所の賢所を本殿に神嘉殿を拝殿に移築し、同23年3月に造宮完成した。橿原

神宮と称し最高格式の官幣大社に列した。

昭和13年から15年に皇紀2600年記念事業として神宮の拡大整備が行われ、拝殿も神楽殿として移築され、柳本織田藩陣屋の書院を文華殿に移築した。広大な神域とはば現在の神宮の姿は軍国主義国家体制中に完成し、終戦後にも

多くの修復を加えて現在の神宮となる。

④ 懿德天皇陵 (西池尻町)

橿原神宮の南神門を潜り、深田池畔を西へ行くと懿德陵がある。第二代緩靖天皇から懿德・安寧・開化天皇まで欠史八代は、「記紀」に出生・父母・享年・御陵の記載はあるが治績の記述がない。

畝傍山南麓沙洲上陵は「古事記」に「御陵は真名子谷の上にある」とあるので、池田神社付近のイトクノ森の墳丘御陵説をも退けて、マナゴとマサゴの音の類似や「まなご谷」の存在から治定された。

⑤ 安寧天皇陵 (吉田町)

懿德陵から畝傍山南山麓を西へ行くと、西南の水田地帯へ丘陵が突き出ている。古墳らしい墳丘はないが、この丘陵全体を畝傍山西南御陵井上陵に治定された。現在、陵の東南の丘に安寧神社が陵の上から移されておると、陵の南に接して無住の安寧寺が残り、参道には御陵井と呼ばれる井

戸がある。里人がこの丘陵を安寧山と呼ぶなどから安寧陵となつたらしい。

⑥ 畝火山口神社 (大谷町)

安寧陵から北方へ市道を歩き、石灯籠から東へ大谷を上がると山口神社がある。延喜式新念祭祝詞に「山の口に坐す皇神等の前に白さく。飛鳥・石寸・忍坂・長谷・畝火・耳成と白して」とみえる大和六所山口社の一つである。畝火山口坐神社など六所山口社は飛鳥期からの古社で、現在は旧社地から移動したり、祭神が変わったりしている山口神社が大半である。

当社も室町末期に貝吹城主越智氏が山の口から畝傍山頂へ移し、皇紀2600年記念事業で橿原神宮に不敬だと現在地へ移された。当社の旧地は大谷の現在地か東山麓の大谷日女神社あたりと思う。現祭神も氣長足姫命・豊受比売命・表筒男命で、大山抵神は境内末社の大山抵神社の祭神となっている。畝傍山は、お峰山・大鳥山とも呼ばれ石碑が残る。

⑦ 畝傍山 (大谷町・畝傍町・大久保町)

海拔199.9mの山頂へは北を除く三方



岳書縦走

新刊

雁部貞夫著 菊判上製 五七五円
 〈新アララギ〉の選者・編集者であり岳人でもある著者による、内外の著名な(山の本) (登山記・紀行・自然・民族・文化) 10篇の書評・解説を集大成した山の書誌文化誌。

好評発売中

新刊

おれにんげんたち
 アルス・ウザラーはどこに
 岡本武司著 四六判上製 一八九〇円
 黒澤明も感動したウズリーのタイガに、探検家アルセニエフの足跡をたどり、先住民アルスとの友情、自然と人間の関わりを豊富な資料で探究する。

★表示の価格は5%税別です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161

から登山道が通じているが、山口神社の二の鳥居横から尾根を上がる。ジグザグに上がり、案内板前から北へ上ると山頂で、旧山口神社の社殿跡と北と西北しか展望がきかない、旧境内広場がある。長居無用の山頂で案内板まで戻り、東へ急勾配の山道を下る。山腹を南へ伝い東へ急坂を大谷比女神社付近へくだる。

⑨ 榎原森林公苑(飯傍町)

昼食休憩は榎原森林公苑内、13時に文華館前と申し合わせて自由散策とする。昼食はイトクの森付近と深田池北岸が何かと都合がよいのか、みな自然に集まる。人慣れした水鳥の仕草を眺めたり、餌を与えての昼食は楽しい。

⑩ 孝元天皇陵(石川町)

孝昭陵・孝安陵は御所市、孝霊陵は王寺町と散在するので石川町へ向かう。大歳神社の参道口手前から石川池の西岸を伝い、南へ廻ると孝元陵の正面へ出る。南は青山、三方を池に囲まれた小山のような御陵である。中山と呼ばれている小山には小型の前方後円墳が一基円墳が二基あるが、前方後円墳を御陵とする。

⑪ 甘樫丘(明日香村豊浦馬辺)

大和三山は展望がよくないので甘樫丘で四圍を眺めようと、孝元御陵から豊浦町を抜け、和池池を廻り明日香村へ入る。園宮飛鳥歴史公園の甘樫丘地区は展望広場や休憩施設が北部にあるので、休憩

⑫ 天香久山(南浦町・城外町)
 香久山へ向かうため豊浦バス停へ出て、飛鳥川を渡り雷の集落を抜ける。奈良の大安寺となった小山の大官大寺跡を訪ねて明日香村を離れ、榎原市南浦の集落を抜け、天岩戸神社を訪ねる。神殿のない大石窟という岩穴を拝む形式の社で、式内の坂門神社説もあるが天照大神をまつる。

香久山の南山麓を廻り西側の狭い車道を上ると、右へ上がる登山道がある。狭い急坂を尾根まで上がり、南へ尾根を伝うと海拔1527mの天香久山山頂で、狭い広場に小型木殿の国常立神社がある。数10人は休憩できるが、周囲の樹木が邪魔で展望はほとんどきかない。



天香久山



耳成山

⑬ 藤原宮跡(高殿町)
 下八釣町から高殿町の集落を西へ抜けると、買収済みの藤原宮跡が広がる。現在発掘調査中で大極殿跡のみが小高く整地してある。北限は横大路、東限は中ノ道、西限は下ノ道、南限は上ノ道の延長である山田道、膨大な宮跡は未整地である。

⑭ 耳成山(木原町)

藤原宮跡から醍醐池畔へ上がると、

と式内大社の天香山(坐禪真智命神社に比定される天香山神社がある。京都市下京区の卜庭神の久慈真智命神社の本社に当たり、朝廷の卜事を司った神として神武天皇記にもある古社で、昔は香山山頂にまつられていた占兆に関係深い神である。天香山神社から北浦をくだり下八釣町に入ると、八釣山地蔵尊で参詣者が多い興福寺がある。物部守屋に焼かれた興福寺東金堂の地蔵尊で八怖の災いを除くという。

興福寺のすぐ西に歐尼(坐健土安神社と欧尼都多本神社が隣接している。

⑮ 藤原宮跡(高殿町)

山頂から西へ廻り少しくだると、式内大社の耳成山口坐神社に比定する社がある。明治の七ヶ村の氏が祭祀する旧郷社で六所山口社では一番立派である。現在、山之坊町が祭祀する分社山口神社が近鉄線の南にある。山口神社から古池の西を伝い、20分近鉄大和八木駅へ着く。

高野三山を巡って

松永恵一

平家物語と高野山

『平家物語』の「高野之巻」は語る。高野山は落城を去つて二百里、京里をはなれて無人声、晴嵐梢を鳴らして、夕日の影しづかなり。八葉の峯、八つの谷、まことに心もすみぬべし。花の色は林務の底にはころび、鈴の音は尾上の松にひびけり。瓦に松生ひ、壘に苔むして、星霜久しく覚えたり。……

安元三年（1177）6月1日早朝、鹿ヶ谷の平家打倒の企てに参画した者が一斉に捕縛された。首謀者の一人、西光法師は即日斬首、藤原成親は備前に流罪後殺害された。俊寛僧都は、成親の子・成後、平康頼と共に薩摩の鬼界ヶ島に流された。成後と康頼は赦免を折り許され

る。俊寛は足摺りして沖へ去る船を身送った。俊寛の侍童有王は、俊寛を訪ね渡島した。妻と息子の死を知った俊寛は自ら食を止め、息絶えた。有王は俊寛の遺骨を首にかけて高野山に登り、奥の院に納めた後、蓮華谷で出家して法師となり、諸国七道を修業して主の後世を弔った。

鳥羽院の御代のこと、安芸守平清盛は安芸国から上がる財源をもって6年の歳月をかけて高野山の修理に努めた。大塔の修理が終わわり、奥の院に参詣した清盛に、老僧が話しかけた。「越前の氣比神社は金剛界、厳島神社は胎藏界を祀る。厳島はすっかり荒れ果てている。朝廷に奏上して修理してもらえまいか。そうすれば貴方は天下に並び無き位に就ける」

積み上げられた石塔



と言いつ残して去った。不思議な芳香が漂っていた。清盛はこれこそ弘法大師よと、金堂に両界曼荼羅を描くことを決めた。清盛は厳島神社の修復を終え、参詣通夜しているとき神童が現れ、「汝この剣で以て天皇家をお守りせよ」と白銀の小長刀を賜った。厳島大明神は、「高野山で老聖が申された事を覚えてるか。但し、悪行を働けば子孫繁栄までは叶わぬぞ」と。まことに平家の栄華は短かった。

血曼荼羅

絹本着色両界曼荼羅図が伝わる。血曼荼羅と呼ばれる縦横約4尺の曼荼羅について、『平家物語』の「大塔建立」は語る。「高野の金堂に曼荼羅を書かれけるが、西曼荼羅をば常明法印といふ絵師に書かせらる。東曼荼羅をば清盛書かんとて、自筆に書かれけるが、何とか思はれけん、八葉の中尊の宝冠をばわが首の血をいだいて書かれけるとぞ聞こえし。」

久安五年（1149）5月、根本大塔は落雷で焼失した。再建の命が平忠盛に下った。息子の清盛が務めた。保元元年（1156）4月29日、根本大塔は完成をみた。寺社と関係結び功徳を得る結縁思想から、当時の有力者は信仰心が厚く、法会や写経、社寺の再興に財をつぎ込んだ。一族の繁栄と万民の豊楽を強く祈願した清盛は、再建された金堂に懸ける両界曼荼羅図を制作させ、自らの額の血を混ぜて八葉の中尊の宝冠を描いた。近年、科学的な調査が実施されたが、血液反応は出なかった。絵絹は日宋貿易による輸入品の可能性も指摘され、軸木の内部には、供養のために納められた毛髪が確認された。

平維盛の参詣

清盛の嫡子重盛の長男として生まれた維盛は、容姿端麗で桜梅少将と呼ばれ光源氏にもたとえられるほどであった。鹿ヶ谷事件首謀者の一人藤原成親の娘を北の方にしてしたことや父重盛の早世、総大将として望んだ富士川の合戦、俱利伽羅峠の合戦で大敗を喫したことなどで、一門の中で孤立していた。元暦元年（1184）2月、一の谷で手痛い敗北を喫した平家は、屋島に退いた。妻子を都に残したまま都落ちした維盛は3月15日、密かに屋島を抜け出し紀伊の港に着いた。今更都に戻っても恥を重ねるだけだと思いつ返しした維盛は、高野山を目指し重盛の侍であった滝口入道を頼った。

滝口入道の案内で高野山奥の院に詣でた維盛は出家の決意をする。付き従ってきた重景・石重丸を都に返そうとするが、承知せず3人も出家した。山伏修行者に身をやつし、滝口入道の案内で高野山を後に、各王子を通って熊野に向かい、熊野三山を巡礼し極楽往生を願った。那智の南、浜の宮から船を出し、念仏を唱えながら維盛は入水して果てた。2人の従者も後に続いた。

滝口入道と横笛

小松内大臣重盛の家臣斎藤滝口時頼は、建礼門院の雑仕横笛を見初め恋に落ちる。名門の婿にと考えていた時頼の父親は激怒する。「人生は瞬く間の夢まぼろしのようなもの。意に添わぬ女を妻にして何になろうか。そうかといって好きな横笛を妻にすると父の命にそむくことになる」横笛への思いを断ち切るために、嵯峨の往生院に通世。伝え聞いた横笛は、「どうして一言教えて下さらないのか。うらみ言申しましょ」と尋ね歩く。とある僧坊から滝口入道の念仏誦経の声。横笛は、会いたい旨伝える。入道は会いたい気持ちを抑えて追い返し、念仏修行に専心するために高野山蓮華谷浄心院に入る。横笛も後を追ひ、法華寺で尼になった。伝え聞いた入道の贈った歌。

そのまゝでは恨みしかどもあづさ弓
まことの道に入るぞうれしき
横笛の返した歌。

それととも何か恨みむあづさ弓
引きとどむべき心ならねは
横笛は入道を慕うあまりか、ほどなく世を去る。滝口入道はますます専心修行し、人々は「高野の聖」と呼んだ。



摩尼山のツガ林

コース概観

奥の院の弘法大師御廟をぐるっと囲む高野三山。摩尼山(1004m)、楊柳山(1008・5m)、転軸山(915m)を巡る道は、数多の女性がお大師さまを慕い歩いた女人道。鬱蒼と茂った奥の院の大杉林、摩尼山の斜面に残された原生林、山野草、野鳥の囀り、蟬時雨、紅葉、霧水。自然の恵みに満ちあふれた高野三山を、お大師さまに導かれて歩いてみた。

南海高野山駅の駅舎は、木造で歴史を感じさせる。駅前から南海りんかんバスに乗り奥の院前へ。大きな供養塔や墓石が林立する石畳の道に入る。左に入ると奥の院弘法大師御廟へ向かう。直進し玉川を渡る。御廟橋の手前右手に休憩所がある。お茶をいただき支度を済ませる。御供所を右に折れると公衆トイレがある。前方に裏道の駐車場があり、山手に車止めの鎖をした進入路が見える。車道を右にとり、車止めの鎖をした山道に入る。要所所に木製の新しい道標が付けられている。地道を徐々に登る。杉の老木が並ぶ明るい静かな登山道。苔むした小さな木の橋を渡ると、深山幽谷の気に包まれる。谷に沿ってしばらく歩くと、登りが急になると摩尼峰に着く。大木の下にお大師さまを祀る祠と「高野七口女人道」と記した案内板がある。大木は高野六木のひとつ樅の木。スギ・ヒノキ・コウヤマキ・アカマツ・モミ・ツガの六種類の樹木は、寺院の建立や人間の生活に欠かせない木として大切に保護されてきた。高野山の長い歴史を語りかける大木に向き合い、しばらく過去・未来に想いをさせていた。

峠の三叉路を左折して急な尾根道を摩尼山に向かう。摩尼山の原生林の一端を垣間見ながら急登を続け、右に大きく曲がると山頂に着く。丸木でつくられた階段は歩きやすい。山頂の小さなお堂には如意輪観音が祀られている。お大師さまは如意宝珠を埋められたと伝わる。摩尼山原生林は巨木で知られる。ツガは全国で三番目と五番目の巨木が存在するといわれている。カツラ・ヤマザクラ・ブナ・ミズナラ・クリなどの巨木も見ることが出来る。前方に高野三山最高峰の楊柳山の形の良いピークを見ながらくんだり、尾根伝いに進む。きれいに植林されたなかを上り下りする。豊臣秀吉の話が残る。秀吉が山内禁止の能を催したときのこと。突然雷雨になった。弘法大師の怒りがあったと思っただ秀吉は、馬に飛び乗るとこの黒河道を橋本まで一気に駆け下りたという。よく踏まれた道は再び登りになる。急な階段を切り切ると高野三山の最高峰楊柳山の頂上。三輪明神と楊柳親世音菩薩を祀る。観音の光背には明和八辛卯(1771)と刻まれている。3等三角点は



祠の奥にある。北緯34度14分7、東経135度36分24、標高1008・53m。「摩尼山20丁」転軸山20丁」の道標がある。ブナの木に疲れを癒されながら、楊柳山学習展示林の案内板を読む。転軸山に向かう。しばらくくくると三本杉への分岐。尾根道をたどると「奥の院ちかみち」の石標が建つ。木々の間から金剛山が見えてくる。どっしりとした神奈備の姿が美しい。杉林の尾根道を徐々にくんだり、登るとベンチのあるピークに着く。和泉山脈や

眼下の紀ノ川の眺望を楽しむ。コース一番の難所といわれる急な丸木階段を一気にくだる。ぐんぐんくだると子安地蔵を祀る子継峠。南に曲がり杉林を広谷沿いにくだる。小さな流れが水音を立てて流れ出す。くんだり切った所で木の橋を渡る。杉の植林から抜け出し、平坦な道となり、いっせいに空の面積が広がり明るくなる。小川沿いの道を歩むと、やがて奥の院への裏道車道に出る。

車道を渡ると転軸山へコース最後の登りとなる。きつい登りを心配していると、思ったより楽に山頂に着く。祠には弥勒菩薩が祀られている。前には宝篋印塔。お大師さまは三部経を埋め置かれたと伝わる。こども見通しはきかないが、木々の間から北に楊柳山、右手前に摩尼山が見える。下山道は南にくんだり転軸山森林公園を経て一の橋口バス停へ向かう道と、東にくんだり奥の院へ戻る道に分かれる。ゆるやかな道を森林公園へくだる。大自然とふれあえる体験型の森林公園内には、林間イベント広場や多目的広場、西洋シヤクナゲ園・アジサイ園、スキー場もあり、高野山の四季をたっぷり満喫できる。ログハウス八棟、バーベキュー一棟、シヤ

ワー棟も完備していて、家族連れでのキャンプに最適。

森林公園からくんだり行って中之橋霊園の門に入る。途中で右に入ると森林学習展示館。トイレを過ぎ、小さい橋を渡り木立のなかを進むと奥の院の参道に出る。左折して御廟に向かう。今日一日の山行の無事を感謝し、家内安全・無病息災を祈る。お参りを済ませて一の橋口バス停まで歩く。

- ▲コースタイム▼
- 南海高野山駅(バス20分) 奥の院前バス停(40分) 摩尼峰(15分) 摩尼山(40分) 楊柳山(1時間5分) 転軸山(20分) 転軸山森林公園(35分) 弘法大師御廟(15分) 一の橋口バス停(バス15分) 高野山駅
- ▲地形図▼2万5千 高野山
- ▲費用▼難波駅 高野山駅 1230円
- 高野山駅 奥の院前 400円
- 一の橋口 高野山駅 320円
- (問い合わせ先)
- 高野山観光協会 0736(56)2616
- 高野町産業観光課 0736(56)2931

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑩

「生駒山」

西尾 寿一

今日では生駒山(642m)を登山の対象と考える人は少ないと思うが、我國の歴史上無視できない大きな存在であることが忘れられている。

大和三山・大峯・高野・京都の諸山など、よく知られた名山も数多いが、生駒山ほどの質量はない。おそらく我國の創草期の歴史に生駒山は圧倒的な比重を占めていたのである。

その証明は、生駒山系に旧式内社が四十六社あり、その他、仏教・修験・祖霊アニミズム・朝鮮系シャーマニズムや山岳・水信仰・断食道場・占いなど一四〇ヶ所(生駒の神々・宗教社会学の会による)の存在がそれぞれ個別に信者を獲得し、活動している事実によっても明らかである。

その密度の高さは比類なきもので、大和政権成立以前から現在に至るまで切れ

よって孔舎衛坂(現東大阪市日下町)で敗れている。この日下が重要な意味をもっているのである。

さて、神武軍は熊野へ大廻りして東より再びナガスネヒコに攻撃を仕掛け勝利し、大和に統一政権を立ち上げることになる。

ここで問題なのは、ナガスネヒコが君として奉ずるのが物部氏の祖「櫛玉饒速日命」であった。物部氏はのち、大和へ遷り大和政権の中核的位置に進出するが、ナガスネヒコとの関係で疑問点が多い。「日本書紀」は、ナガスネヒコの神武軍への徹底抗戦の意志の強さに閉口し、殺害して帰順したと述べるが、物部氏の記録では鳥見で病死したと逃げを打っている。物部氏の立場の微妙さがわかる。

その物部氏も九州からの東征組だが、神武よりはるか早く東進し、地元勢の有力者との婚姻関係を結ぶことで和解した結果、河内に定着したのである。神武東征以前に多数の渡来系氏族が東征を繰り返したのであり、物部氏同様土着化に成功してははずだ。神武は後発組で武力と陰謀に頼るしか方法がなかった可能性もある。

目なく続いていることに今更ながら驚かされる。

その生駒山の山名解題となるといかにも荷が重いが、登山人の誰かが必ずやらねばならない課題である。

生駒山の成立

生駒山の山名由来は小生の知るところ時代的に四段階に分かれると思う。

第一段階は土着の民族(縄文でも弥生でもよい)が使ったものであるが、無文字なので記録されていない。

第二段階は、たぶん渡来系氏族の移住時代だ、瀬戸内海や陸路で難波津へ上陸し、河内に定着する。この時代の中心拠点が現在の東大阪市の日下町であり石切神社のあたりであった。この時代難波津に上陸した部民はいったん日下に集合したものらしい。(草香山・日下山)

これとは逆に土着民とされるナガスネヒコなどが生駒山をどう表現したかは不明である。

第三段階は、物部氏がナガスネヒコを懐柔し、北河内に定着する時代である。(峠峯)

第四段階は、「記紀」の時代で、生駒

津に上陸し、ナガスネヒコの祖と和睦したのち北河内に定着する。

生駒山地の北辺に磐船神社がある。枚方から私市に至る神社一帯は家族ハイキングで人気が高いが、その磐船神社こそ物部氏の祖ニギハヤヒが天降りした場所だ。巨岩の岩船からの展望は現在も河内方面に優れているが、いかにも神話の里らしい風景だ。

このニギハヤヒの降臨した山を「峠峯」というが、のち大倭国鳥見白庭山に遷るとあり、二つの山名が見られる。天野川の水源となると現在の生駒山の北辺となり、生駒以前の名とも考えられないこと

もないが、少なくとも生駒本体とは思えない。白庭山も鳥見の山で除外するべきだろう。

「大日本地名辞書」で吉田東伍は生駒山のことを「峠峯」として江戸時代の例を挙げたが、「磐船山」を当てる文献が多い。又「饒速日山」を当てるものもある。

物部氏の先祖が降臨したのは岩船のある山だから生駒山とは一線を画すべきだが、江戸時代には同一視されていたよう

山一帯が物部氏から中臣(藤原)氏に移って生駒山が成立する。「万葉集」にも草香山・草香の山などと共に「直道」が出てくる。これは大和から難波へ越える最短距離の道で「孔舎衛坂」とも言った。文献では生駒山成立は中臣の時代であったようだ。その生駒山の山名由来はどうかである。

それは三例ある。柳田國男「山島民譚集」に集録された次の記事に含まれる。「馬ハ応神天皇ノ御世ニ高麗國ヨリ初メテ之ヲ貢獻ス。之ヲ飼フベキ途ヲ知ラズ、山ニ放チタルニ依リテ其山ヲ生駒山ト云フ。」とあり、生駒のコマは高麗をコマと読むことが第一、次に馬の放牧地としての山が第二であるが、両者は共通根をもっている。

生駒山の漢字異体は、射駒・胆駒などあるが問題なしイコマであり、これをどう受け入れるかが焦点となる。その三は大和の隅説だ。

生駒の時代的背景
時代は大幅に遡る。「記紀」の神話時代、神武東征軍は難波から東進したが、鳥見(現生駒市)の家族ナガスネヒコに

だ。その物部氏も後年、蘇我氏との政争に破れて河内の本拠地に逃れたが、やがて敗れ去り歴史から消滅する。のちに生駒を支配するのは春日神を奉ずる中臣・藤原氏である。

九州から東征した幾重にも重なる勢力はほとんどが朝鮮半島からの渡来系を祖とする氏族だが、彼等は難波に上陸し、まず生駒の西麓の孔舎衛坂・草香邑・日下にて河内を南北に移動した。大和政権成立以後は生駒を越えて大和入りを果たしていた。

「日本の神々」第三巻、磐船神社と天照大神高座社(岩戸神社)には興味深い記述がある。「日下は生駒山頂の下にある。物部氏が祀るフツヌシを祭神とする大和の石上神宮は、生駒山頂付近に夏至の夕日が落ちる位置にある。というこ

とは、生駒山系の最高峰から見れば、日本国の冬至の朝日は、石上神宮のある背後の山から昇るのである。また住吉大社から見るならば、春分・秋分の朝日は、岩戸神社の背後から昇るが、夏至の朝日は、田原の磐船山(饒速日山・峠峯)付近から昇る。(中略)日の出のもつ意味は単なる一日の始まりではない。死んだ太

陽の再生なのである。磐船を朝日の昇る生駒山系に作った墓に納めるのも再生祈願がこめられている」というのである。日下は日本と一セットになっていたことになる。さらに日本より古い日下こそが大和成立以前の日本の顔だったのだ。

「万葉集」に生駒山を「倭島」と詠う場面があるのは海上からの視座である。時代は下って大和より防人が派遣される際に詠まれた歌に「倭島」が現れるのは、海上を西へ船漕ぎゆく者が船上からいつまでも島のように生駒山が浮かんで見えることによる。現在、明石あたりからもこの風景は確認できる。その一首に「難波津を漕ぎ出てみれば神さぶる胆駒高嶺に雲ぞたなびく」とある。生駒山が防人の門出に際し彼等の無事を祈る守神にみえたのは当然だったのだ。

航海の神は住吉大神であるが、これも物部系で、天皇が住吉大神へ生駒山を献上した話がある。それは多数の防人と彼等の守護神として住吉と生駒山を結びつける必然性が生じていたとも思われる。

結語

「語源辞典」では①放牧地(草香など)

〈山のレポート〉

山と自然災害

生駒 登峰

昨年の日本は自然災害が多かった。特に台風は気象台が記録を始めて以来の数が上陸し、各地に大きな被害をもたらした。台風23号は列島を横断し、淡路や畿岡地方に大きな爪跡を残した。この地方には何回も山登りで訪れているので、見知った所があのような惨状になるとは考えも及ばなかった。

昨年の秋は氷ノ山周辺の山に登ろうと計画していた。しかし豊岡に近いこともあり、山にも被害があるかと思ひ、岡山県の山に計画を変えた。こちらの方は被害が報じられていないので、大丈夫と思っていた。

ところが、中国道から降りて中国山地に近づくと、山の植林が一面なぎ倒されている所がある。車が山裾を回るたびに、風の吹き溜まりになるらしい斜面に倒壊が見られる。人家の被害はなかったようだが、山は大荒れである。主要道路の県

②人・隅の合体などあるが決定力不足である。「日本地名の語源」(石波信一郎)は朝鮮語の「大加羅」からの転とするが信じ難い説だ。「日本地名伝承論」(池田末則)は「コマは隅・平群は辺国」とするが視座が問題である。生駒山は河内が表であった時代は、明らかに草香山・日下山が成立していたと思われる。

大和政権が飛鳥に成立した時代であれば、生駒など北部は辺地で「隅・辺」が可能であるが、春日神を奉じる中臣氏が果して生駒山を辺境とみたかは極めて疑問である。

また藤原京時代でも難波は玄関口であり日本の表であったはずだ。地形的特徴からだけみれば隅説は可能だが、実際は全く逆であるから苦しいと思う。やはり生駒山成立には藤原氏が深く関与している可能性が高いと思う。また、防人との関係も見逃がせない。

また「純日本紀」「日本霊異記」にみられるように、若十六歳で始めて生駒の嶺に山籠りをした役小角の時代、文献でみる限り「生駒の嶺」が成立しているが、これも藤原氏の影がちらついている。小角はのち、韓国連広足という人物によ

道でも通行不能の所があり、ましてや林道などはほとんどが通行不能になっていた。何とか通行できた所でも、倒木はそのまま、車の通行の妨げになる部分のみが切断された状態で、その切り口が生々しい。

今回も10山ばかりの山を目指したが、道を塞ぐ倒木は凄まじい。ほとんどが植林で幹の直径が30センチくらい、高さ20センチの大木が根こそぎ倒れ、十数本が交差して道路を遮断している。倒れた木々はまだ枝葉が青々と茂り生き生きとしている。それにしても大木の割に根の張りが小さい。高さ20センチの大木の根張りの直径が2センチくらいしかなく、深さも1センチくらいである。こんな小さい根張りでは倒れても当然と思われるが、植林とはこんなものだろうか。また少し細い植林帯では倒れずに幹の中間でへし折られている。

徒歩で潜り抜けようとしても、倒れた幹からの枝葉が柵のようになって潜ることもできない。さりとて迂回しようとする、根元が大きく抉られ穴をつくり、先端は大きく茂った枝葉が山のようになり、やぶのなかを大きく迂回せねばならない。それが何ヶ所も続くと、もう道は

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

る強言によって追放されるが、これは宗教者間の勢力争いに見えて実は権力闘争といってもよい。広足は完全に後発組の渡米人勢力であり、先住者の題目を追ったのであり、物部氏と蘇我氏の争いと同質である。

こうしてみていくと、生駒山は物部氏のとを受けて勢力を張った中臣氏(後の藤原氏)の枚岡神社を拠点とする一派によって成立した可能性が高いと言える。むしろその根拠を示すことはできないのであるが……

無いのに等しく、全くのやぶ山登りのようになる。

一つの里山(大待ヶ嶺山)を目指した時、登山口のお寺に到着すると何台もの車が止まっていた。住職に尋ねると「今日は村人が山道の片付けに登っています」とのことであった。登山道に入ると、切られたばかりの倒木があり、山の奥からチェンソーの音が聞こえてくる。やがて人影が見えて、倒木を片付けている所に到着した。挨拶をしてその先に登ったが、後わずかで山頂に立つことができた。1日早ければ難渋するところであった。

今回予定した山でも、花知ヶ山・高照峰などガイドブックに記載されている山でも登れなかった。ましてや無名の三角点峰は低い山でも登れなかった。なかには山頂を目前にして倒木が積み重なったり、あと100センチ余りがどうにもならず断念した山もある。1等三角点のある泉山でも通行できない登山路があった。荒れた山林が元に戻復するには何十年かの歳月が必要だろう。

自然の災害には、人は全くお手上げであることを実感した。

(平成16年10月歩く)

(里山シリーズ25 マキノ)

古道と源流ブナ林

はらやまとうけ しらいしだいら

原山峠から白石平

一般コース(★)

長宗 清司

JR湖西線近江中庄駅前から国境行き
のバスに乗り、沢の停留所で下車。その
まま西へ、梯形台地の田屋城跡を正面に
見ながら森西集落にある「大處神社」
に向かう。境内にある二本のカツラの大
木はこの社の歴史を物語るように高くそ
びえている。集落を抜け、田園地帯から
山裾の登山口近くに案内板がある。昔、
田に引く水不足から争いが絶えなかつた
のを懸念して「福山隧道」を掘ることを
主唱し、完成させた水口善成氏の遺徳を
しのぶ石碑もあった。

手入れの行き届いた城跡への山道は、
通称「きつね坂」というクランク状の坂
道で、城に上る者の姿が見えないように

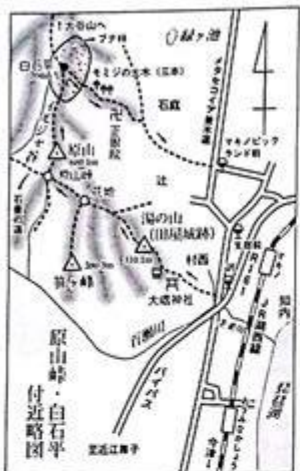
堀のような道が続いた。やがて、下界が見え隠れするあたりで、いきなりパッと視界が開け、サクラの若木を点植した草原状の田屋城跡に出た。
展望は抜群で、琵琶湖西岸の海洋や知内の浜、眼下に竹生島も望めた。本丸、口の丸、奥の丸、北の丸跡と続いて奥に進むと「駒返し」があり、さらに平坦な道はやがて裏門の「櫓手」に着く。ここまでが城跡である。

道の先は分岐点。左下は山田林道。原山峠へは登りの山道に行く。蛇行する堀のような道がいくつも現れる。相当に雪が積もり雪融け水を流すのだろうか。それでも人が昔通った道はそれとなくわかる。やがて、山田川上流と百瀬川水系の分岐点「花地」に着く。このあたりは谷と尾根が入り組んだ複雑な地形である。谷沿いの小道は風化寸前だが、確かに昔人が歩いたかすかな気配や形跡が残っている。この先は、ミズコケがスポンジ状となった「池塘風地帯」。山靴で踏み込むとジワーと水が滲み深く沈む。このまましばらく我慢して用心深く源頭をつめると、やがて淵谷が土道となり、木の枝が雪の重みで垂れ下がりが、トンネル状

斜を意識しながら行く。
やがて、灌木帯はなくなりミズナラやブナなどの林床になる。イモジャ谷の水源上部に出ると、石庭集落のはずれの「正眼院」から大谷山への登山道で、途中の・704付近に出る。このあたりを地元では「白石平」と呼んでいる。ブナの樹下にはイワカガミが群生してい

△680・1軒の原山は、昔は炭焼き
や刈り干しの山として通った所だが、物
資は牛馬で運搬したという。江戸時代よ
り森西・辻・沢・知内・新保の五ヶ字の
共有財産だったが、今は国有林である。
したがって雑木林は人の手が入っていない
ので、三角点の標石を探すのははなは
だ難しい。地形図を頼りに最高点より少
し右下(東南東)に腹を抱きながら訪ね
る(ここでは山勘と地図の腕が試される)。

4等三角点の標石付近の見晴らしはよ
くない。確認休憩後、このまま北東に
すこしくだつて東の尾根に取り付き、地
割りの石柱を見つけてこれを忠実に尾根
先を追い続けると、二度小鞍部に出合
うが、気にせず常に右側に「琵琶湖側の傾



下山は、わかりやすい正眼院へ右にくだる。深く掘り込まれた蛇行する古道は、長い年月をかけて踏み固められた道で消えることはない。台風などによって枝や倒木が道を塞ぎ歩きにくい。両側の削れた斜面にコアジサイやコケなどの地衣類が覆っていて緑が美しく、長い道程も気分を和らげてくれる。途中には木を開引いて公園化した場所があり、眼下の「緑ヶ池」やメタセコイアの並木が望め、さらに別の所には首を真上にしたければ確認できないほど高いモミジの大木が三本、他の樹木を圧倒して枝を広げていた。
最後は、曹洞宗の寺で、カタクリの花でも有名な正眼院の石

幻といわれた石畳の道を発見(原山峠の先)



に道を塞ぐゆるやかな傾斜地に出た。
原山峠だった。昔は、見渡す限りクマザサとススキの草原に高山植物も何種類か見かけたらしいが、今は株立ちのなか低木が点在し、土が見える鞍部である。
この先イモジャ谷の手前に、農民が工夫して敷き詰めた「石畳の道」を見かけるが、別の機会に紹介することにして今回は、右頭上の「原山」に向かう。

段駟を流れる水路際に出て休憩する。ここから琵琶湖の水面が眺められる。石庭からバス停のマキノビックランド前までは舗装路を歩く。バスは時間によってマキノ駅か近江中庄駅行きがある。

(平成16年9月26日歩く)
(平成16年10月3日歩く)

▲コースタイム▼

JR近江中庄駅(バス7分) 沢(10分)
森西(大處神社)(20分) 登山口(25分)
田屋城跡(25分) 福山分岐点(30分) 花地(40分) 原山峠(30分) 原山三角点(30分) 鞍部(40分) 白石平(40分) モミジ大木(20分) 展望地(30分) 正眼院(10分) 石庭(25分) マキノビックランド(バス9分) JR近江中庄駅または(バス6分) JRマキノ駅
△地形図V2万5千1:1海津
(間い合わせ先)
マキノ町観光協会
0740(28)1188

湖国バス(長浜営業)

0749(64)1224
近江タクシー 0740(22)0106

2等三角点のある山

駒ノ尾山・天狗寺山

一般コース(★)

山形 歳之

駒ノ尾山(2等 点名大茅)

中国山地の兵庫県と岡山県の境にあり、後山と稜線が繋がっている。

中国道を西に走り、佐用インターで降りる。国道373号線を北上して大原町に向かう。この周辺はNHKのテレビドラマ「宮本武蔵」の出生地で、それにあやかっていろいろな観光スポットが整備されている。もっともドラマが終わって今は少し静かになっているようだ。

大原町を過ぎ、東栗倉村から西栗倉村に入ると、駒ノ尾山(1280・7畝)登山口の道標が出てくる。少しわかりづらいので、地元で確認するほうがよい。林道を抜けて林道ダルガ峰線に入る。林

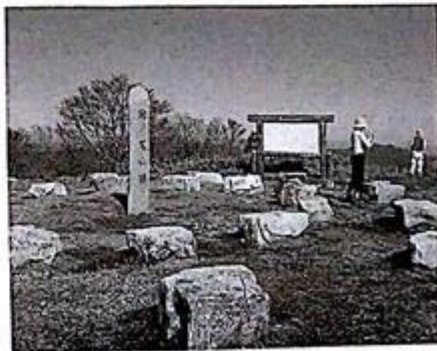
道は高度を上げて登山口に到着する。駐車場とトイレ舎が建ち、清水も流れている。ここはもう八合目近くである。

身仕度を整えて、立派な石碑のある登山口から階段を登る。登山道は中央に手摺りが設置され、上りと下りが分けられたようになっていいる。登山道というより遊歩道である。ゆるい傾斜を登って行くと、各所に道標が立ち山頂までの距離を示している。視界が開けてくると、ログハウスの休憩舎が現れる。少し登るとあと1.5地点で、行程の半分とあった。まだ新しい展望台の休憩舎は先日台風のためか、憐れな姿をさらしていた。

山頂は何一つ差るものもない大展望で、南へのびる稜線には船木山・後山が重なり、なだらかな縦走路がのびていた。西にはひととき大きく那岐山がそびえ、東には遠く水ノ山や扇山が重なる。日名倉山はどれだろう。

山頂広場には石の椅子がモニュメントのように配置され、山頂というより遊園地の一角である。2等の標石は片隅に忘れられたようにある。案内板を見ると後山まで1時間、ダルガ峰も1時間とある。以前後山に登ったことがあるが、後山は

駒ノ尾山山頂



下から登るより、ここから行くほうが簡単である。

いつもマイカー山行なので、今回も同じ道に戻ったが、このコースならわずか1時間の登りでしかもよく整備された道なので、登山というより散歩気分であった。下山すると栗倉温泉があり、汗が流せる。

大阪からは、「スーパードラゴン」が智頭線に乗り入れているので、大原駅で下車し、タクシーで駒ノ尾山の登山口に上がり、駒ノ尾山から後山に縦走り、東栗

倉村に下山するコースが適当と思われる。

(平成16年10月28日歩)

▲コースタイム▼

林道ダルガ峰線登山口(1時間) 駒ノ尾山

△地形図▼

5万11坂根 2万5千11西河内



天狗寺山(2等 点名大篠)

津山盆地の北方加茂町との境にある山で、昔天狗寺という寺があったところから名付けられたという。津山からJR因美線沿いに加茂町に向かう。「点の記」記載の登山口加茂町の成安で尋ねると、

何と「山頂まで林道があり、簡単に登れる」と言う。「しかし、先日台風で車が通れるかどうかはわからない」との話である。全く登山資料が無く、「点の記」は古いものであまり期待できないし、登れるかどうかはその時次第と思っていた。

下河原から高下の集落に入ると、登山口の道標が立っている。道標があるくらいなら道は確実である。狭い村道を上って行くと、最後の人家の所で舗装が切れる。さらに植木のなかを300m程程山に入った所で、倒木に道が塞がっていた。林道は明確なので車を置いて歩き出す。何本もの倒木は、迂回できるものは迂回し、できないものは枝を滑る。幸い被害調査にでも入ったのか人の滑れるくらいに枝打ちがされていて、倒木の枝を滑って登って行く。林道は大きく山を半周し、

山頂ピーク下に迷っていた。少し広くなった所に「鬼子母神を経て山頂に到る」の道標が立ち、そこから登山道がのびている。ところが見上げる山頂一帯は一面の倒木で、丸太をまき散らしたようになっていいる。ともかく登山道に踏み込んでみる。林道の倒木は杉樹の太い丸太材だが、山頂部はそれ程大きな木でもないのので、何とか険しながら道をたどる。尾根の狭い岩陰に、小さい社の鬼子母神がまつられていた。

稜線に登り着くと、「右へ下茅峠 左山頂」とあり、よい道がのびていた。開けた山頂(831・3畝)は展望もよく、目の前には私の山、山形仙が纏まった姿を見せ、背後に那岐連峰の爪ヶ城がそびえていた。南へのびる縦走路には鳥山とあった。まずはよい山である。

倒木が無ければ普通車でも山頂下まで入れるだろう。加茂町には百々温泉がある。(平成16年11月1日歩)

▲コースタイム▼

林道歩き(1時間) 登山口(35分) 天狗寺山

△地形図▼

5万11津山東部 2万5千11槽



一統・近江側から登る鈴鹿の山々⑧
相谷から

スモトリコバ・入道ヶ原

中級コース(★★★)
磯部 純

出発点は永源寺東の相谷、標高点2437の東にある道脇の広場へ車を置いた。ここから西へ100m程歩き、蛇飼谷手前の踏み跡を南へ入る。左に谷を見て本谷へ入り、奥へ進む。あたりは槍の林だが、この日は雪が積もっていて、思いのほか明るく感じられた。谷が左へ曲ると雑木林となるが谷に沿って歩き、何回か谷を渡り返し、次の谷分岐で中央の尾根へ取り付いた。本来ならこの谷分岐の手前のゆるい斜面を、登りやすい所を選んで左の尾根へ登るのだが、この日は雪のため尾根取付地点を見誤り、この尾根を登るはめになってしまった。尾根は最初から急勾配、小石がらみの斜面に雪が

張りつき、後ろを歩くほど滑りやすい。20分も急斜面を這いずり登り、やっと尾根にのると、そこはスモトリコバの一つ南の小ピークで、北へ5分も歩けばスモトリコバ山頂だった。

標高は483・6mである。3等三角点で点名は「相谷」。スモトリコバは、以前は「蛤道山」と呼んでいたが、佐目での呼び名から「スモトリコバ」に定着したようである。ただ、この名称はこのあたり一帯の名称だという。

先ほどの小ピークまで戻り、尾根を東南へ登る。左の林の間から、雪を被った日本コバが大きく見えていて、左下には永源寺ダム湖が見下ろせた。右上には、これから登る尾根の西にある左上田山が張り出している。

左石右雑木の尾根をたどる。急斜面の登りとゆるい尾根歩きを何回か繰り返したのち、手頃な太さのネジキヤリウツブの木につかまりながら急斜面を登り切ると、佐目集落へのびている尾根にのる。その尾根は比較的視界が開け、雪の降り積もったカクレグラの北尾根や、黒尾山の北尾根をすぐ東に見ることができた。

このあたりまで登ると、積雪量は40cmを

超えていた。

ダラダラの急斜面を登り切ると、尾根の方向が南から東南へ変わり、傾斜もなくなり平坦な尾根。この尾根へ登った所から北西へ300mもくだった尾根の先端には左上田山があるが、ルートを外れているのでただ眺めるだけ。ゆるい尾根を進み、方向を南へ変えて、尾根端の槍林の境界を右へくぐる。そこは平坦な場所。4年前に入道ヶ原から佐目集落へくだる時に、あまりの平坦な尾根と分岐尾根に惑わされ、ウロウロした地点だった。そこから槍林と雑木の境界に付いている踏み跡を南へ登ると、そのピークに「入道ヶ原最高点 790m」と書かれた小さな標識が下がっていた。入道ヶ原三角点は、そこから南へ向かい、右に50mも入った所にある。

三角点は雪の中、誰が探し当てたのか、標石の頭だけが見えていた。標高789・1m、点名は「和歌」。この山の名前は『神郡志稿』では、阿ノ瀬山・丈立山・



入道ヶ原山名標識



三ツ又等と記していると聞く。現在では甲津畑と呼ばれていた「入道ヶ原」が一般名となっている。林に囲まれ、展望は全くない。

ここから尾根まで戻り、尾根を南へ標高点746m近くの送電線鉄塔へ向かう。尾根をくだる途中、右手に雪を被った総本山やハイガ岳の稜線が見え、目の下に藤切谷が雄大に広がっていた。これで行き終わる場合には、鉄塔手前のピークから巡視路を種ノ谷へくだるのだが、

この日は時間に余裕があり、そのまま東の鉄塔まで行って休憩となる。

鉄塔からの展望はすばらしく、南に綿向山が横たわり、東には手の届きそうな所にカクレグラがそびえ立っている。北には日本コバがあり、その右の尖った山は天狗堂。遠くに白く霞んでいる稜線は御池岳だ。

下りにカクレグラまで登るには時間がなさすぎたので、先程のピークへは戻らずに、カクレグラの方向へ巡視路を歩き、山腹を横切って尾根にのった地点から左の斜面をくだり、種ノ谷の巡視路に降りることになった。槍林の斜面をくだり始めると斜面は急になり、谷も狭くて予想以上に雪が多く、谷をくだるのは危険と判断し、雪があるのを幸いに斜面をトラバースして北にある尾根の送電線鉄塔へ向かうことに変更する。このトラバースは雪があるからできることで、雪の無い時にはそのまま谷をくだるか、尾根の分岐までカクレグラの方へ登り、北北西へのびる尾根をくだったほうがよい。

滑らないように斜面をトラバースして送電線鉄塔のある北の尾根へ向かう。地形図ではすぐのようだが、小さな尾根が

四つも入り組み、現在地の把握が難しい。斜面を横切り、ひたすら鉄塔の方へ向かうと目的の尾根へのり、50mもくれば送電線鉄塔に出た。

あとは巡視路をくだるだけ。雪に覆われてわかりにくいのが、鉄塔標識が方向を示していて迷うことはない。巡視路をくだって行くと、やがて種ノ谷へと降りる。谷脇の道を北へ北へとくだって行くと、やがて佐目の若宮八幡宮へ着く。

若宮八幡宮には塔尾金社が合祀されている。塔尾金社は、金属を職業とする部族の信仰する神である「金山比売命」を祭神としており、山宮である御金明神へは岩野さんの例会で何回となく取り上げられている。

ここから佐目へくだり、車道を歩いて相谷広場へ戻った。

(平成15年12月23日歩く)

△コースタイム▽

相谷広場(1時間) スモトリコバ(2時間) 入道ヶ原(30分) 送電線鉄塔(1時間) 北尾根送電線鉄塔(45分) 佐目若宮八幡宮(40分) 相谷広場

△地形図▽2万5千11日野東部

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽近鉄万歩ハイキング「山の辺の道」 3月4日(雨)中止(集合 天明駅前9時30分、10時(コース) 天理駅・石上神社・夜都伎神社・長岳寺・天理市トレイルセンター・松原神社・大神神社・桜井駅(約16分)・参加自由・無料(拝観料は別途)・近鉄大駅イベント係06(6775) 3566

▽駅長お薦めフリーハイキング「梅林の道明寺天満宮から石川、大和川沿いを経て玉手山公園へ」 3月6日(雨)大決行(荒天中止) (集合) 道明寺駅前9時30分、12時(コース) 道明寺駅・道明寺天満宮・石川河川敷・大和川の付け替え記念碑・大和川河川敷・奥田史次の碑・玉手山公園・道明寺駅(約9分)一般回) *係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途)・藤井寺駅0729(55) 0037

▽駅長お薦めフリーハイキング「雲山寺から梅の薫る追分梅林と矢田丘陵を巡る」 3月10日(雨)大決行(荒天中止) (集合) 富雄駅前9時30分、12時(コース) 富雄駅・雲山寺・追分梅林・矢田自然公園・東明寺・矢田寺・森の台

京都市バス

▽三角点トレック「大原三山(金毘羅山・翠雲山・焼杉山)コース」 4月2日(出)・9日(出)小雨決行(集合) 京阪出町柳駅前トコンコース 8時、8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 江文神社前・江文神社・金毘羅山・翠雲山・焼杉山・岩尾谷林道・小出石(バス) 出町柳駅(約11分) 健脚回) 電話申込制(1ヶ月前から) 各日共定員20名、参加費無料(バス代別途)(申入先) 京都バス運輸部営業課075(871) 7521・7522

叡山電鉄

▽早春ハイキング「静原・箕粟ヶ岳」 3月2日(雨)・5日(雨)中止(集合) 鞍馬駅10時(コース) 鞍馬駅・箕粟ヶ岳・箕粟ヶ岳・箕粟ヶ岳・尾根道・木野駅(約12分) 中級回) 参加自由・無料 叡山電鉄営業課075(702) 8111

▽歴史ウォーク「鞍馬寺と義経」 3月22日(雨)中止(集合) 鞍馬駅10時(コース) 鞍馬駅・鞍馬寺・貴船神社奥の宮・貴船神社・貴船口駅(約5分) 一般回) 参加自由・無料 叡山電鉄営業課075(702) 8111

神戸電鉄

▽木曜ハイキング「丹生山・葦那古道コース(義経行軍コース)」 3月3日(雨)中止(集合) 栄興10時(コース) 栄興・つくはら湖・イクリングロード・丹生山・福田寺・七社神社・葦那古道・葦那駅(約15分) 健脚回) 参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078

(592) 4611

▽駅長ハイキング「再度公園コース」 3月5日(雨)中止(集合) 谷上駅10時(コース) 谷上駅・山田道・再度公園・牛ノ背・鈴蘭台駅(約10分) 一般回) 参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽火曜ハイキング「六甲ガーデンテラス・保久良神社コース」 3月8日(雨)中止(集合) 有馬口駅9時30分(コース) 有馬口駅・逢山峡・小山谷・松葉茶室・六甲ガーデンテラス・石切道・打越峠・金山・保久良神社(梅林) 一般回) 参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽神鉄ハイキング「静かな雑木林を行く、イヤガ谷東尾根と菊水山」 3月13日(雨)中止(集合) 西路園台駅10時(コース) 西路園台駅・君影町・イヤガ谷東尾根・鶴越・菊水山・鈴蘭台駅(約9分) 一般回) 参加自由・無料 神鉄観光事業部078(521) 0321

▽火曜ハイキング「六甲最高峰・奥池コース」 3月22日(雨)中止(集合) 有馬口駅前トロープウェイ有馬駅前9時30分(コース) 有馬口駅前・紅葉谷道・六甲最高峰・奥池・七曲り・奥池・ガベの城・阪急甲陽園駅(約16分) 健脚回) 参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

丹生山系縦走27*ハイキング

▽丹生山系縦走27*ハイキング 4月3日(雨)の場合10日に延期(集合) 藍那駅8時30分、9時30分(コース) 藍那駅・藍那古道・神戸市バス丹生神社前・丹生神社(丹生山)・帝釈山・稚子ヶ原山・花折山(霧越)・金剛童子山(霧越)・黒甲東道・大蔵山(霧越)・八多一藤原台・岡崎駅(約27分) 健脚回) 参加自由・無料 神鉄観光事業部078(521) 0321

▽火曜ハイキング「地獄谷・旧摩耶道コース」 4月12日(雨)中止(集合) 大池駅前、地獄谷入口

山陽電車

▽山陽ハイキング「嵯峨山親梅を楽しむハイキング」 3月6日(雨)中止(雨天の場合13日に延期) (集合) 山陽灘千駅下車 揖保川河川敷右岸10時(コース) 揖保川河川敷右岸・龍門寺・高嶋神社・新舞子・嵯峨山梅林・藤井の清水・大覚寺・山陽灘千駅(約12分) 家族回) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

▽山陽ハイキング「鳥原貯水池・山麓リボンの道から清盛別荘地跡」 9時30分(コース) 大池駅・地獄谷・ノースロード・穂高湖・掬星台・旧摩耶道・雷音寺・地下鉄新神戸駅(約15分) 健脚回) 参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

雲御所公園ハイキング

▽雲御所公園ハイキング 3月20日(雨)中止(集合) 西代駅前、山陽電車本社駐車場10時(コース) 山陽電車本社駐車場・高取山麓・鶴越・鳥原貯水池・水と森の回遊路北・雲御所公園・淡川駅(約13分) 一般回) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

▽山陽ハイキング「日笠山縦走・お花見ハイキング」 4月10日(雨)中止(集合) 山陽灘千駅下車 曾根天満宮・松村川右岸・天川東公園・生谷展望台・馬坂峠・日笠山・大塚駅(約8分) 一般回) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

▽山陽ハイキング「淡路島公園・鳥の山ハイキング」 4月24日(雨)中止(集合) 山陽灘千駅下車 岩屋・トビル前広場10時(コース) 岩屋・トビル前広場・石屋神社・ハイウェイオアシス・淡路島展望広場・交流広場・山陽灘千駅(約10分) 家族回) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

せせらび

題字・小林玻璃三

約30年前の若かりし頃、山の仲間と北山・比良・奥美濃・湖北などによく行った。特に湖西の三重嶽は思い出に残る山で、河内谷林道の源流から尾根に取り付いたが、道は無く鉈で切り開いて登った。山頂はブナ樹林で展望はない。木に登って周りの山を確認した。

近年、箱館山の東にピラデスト今津というキャンプ場が出来た。久し振りに夏に湖西の山にバイクでアタックした。ピラデスト今津に着き、ゲートを通り過ぎると、オッサンが追っかけてきて環境対策費300円を取られた。平池や処女湖を廻り、河内谷林道に入ると荒れた地道に変わった。注意しながら昇登っ

木の实を漬け込んだものだ。行くと連絡するとそれから釣りに出かけるのである。全てがスローフードで心して待たれよというわけだ。

このオヤジが1人歩きのオレに笈ヶ岳へ行って来いと言うのだ。やぶの薄くなる秋が良いだろうと言うので、ルートを教えてもらい、最初の露营地まで偵察に出かけた。

雄谷に沿う林道終点から約2km歩くと堰堤があり、そこから川の中を上流へ歩く。右岸から流れ込む谷を渡り、岩をよじ登り大きく高巻き、次のカワキ谷を渡る。ここも大きく高巻き、次は水晶谷で大下りだが、落ちて死んだ人がいると脅かされた所だ。この道程はどこも落ちれば死ぬような所ばかりだ。

このような所をオヤジは70歳の熊肉を担いで歩くというから驚く。対岸を登り返しさらに巻いて行く広い窪地に出て、奥へ向かうと対岸にワサビ田管理小屋が見えてくる。秋にはマイトケを探る人が歩いているのでやぶのなかに踏み跡を探せるが、夏にはここで迷子が出たそ

た源流の尾根取付まで行くと、その手前に登山道の標識が建てていた。引き返して石田川ダムにくだると走り出してすぐ、後ろのタイヤがパンクした。そのまま走ったが、チェーンが飛び出して進めない。

道路脇に止め、ピラデスト今津まで歩いて引き返すことにした。前カゴのザックを確認するとサイフが無い。300円払った時、チャックをよく閉めなかったようだ。免許証・カード類、そしてお金も無い。真夏の太陽が照りつける林道を途方にくれとぼとぼと約30分歩くと、上から軽トラが下りてきた。停めて事情を話すとピラデスト今津まで送ってくれた。

うだ。小屋の対岸から尾根に取り付くがグラーとしていてわかりにくい。やぶのなか、尾根筋を探して登るとすぐに急登のやせ尾根になる。ここから尾根根とたどって行くそうだが、今日はここまで、7時に歩き出し11時だ。山頂までは3時間ほどだそう。ここを露营地と決める、水も近い。この先は熊の多い所だそう、やぶのなかを歩くのでニアミスがあるかも知れない。ヤリを持って行きたいがそうもいかないで心細い。誰か一緒に行く人いませんか。誰か一緒に行く人いませんか。(大里町 山形 明)

晩秋に、奈良県川上村の白倉山に登った。匠の聚(むら)近くの登山道はしっかりしていたが、台風によるものか、倒木が多かった。一株に二十花を付けたセンブリには心と心を和ませたのも東の間、低い獣の唼り声が三度。熊ではないかと連れが言うので、柵々、足早にくだってきた。後で訊くと、あのあたりに熊はいないとのこと。まさか、日本狼(山犬)？

ゲートに入り事情を話すと、その人も中年の地元の人で親切に5千円貸してくださった。バスで今津駅にくだり、遅い昼食をとってJRで近江八幡に着いたのが16時前、今は夏、19時過ぎまで明るい。すぐ車でピラデスト今津へ行き、今日走ったコースをたどった。河内谷林道をゆっくり登山口まで走ったがサイフは無い。あきらめてくだり出すとすぐ凸凹に石を敷きつめた坂の石の間に落ちていた。天にも昇る気分ではあった。次の日バイク屋の軽トラを借りてバイクを取りに行った。

(近江八幡市 岩野 明)

最近石川県側の白山周辺の山に出没するようになった。この地に住む山オヤジと知り合ったからだ。山で探ったものしか食わなかったというオヤジは、今でもその生活スタイルを通して、立ち寄ると山菜が主で熊肉鹿肉と山のものばかり。酒は

伊勢市の運隨(れんずい)山では、路傍にアサマリンドウの花を見る幸運に恵まれた。どこの頂かわからないまま歩いてゆくと、白石山も過ぎて、三郷(さんこう)山に着いてしまった。最後は岩間山。岩間寺から奥山天神までの自然歩道を歩いた。紅葉がほほ見頃で、大勢のハイカーに出会った。桂の原木は葉を落としていても見事だったが、黄葉の木も見てみたいものだと考えた。

芭蕉の句碑(古池や...)は、達筆だ。私には読めなかった。石山寺の紅葉も見なかったが、満車で道にまで車が駐めてあったので今回は諦めた。(松阪市 藪木伸人)

11月上旬、岡山県哲多町にある美しい円錐型の荒戸山(762m)へ登った。「岡山県ふるさと富士登山旅行」と題して檜ヶ山(湯原富士)と常山(児島富士)へ登った時、荒戸山(阿哲富士)も加えて三山を計画したのだが、交通不便なため断念したのを今回果した。

○新ハイ関西サービステーション

名所・二岐登山 小白山・大白山・甲子・熊頭への縦走基地 1名でも最寄り駅送迎可(親子約) 露天風呂と内湯 福島・二岐温泉 日親連 大和館 〒962106621 福島県岩手郡天栄村二岐温泉 電話 02481641202 F 024816412705	富士登山・富士五湖 東海道自然歩道 (石割山・ハリモミ純林) 三田山の麓 ベンション コットンテール 〒401105002 山梨県南都留郡山中湖村平野 電話 055516518515	大倉橋温泉中継から山根分岐点 御室・岩間寺あり JR中央線山梨駅下車タクシー40分 バス20分登山口下車徒歩約1時間 山小屋 福ちゃん荘 〒404100202 山梨県山梨市上野原3822 電話(自宅) 055531334639 (山小屋) 0300141792215	尾瀬、平ヶ岳雄勝と釣りの山小屋 越後三山只見国立公園内 清四郎小屋 はんもの手打そばと売店 〒944610000 新潟県北魚沼郡湯谷村湯の果(奥山) 電話 0991255810028 期間外(11月・4月) 025791215026	休憩・温泉・山小屋 10名以上マイクロバスで送迎 箱根仙石原温泉 福 島 館 〒25010631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 電話 04601419041	尾瀬登山ハイキング入山口 天然温泉で山の疲れを 水芭蕉の湯 ヴィワ 風花 (KAZAHANA) 〒37810411 群馬県利根郡片品村戸倉445 電話 027815817051	四季織りな豪華旅館のハイイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき造りとの味の宿・日親連 温泉旅館 けやき山荘 〒390115000 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原 電話 0263193123555
--	--	---	--	--	--	--

三角点のある頂上は、木立の

なかなので展望は無理と思いつ

つも、晩秋なのでかなりの落葉

に期待した。だが常緑樹も多く、

写真に残せるほどではなかった。

しかし、少し進むと「幸運の塔」

と名付けられた展望台があり、

その螺旋階段を上って360度

の展望を楽しんだ。こちらは標

高777.1m。

交通の悪さの関係だろう、荒

戸神社からの登山を通じて誰に

も会わずさびしい思いをした。

短時間で済んだため、新田にく

だつてから開近にゆつくりと美

しい山容を眺められたし、芸備

線の野馳駅では、女性駅員に教

えられて、あまり知られていな

い別名即ち鍋山としての遠望も

楽しむことができた。

さらに、伯備線の総社駅で途

中下車し、小僧時代の雪舟が涙

で描いたネズミの絵で有名な宝

福寺へ寄るといふ収穫もあつ

た。

今回は「岡山県の中国百名山」

登山旅行と名付け、前日に総社

市奥坂の鬼ノ城山(403.3m)

に登ったのであるが、そこでも

温羅遺跡巡りや岩屋回りが楽し

ました。(枚方市 東谷 宏)

めた。(枚方市 東谷 宏)

山行短歌

10月16日 奥越経ヶ岳

友よあの頂を越せば見えるはず

逢えるはずだ僕達の白山に

10月27日 芦生三國峠

ひとが来てひと帰るゆく峠みち

ブナ林の黄葉けふれる中を

11月1日 美作後山

わが生きる証し山頂へ届けねば

光のロープ手繰り寄せよう

11月4日 大台日出ヶ岳

共に歩いた君は何ししているか

あの日あの時の森はそのま

11月13日 紀北天狗岳

嵐過ぎて宇宙へ飛ばされた僕は

流水止まる空の果てに寝る

11月17日 美作後山

広葉樹の枯れ落ちた稜線ゆけば

わが熱き想いすら頓挫せむ

11月28日 大塔清水ヶ峰

ブナの木は魂の抜け殻のように

衣装はがされ林立している

12月2日 朽木白倉岳

愛のない世界へ時移りゆけど

真ごころの峰は連なりてあり

12月6日 紀南高山山

夢潰れて南の海に棄てに来たが

不似合いに明るきわが墓場

12月11日 鈴鹿御池岳

希望はいつも突然に陽をたたく

ボタンブチの丘に陽は溢れ

12月15日 能勢妙見山

尾根上から振り返れば星の館

オリオンよりも鮮やかに見え

(吹田市 木村太郎)

花巡り山行の季節が今年も間もなくやってきます。昨年を振り返り返って、気になることにふれてみたいと思います。

山歩きをしながら植物の観察をし、名前を覚えるだけに留まらず、できればそのお花の特徴や仲間にはどのような種があるのか等を知りたいと、少々欲張った思いでトレッキングスタイルでスタートしました。

昨日植物の絶滅危惧についての論が盛んで賑わっていますが、我々も植物保護の心得が当然必要不可欠で、最低限のマナーが望まれます。

ところが、なかには持ち帰り用の袋や摘み取り用のハサミ持参で堂々と山を歩かれる方を見かけます。

我々レベルの植物愛好家？では研究論文発表とまで至らない

され、直下まで車道が開かれていますから、もはや登山の対象にはなりにくい山ですが、山頂からの展望は群を抜き、富士山と富士川、そして身延線沿線の山並の景観が実に見事で、一見に値します。(各務原市 鷺見守康)

今年晩秋、できれば身延線沿線の山を例え山行で歩きたい……と念じています。

2004年も終わり、今年も多くの山へ行くことができまして、04年のまとめです。

最も多く行ったのは舟伏山で10回でした。

新しく行った山では赤鬼山へ2回行きましたが、最も印象に残る山はやはり友ヶ岳でしょう。

長時間歩いた記録も更新できたし、とてもきつかったが新たな発見もあり、思い出は尽きません。

山頂に長くいられたの心残り、05年にまた行く予定です。5月の残雪期と10月の紅葉時にも行ってみたいですね。

もう一つの初めての山は、私が行きかけた山で、三重と奈

さわやか信州 露天風呂 山吹の湯

湯田中温泉(穂波)

日野屋旅館

〒381-0400 長野県下

高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波

電 0269-3313578

標高2000m以上の温泉

湯の丸高野自然休養林

ハイキングにXCスキー

高 峰 温 泉

〒384-0000

長野県小諸市高峰高原

電 0267-2512000

ハイキングにノスキーにノ

志高高原 石の湯ロッジ

バス 熊の湯温泉床下車

電 0269-341421

東京都本社・東京都新宿区新宿3

1-20-15(新光第2ビル)

(株)スポーツサービス

電 03-3341-0211

塩の道 千国街道

百八十七休「観音原」

ホテル

白馬プランシェ

〒399-193000

長野県北安曇郡白馬村いわたけ

電 0261-724452

八ヶ岳南北縦走の中心地 高山植物の宝庫 神原区・水流トイレ・温泉 昔ながらの宿ストイレ、美味しい名物料理「極楽」

オーレン小屋

(SHC会員500円割引)

〒391-0247 小年男天

電 0266-72112

http://www.oren.jp

e-mail:oren@post.ne.jp

北八ヶ岳の登山基地。冬はスキーで遠征します。

長野県 奥原

〒391-0300

長野県北山奥原高尾丸草55

13の1

電 0266-672258

日本百名山の宿

信州戸隠山

森の宿めるへん

高尾山・黒根山登山口まで送迎

クロカン・コースご案内

〒381-14100

長野県戸隠村水ヶ原

電 0266-2254-2081

日本唯一の女人禁制の山「大

峰山」(百名山)の登山口

温泉村へ女人コースもあり

温泉・名水の里

旅館 紀の国屋基八

1泊2食付 7,000円から

〒638-0431

奈良県吉野郡天川村高川

電 07476-40309

植物摘み取り山歩き、定員増

の件、皆さまのご理解のほどを

よろしくお願いたします。

(長岡京市 田中 明)

美濃やの飛騨の山を歩いている

時、見晴らしがきけば、御嶽

山や乗鞍連峰、北アルプスや中

央アルプスが見えるのは普通の

ことです、それと同じように、

山梨や静岡の山を歩く場合、富

士山や南アルプスを望むのは、

ごく当たり前のことのようにす。

JR身延線は、東海道本線の

この山域には山梨百名山も数

多くそびえており、近年その人

気の高さからか、JR東海は

「身延線沿線トレンギングガイ

ド」を作成し、南部町は観光ガ

イドマップで町内の山々を紹介

しています。

その南部町で最も存在感のある山は藤井山。身延線と並行する

富士山から富士川に沿って北上

し、中央本線の甲府駅へとな

ぐ単線ですが、この沿線には東

西と南を静岡の山にはさまれて

南北に深い山々がつながって

います。

その山域には山梨百名山も数

多くそびえており、近年その人

2004年も終わり、今年も

多くの山へ行くことができまし

て、04年のまとめです。

最も多く行ったのは舟伏山で

10回でした。

新しく行った山では赤鬼山へ

2回行きましたが、最も印象に

残る山はやはり友ヶ岳でしょう。

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2判/上製本/B6判 352頁/定価 1890円
高度順一等三角点100など、一等三角点の知識をこの一冊に収録。地形図による一等三角点の決定版。
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/B6判 336頁/定価 1631円
北海道から沖縄まで、マニヤのモサが選んだ全国100座の一等三角点峰紀行・案内文集。
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判 360頁/定価 1835円
北から南から海外まで、百歳までの山登りをめざす中高年の星。話題豊富な著者の紀行と随想集。
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
2刷A5判 340頁/定価 1837円
一等三角点の山100座の登山コースを紹介。全国一等三角点配置図と全国一等三角点の別別の所在地を最新の資料で掲載。
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
B6判 328頁/定価 1680円
山とのであり、花鳥とのであり、人とのであり、さまざまな出会いを書き下ろした山の随筆55名の話題の集まり。
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美那 共著
A5判 313頁/定価 1680円
第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介。一等三角点の山シリーズ3部作目。この三冊で一等点の山はほぼ網羅されます。
- 第24巻 山岳巡礼** 佐藤光雄 著
B6判 362頁/定価 1680円
山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集。ひとり拓く嶺岳北方後線は本格的に山へ取り組む人への道案内書である。
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判 389頁/定価 1680円
深田クラブの飯島 斎・高沢光雄・高辻謙輔の三氏が山行に著作に交友に久弥のすべてを丹念に研究した成果を記録。
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
B6判 234頁/定価 1680円
信州の山の家を中心とした折々の出来事を、豊かな感覚でつづった「田舎ごっこ」。標との触れ合いをほのかにまとめた「蝶々雑記」が好読物。標のカラー写真も出色である。
- 花と山 100人の100山** エーデルワイスクラブ 編
A5判 217頁/定価 1680円
坂倉登喜子女史が名誉会長をされているエーデルワイスクラブの会員が、心に残った山を選んでその想いをつづった100山集。

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川 7-5-5 高橋ビル
電話/Fax 03-3915-8110 ●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担 振替0130-9-146915

良の奥境にある池木屋山、途中の高尾は丘を登り、有名なジキタリスにも出会えました。
新たな一等三角点は、木曾駒ヶ岳と雲山があります。宝剣岳は岩場の鎖が少しくつめでした。戸隠山は思っていた以上の鎖場が続き、同行者にはとてもきつかったです。山頂へは10人中3人しか行けませんでした。飯綱山はスキー場経由で行きましたが、割と楽でした。
新たに見た花は白山で七種、舟伏山でも二種見る事ができました。舟伏山にある花で鈴鹿には無いと思っていた花が、私の知っている場所にあると聞きましよ。『南濃町 山田明男』

昨年11月3日、私たち「京都趣味登山会」が公開しました武神嶽(湖北武奈ヶ嶽)の寒風コース(本誌74号76ページ参照)。国道303号線からの入口「芝ヶ谷」が、昨年(2004年)襲来した数々の台風がもたらした大量の雨により、谷川沿いに歩けた関電の巡視路が斜面上部からの土砂崩壊や、水勢により

流域が壊滅してしまい、川中を歩かざるをえない状態になってしまいました。
決して歩けないわけではないのですが、雨後や融雪時は特に歩き難いので、別のルートを早急に探索しました結果、国道入口付近の流れの対岸(右岸)15分ほど歩いたところ、凍結注意の国道標識の所から尾根に取り付く道に入り、スキの植林帯を直登(つづら折りに歩くのも可)すれば、10〜15分第一鉄塔に出られるように、黄色い荷づくりテープで誘導道を示しておきました(積雪期、無雪期を問わず登山口として可能)。

安全優先の観点から、今後これを正規のルートにするために皆様に積極的歩いていただいて「踏み跡」を残したいと思っています。(宇治市 長宗清司)

長年会員でありながら居住地と休日の関係上、一度も山行に参加したことはありません。昨6月龍門山頂で行き交ったパーティの背にある三角ベナントで関西ハイキング隊であると知ったほどです。本誌は資料・情報としては貴重なもので、参考にしております。岩野明氏の鈴鹿関係の連載が終了したのは残念で、古くなったコースもあり、新しいコースを加えて再度登場してほしいものです。
関西の山はマツタケ山が多く、秋には入山禁止で困感します。野洲市の田中山(カブト山)もそうで(妙光寺山麓磨崖仏も入山禁止)やむをえず林道を進み、タンク近くからやぶの多い登山道を登りました。御池岳コグルミ谷の情報(山田明男氏)も参考になりました。
最後に当方からも一、二の情報をお知らせします。昨11月青川峡から治田峠に向かった際、キャンプ場管理人から入車とも崩壊のために入山不可と知らされた。他山へ転進しました。低山では他のプランを考えておくことが必要です。「岳人」で草川氏が簡単に述べておられる鈴鹿ソノド南尾根を11月に登りました。幾里谷林道分岐上部の鉄階段から良い道とテープが続き、高塚(730m)山頂では南側の展望が広大です。ソノドから

御在所登山に
愛知川溪谷沢歩きに
山好き仲間集う宿
朝明茶屋
山小屋 朝明茶屋
〒510-1255
三重県三重郡菟野町千草
05933-1789

那岐山嶺の奇跡に
三百年山 那岐山
〒708-1307
岡山県 那岐山荘
0868-3614154

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県鹿毛郡屋久町安房
0997-4163021

は藪ヶ谷林道へくだりましたが、炭焼き小屋の手前で林道は崩落してしまいました。昨年は台風によって登山道が大きな被害を受けているものと思われ、本誌でも情報収集していただければ幸いです。(名古屋 酒井勝彦)

山行計画 (3・4月)

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認の上申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のはかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 日額 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

3月	4月	行先	定員	リーダー
3(休)	3(休)	奈良・矢田丘陵	*	岩野
5(出)〜6(休)	3(休)	伊良湖・三河大山・稲荷山・藤尾山	20	木村
6(休)	3(休)	比叡・北白川・比叡山	30	鷲見
6(休)	3(休)	鈴鹿・雨ヶ岳	*	岩野
6(休)	3(休)	三河・雨山と三河本宮山	14	山田
6(休)	3(休)	京都北山・杉坂・半園高山	14	山田
12(出)	3(休)	奥比叡・途中越え大尾山		金谷
15(休)	3(休)	京都北山・峰山・朝日峰		仲谷
16(休)	3(休)	兵庫丹波・三尾山	20	木村
17(休)	3(休)	湖南アルプス・太神山		寺井
18(休)〜22(休)	3(休)	吉野・白倉山・仏ヶ峰		西上
19(出)	3(休)	鹿兒島・甫与志岳と高隈山	18	狩野
19(出)	3(休)	鈴鹿・雲母峰		尾崎
19(出)	3(休)	美濃・飯盛山	20	鷲見
19(出)	3(休)	鈴鹿・男鬼山・武奈山(向山)	20	山田
20(休)	3(休)	比良・鹿ヶ瀬道・岩阿沙利山	20	秦
20(休)	3(休)	鈴鹿・カモシカ高原・御所平	20	中西
20(休)	3(休)	鈴鹿・御池岳奥の平	*	岩野
20(休)	3(休)	鈴鹿・仙ヶ岳	*	筒井
25(休)〜27(休)	3(休)	木曾・御嶽山	25	鷲見
26(出)	3(休)	武生・日野山	*	高島
27(休)	3(休)	淡路・常陸寺山	18	古賀
30(休)〜5・3(休)	3(休)	京都北山・釈迦谷山・城山・氷室	20	山田
5・4(休)〜5(休)	3(休)	鈴鹿・御在所岳と駒連ヶ岳	20	村田

*マイカー山行

3月よりJR・私鉄およびバス時刻が、改定されることがあります。返信の案内をよく確認してからご参加ください。

フファミリーハイイク54
奈良・矢田丘陵(一般向き)
期日 3月3日(日) 日帰り
集合 近鉄東生駒駅9時30分
コース 東生駒駅→鶴峰→黒谷橋
林→榎木峠→矢田山→四
見台→松尾山→松尾寺→
白石畑→平群駅(解散)
費用 約1000円(雑波駅から交通費)
地図 2万5千→奈良・大和郡
山・生駒山・信貴山
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
青垣の山々を望み、雑木林の静かな散策路をたどる。雨天中止

集合 (5日) JR岐阜駅9時00分
コース (5日) 岐阜駅(バス)
国道42号大山下バス停付近
近一大山バス停付近
(バス) 伊良湖神宿(泊)
(6日) 宿(バス) 稲荷
神社→稲荷山→藤尾山→
滝頭山→滝頭公園(バス)
岐阜駅(解散)
費用 約2500円(岐阜駅からバス・宿泊代等)
地図 2万5千→野田・老津・田原
係 ◎警見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 警見守康まで
*定員20名
*2月21日まで
温暖な気候の深美半島の自然豊かなコースから太平洋の大展望を満喫し、山並をミニ縦走します。
雨(雷)天決行(コース変更あり)

コース 出町柳駅→北白川→瓜生山→大比叡→ケーブル比叡→雲母坂→報徳学院駅(解散)
費用 約1500円(大阪かき)
地図 2万5千→京都東北部
係 ◎塚元一彦 ◎中村登
申込み 〒536-0008
大阪市城東区関目4の14の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
*3月4日まで
新ハイキング関西支部合同
京都一周トレイルの4回目。2回目に時間切れになった部分を歩きます。シルバーⅢ型コンパスを持参してください。雨天中止

伊吹
◎若野 明 ◎山田景三
◎後藤康幸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の残雪の雨乞折山行です(62号78ページ参照)。
小雨(雷)決行
展望の山2
三河・雨山と三河本宮山
(中級向き)
期日 3月6日(日) 日帰り
集合 JR幸田駅7時50分
コース 幸田駅→三河湾スカイライン→雨山(スカイライン)→音羽新郷道路(車)→一の宮(車)→ウォーキングセンター→表登山道→砥鹿神社→奥宮→三角点→岩戸神社→国見岩コース→ウォーキングセンター(東名高速)→地下鉄上狂駅(解散)
費用 交通費各自(車代参加費共2000円)
地図 2万5千→幸田・新城
係 ◎山田明男

申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山62の19
山田明男まで
*定員14名
三河の1等三角点を二山歩きます。本宮山には天淵点あり。幸田駅からスカイラインで行き、東名を利用して帰ります。雨天中止

奥比叡縦走
途中越から大尾山(中級向き)
期日 3月12日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅京都バスのりば7時30分(45分発)
コース 出町柳駅(バス)→三谷口→途中越→宮あざら→伊香立越→大尾山→大原(解散)
費用 約1000円(出町柳駅からバス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎金谷 昭 ◎藤部 純
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
あまり歩かれることの少ない奥比叡の大尾山以北の府境の縦走です。軽アイゼン必携。積雪状況によりコース変更あり。雨天中止

(旧道)→谷山川林道→西明寺→山崎高雄(解散)15時20分(散)
費用 交通費各自
地図 2万5千→京都西北部
係 ◎仲谷礼司 ◎田中善雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
奥比叡を歩き、一部旧道を楽しみます。所によって悪路があります。雨天中止

*定員20名(会費に限り)
アルペン気分溢れた西多紀アルプスの主峰に登る。雨天中止
平日ふれあいハイイク50
湖南アルプス・太神山
(一般向き)
期日 3月17日(日) 日帰り
集合 JR石山駅帝産バスのりば8時15分
コース 石山駅(バス)→上関→笹間岳→御仏河原→矢筈岳→太神山→迎不動→アルプス登山口(バス)→石山駅(解散16時頃)
費用 約1500円(京都駅からバス代)
地図 2万5千→瀬田・朝宮
係 ◎寺井恒夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
昔の静けさはありませんが、太神山には不動寺もあって気楽に歩くのにはよいコースです。
雨天中止

京都市北山歩き①④
杉坂から半国高山(初級向き)
期日 3月6日(日) 日帰り
集合 JR京都駅前JRバスのりば8時00分
コース 京都駅(バス)→杉坂口→供御飯峠→半国高山→岩谷峠→真弓→善福寺→持越峠→白檜橋(バス)→出町柳駅(解散15時30分頃)
費用 約1500円(京都駅からバス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊 ◎安倉止勝
◎呉比佐悦美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
早春の芽吹きを感じながら北山の入門コースをのんびりと歩きます。雨天中止

火燧ハイイク4
愛宕山シリーズ4
真愛宕・峰山と朝日峰
(一般向き)
期日 3月15日(日) 日帰り
集合 桐ノ尾バス停9時00分
コース 桐ノ尾→高山寺→峰山→朝日峰→カヤノキ峠→

フファミリーハイイク55
兵庫丹波・三尾山(初級向き)
期日 3月16日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅1階止面口構内8時00分
コース 新大阪駅(バス)→登山口→洞窟石仏→東峰→三尾山→覗き岩→鏡峠→登山口(バス)→國領温泉(バス)→新大阪駅(解散)
費用 約3500円(新大阪駅からバス代)
地図 2万5千→宮田
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで

喜野・白倉山から仏ヶ峰
(一般向き)
期日 3月17日(日) 日帰り

集合 近鉄大和上市駅8時50分

コース (バスは55分)

大和上市駅(バス) 西河
一登山口一五社峠一白倉
山一五社峠一仏ヶ峰一王
峠一668・4三三三
ピーク一蜻蛉の滝一公園
一西河(バス) 大和上市
駅(解散17時頃)

費用 約3300円(阿部野橋
駅から)

地図 昭文社「大峰山脈」
係 ◎西上利和◎井上吉晴
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
白倉山の展望所から高や大峰
の雄大な山々が一望でき、668・
4三三三ポイントまで尾根伝いに
縦走します。*怪アイゼン持参。
雨天中止

九州・鹿児島山
甫与志岳と高隈山(中級向き)

期日 3月18日(日)夜12日(内朝
4泊5日(船中2泊)

集合 (18日) 大阪南港かもめ
フェリーターミナル19時
00分(19時30分発)

コース (18日) 大阪南港(船中

泊 (19日) 宮崎港(バス)

鹿児島橋島観光(バス)
二股川一甫与志岳一登山
口(バス) 垂水(泊)
(20日) 垂水(バス) 鳴
之尾林道一御岳一スマン
峠一大鹿杉峠一垂水(バ
ス) 垂水(泊)
(21日) 垂水(バス) 粟
野一粟野岳一粟野岳温泉
(バス) 宮崎港(船中泊)
(22日) 大阪南港(7時
30分着・解散)

費用 約5200円(ラネリー・
バス・宿泊代等)

地図 5万1大根占・鹿屋
2万5千1上蔵川・百引・
韓国岳

係 ◎狩野東彦 ◎瓜坂利明
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員18名(会費に限る)
*3月5日まで

大隅半島の高隈山系主峰の縦走
と内之浦ロケット基地裏山の甫与
志岳を歩きます。時間があれば桜
島ハイキングも楽しめます。宿泊
は薩摩明治村温泉。*財宝友の会

の方は宿泊割引がありますので
「友の会会員」と朱記ください。
雨天決行

三重の山76

鈴鹿・雲母峰(一般向き)
期日 3月19日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅9時00
分

コース 湯の山温泉駅一金谷不動
一林道終点一雲母峰一第
二峰一林道終点一雲母高
原一湯の山温泉駅(解散
16時)

費用 1500円

地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」

係 ◎尾崎英五 ◎稲垣逸夫
申込み 〒519-0311

鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
展望良。雨天決行

自然観察山行170
スノーハイキング
美濃・飯盛山(一般向き)
期日 3月19日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
大垣駅(バス) 西津汲林
道始点一夫狗の森一飯盛

山一夫狗の森一林道始点
(バス) 大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅か
らバス代等)

地図 2万5千1谷波・横山
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828

各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名

長い林道を歩いて、冬には見晴
らしのよい山頂に立ちます。
小雨(雪) 決行(悪天中止)

鈴鹿百山68

男鬼山・武奈山(向山)
(一般向き)
期日 3月19日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時00分
コース 米原駅(重) 男鬼峠一男
鬼山一武奈山一明幸一男
鬼峠(解散)

費用 交通費各自(車代500
円)

地図 2万5千1高宮
係 ◎山田明男 ◎高原芳彦
申込み 〒503-0535

海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員20名程度

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

鈴鹿でもバリエーションコース
です。*JR河曲駅に7時37分着
で来られる方はハガキにその旨を
ご明記ください。

雨天決行(悪天中止)

自然観察山行171
スノーハイキング
木曾・御嶽山(中級向き)
期日 3月25日(日) 日帰り
前夜発1泊2日

集合 (25日) JR岐阜駅23時
00分

コース (25日) 岐阜駅(バス)
(26日) (バス) 鹿ノ瀬
駅(ロープウェイ) 飯森
高原駅一スノーハイカー
飯森高原駅(ロープウェ
イ) 鹿ノ瀬駅(バス) 民
宿(泊)

(27日) 民宿(バス) 御
嶽ロープウェイスキー場
一山麓スノーハイカーズ
スキー場(バス) 岐阜駅
(解散)

*帰路に浴衣します。

費用 約36000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

*マイカー参加の人はそ
の旨をご記入ください

1月に歩いた八葉山南側の山々
へ行きます。春の花は咲いている
か?雨天中止

比良を歩く38

鹿ヶ瀬道から岩阿沙利山
(一般向き)

期日 3月20日(日) 日帰り

集合 JR近江高島駅バスのり
ば8時55分

コース 近江高島駅(バス) 鹿ヶ
瀬道一沙願寺一鶴川越一
岩阿沙利山一鳥越峰一岳
山一岳観音堂跡一宮羽一

近江高島駅(解散16時頃)
費用 約2100円(京都から)
地図 2万5千1北小松

昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

怪アイゼン必要。積雪状況によ
り、コース変更する場合あり。
雨天中止

鈴鹿・カモシカ高原から御所平
(中級向き)

期日 3月20日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりは7時10分

コース 京都駅(バス) 山女原安
楽越一カモシカ高原一御
所平一P832一御所
谷一石谷川一石水溪東海
自然歩道分岐(バス) 京
都駅(解散18時頃)

費用 約3500円(京都駅か
らバス代)

地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」

係 ◎中西信行 ◎森脇貞義
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会費に限る)

カモシカ高原から展望を見なが
ら歩きます。雨天中止

鈴鹿を歩く212

残雪の御池岳奥の平
(健脚向き)

期日 3月20日(日) 日帰り

集合 御池林道小又谷分岐広場
8時30分

コース 広場一小又谷林道一ノク
ノ坂一土倉峠一奥の平一

ボクンブチー南峰一十字
尾根一御池林道一広場
(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」

係 ◎若野明 ◎山田登三
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の残雪の御池岳山行で
す(24号49ページ参照)。
小雨(雪) 決行

鈴鹿遊山6

鈴鹿・仙ヶ岳(健脚向き)

期日 3月20日(日) 日帰り

集合 石水溪別荘前8時00分
コース 望仙荘一船石谷一ウロン
谷一仙ノ石南西尾根一仙
ノ石一仙ヶ岳一仙ヶ岳南
西尾根一ウロン谷一船石
谷(解散)

費用 各自・参加費2000円

地図 2万5千1伊船
係 ◎筒井克治

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

地図 昭文社「御嶽山」
係 ◎鷺見守康
申込み 各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員25名
*2月21日まで

武生・日野山(一般向き)
期日 3月26日(日) 日帰り
集合 北陸自動車道南条サードエリア9時00分
コース 南条SA(車) 日野神社
一中庄吹コース 日野山
―(往復)― 日野神社
(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千 武生
係 ◎高島伸浩
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月3日(日) 日帰り
集合 JR 醍ヶ井駅8時20分
コース 醍ヶ井駅(車) 暮ヶ畑―汗フキ峠―見晴台―お虎池―経塚山―最高点―西南尾根―雲仙山三角点
(往路)―暮ヶ畑(車)
(往路)―醍ヶ井駅(解散)
費用 交通費各自(車代500円)
地図 2万5千 雲仙山
係 ◎山田明男 ◎高原秀彦
申込み 〒50310535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員20名程度
*マイカー参加の人はその旨をご記入ください
早春の花は咲いているでしょうが、何が見られるか? 雨天中止

期日 4月3日(日) 日帰り
集合 JR 醍ヶ井駅8時20分
コース 醍ヶ井駅(車) 暮ヶ畑―汗フキ峠―見晴台―お虎池―経塚山―最高点―西南尾根―雲仙山三角点
(往路)―暮ヶ畑(車)
(往路)―醍ヶ井駅(解散)
費用 交通費各自(車代500円)
地図 2万5千 雲仙山
係 ◎山田明男 ◎高原秀彦
申込み 〒50310535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員20名程度
*マイカー参加の人はその旨をご記入ください
早春の花は咲いているでしょうが、何が見られるか? 雨天中止

*マイカー山行
残雪があるかも知れません。
雨天決行
淡路・常陸寺山(一般向き)
期日 3月27日(日) 日帰り
集合 JR 明石駅8時00分
コース 明石港(船) 富島―常陸寺山―妙見山―小井(バス) 船 明石港(解散18時頃)
費用 約2100円(交通費含む)
地図 2万5千 飯塚・志筑
係 ◎古賀慶二 ◎岡田昇
申込み 〒67510112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶二まで

期日 3月30日(日) 日帰り
集合 阪急大宮駅北西側市バスのりば6番8時20分(地
北山ちよと歩き66
慶峰から釈迦谷山・城山・水室
(一般向き)
期日 3月30日(日) 日帰り
集合 阪急大宮駅北西側市バスのりば6番8時20分(地

費用 約1700円(大阪から)
地図 2万5千 京都東北
係 ◎塚元一彦 ◎中村登
申込み 〒53610008
大阪市城東区関目4の14
の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
*4月1日まで
新ハイキング関西支部合同
京都一周トレイルの5回目。春の景色を楽しみながら、地形図とコンパスの勉強をします。シルバートライコンパスを持参してください。
雨天中止

平日ふれあいハイク51
鈴鹿・入道ヶ岳(一般向き)
期日 4月7日(日) 日帰り
集合 JR 京都駅八条口団体バスのりば7時15分
コース 京都駅(バス) 椿大神社―井筒谷―入道ヶ岳―二本松尾根―椿大神社(バス) 京都駅(解散17時30分頃)
費用 約3000円(京都駅からバス代)
地図 昭文社「関在所・雲梯・伊吹」
係 ◎寺井恒夫

元の方は慶家源光庵前9時00分まで)
古賀慶二まで
コース 慶家源光庵前―釈迦谷山―京見峠―城山―卯ノ谷―水室―水室尾根―城山分岐―六地藏―船山火床―西賀茂車庫前(解散)
費用 約500円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎奥山繁三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

二つの三角点と平安時代に水室のあった里をめぐる。緑と自然の豊かなコースです。雨天中止
播磨南西部
越部古道・つつじ尾根
(一般向き)
期日 4月3日(日) 日帰り
集合 JR 播磨新宮駅9時00分
コース 播磨新宮―水布弥コース―砥園嶽―的場山本竜野駅(解散16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千 龍野
係 ◎古賀慶二 ◎岡田昇
申込み 〒67510112
加古川市平岡町山之下684

入道ヶ岳からの展望は大きく、アセビの群落もあります。
雨天中止
京都北山・明神谷から愛宕山(中級向き)
期日 4月9日(日) 日帰り
集合 清滝バス停8時40分
コース 清滝―明神谷―表参道七合目―愛宕神社―三角点―峰―旧スキー場―中山登山座―愛宕神社―社務所要―西南脇道―水尾―保津峽駅(解散)
費用 約500円(京都駅からバス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎金谷 昭 ◎磯部 純
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

あまり歩かれることの少ない谷コースをつかって愛宕山へ登ります。明神谷が見られます。
雨天中止
鈴鹿を歩く213
鈴鹿山山西南尾根(健脚向き)
期日 4月9日(日) 日帰り
集合 河内線甲津倉登り口広場8時00分
コース 広場(車) 今畑 笹峠―近江國望台―南登岳―雲仙山―最高峰―岩ノ峰―行善谷―権現谷―あけん原(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「関在所・雲梯・伊吹」
係 ◎岩野 明 ◎山田景三 ◎後藤康幸
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の花の雲仙山西南尾根を歩き、権現谷にくだります。(63号76ページ参照)。雨天中止
鈴鹿山山西南尾根(中級向き)
雲仙山山西南尾根(中級向き)

鈴鹿遊山7
吉野・青根ヶ峰(健脚向き)
期日 4月9日(日) 日帰り
集合 あきつ小野公園8時00分
コース あきつ小野公園―音無川―青根ヶ峰―上平木―喜佐谷―宮滝―五社峠―あきつ小野公園(解散)
費用 各自 参加費200円
地図 昭文社「大峰山系」
係 ◎筒井克治
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
吉野の古道を歩きます(歩程約16)。雨天決行(雨天中止)

自然観察山行172
美濃・妙法ヶ岳(一般向き)
期日 4月9日(日) 日帰り
集合 JR 大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 谷汲―華嚴寺―奥の院―妙法ヶ岳―横蔵寺(バス) 大垣駅(解散)
費用 約3500円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千 谷汲

自然観察山行172
美濃・妙法ヶ岳(一般向き)
期日 4月9日(日) 日帰り
集合 JR 大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 谷汲―華嚴寺―奥の院―妙法ヶ岳―横蔵寺(バス) 大垣駅(解散)
費用 約3500円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千 谷汲

係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名

美濃の二つの古刹を結ぶ東海自然歩道を歩き、妙法ヶ岳に登ります。小雨決行

湖西・万字峠から東山 (一般向き)

期日 4月10日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分

コース 京都駅(バス)道の駅マキノ追分峠(万字峠)4等三角点(東山)大崎寺(マキノ)駅(バス)京都駅(解散18時頃)

費用 約3000円(京都駅からバス代)
地図 2万5千:海津
係 ◎森脇貞義 ○中西眞行 ○磯野重治

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員35名

東山から大崎寺にくだり、海津大崎の桜自虐の桜を見ながらマキノ

ノ駅まで歩きましょう。小雨決行
ファミリーハイイク56
期日 4月14日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅1階正面口構内7時00分

コース 新大阪駅(バス)コグルミ谷登山口(カククリ峠)御池(ボクタンブチー)給北(掛掛トンネル口(バス)彦根極楽湯(バス)新大阪駅(解散)

費用 約3500円(新大阪駅からバス代)
地図 2万5千:藤立・竜ヶ岳
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-10854
吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで
*定員20名(賞賛に優る)

花の谷から自然を色濃く残した鈴鹿最高峰へ登る。雨天中止
花巡り山行12
期日 4月16日(日) 日帰り
集合 京都北山・井ノ口山(一般向き)京都駅4日16日(日) 日帰り

コース 京阪出町柳駅バスのりば7時40分(バスは50分遅)出町柳駅(バス)杓子屋

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 国道421号線打尾尾神崎橋広場8時00分
コース 集合広場(車)藤切谷田林道入口(杉峠)止(佐目峠)イブネ・鏡子・フナクボ(深谷山)大群・鏡子ヶ(ワ)・紅葉尾(解散)

費用 交通費各自
地図 伊文社「御在所・雲仙・明文社」
係 ◎若野 明 ○山田登三 ○後藤康幸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

千種越えの杉峠からイブネ・鏡子へ。そして長大な稜線を鏡子ヶ口へ縦走します。明えるフナ・春動き山笑う最高の時を楽しみます。雨天中止

展望の山3
三河・鍋山と三河大山 (一般向き)
期日 4月17日(日) 日帰り
集合 名鉄河和駅7時45分
コース 河和駅(車)美浜インター1鍋山(車)師崎(フェ

伏杖白杉・井ノ口山
第一ピーク鍋谷山
道(衣笠峠)オリ谷(菅原町(バス)北大路駅(解散17時40分)

費用 約2100円(出町柳駅からのバス代等)
地図 2万5千:花背・上古前
係 ◎田中 明
申込み HPからメールのみ受付
http://hana04.jp.
meibok.co.jp
*定員10名(賞賛に優る)

ルートファインディングが楽しめるアドベンチャーコース。京都市の天然記念物の伏杖白杉群と大群生のイワウチワを見に行きましょう。雨天中止

自然観察山行173
美濃・舟伏山(一般向き)
期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月21日(日) 日帰り
集合 近鉄下市口駅9時10分
コース 下市口駅(タクシー)中戸(柏原山)鉄塔(四寸岩山)高原山(湯修の湯(バス)大和上市駅(解散18時頃)

費用 約4100円(阿部野橋駅から、タクシー代共)
地図 昭文社「大峰山脈」
係 ◎西上利和 ○井上由緒
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員25名

春陽気に誘われ、大峰の前後峰である柏原山へ。木地師の里、高原へとくだります。雨天中止

自然観察山行174

火曜ハイイク5
愛宕山シリーズ6
コメカイ尾根道からシープ道 (一般向き)
期日 4月19日(日) 日帰り
集合 清池バス停9時00分
コース 清池(茶合)コメカイ尾根道(七台目)出合(旧駅)合跡(ケイブル跡)五合目(シープ道)清池バス停(解散15時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千:京都西北部
係 ◎仲谷行司 ○田中善雄

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森駐車場(さくら峠)あいの森わ平(舟伏山)小舟伏(あいの森駐車場(バス)大垣駅(解散)

蕎麦粒山・高塚山・龍馬ヶ岳・
岩嶽山縦走と八高山(中級向き)
期日 4月22日(昨夜)24日(日)
前後発1泊2日
集合 (22日) JR岐阜駅23時
00分

コース (22日) 岐阜駅(バス)
(23日) 山犬の
段・蕎麦粒山・高塚山・
龍馬ヶ岳・岩嶽山・ベン
ション(泊)

(24日) ベンション(バ
ス) 福用駅→馬車道→八
高山→馬王平→福用駅
(バス) 岐阜駅(解散)
*帰路に浴食します。

費用 約36000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)
地図 2万5千・蕎麦粒山・高
塚山・龍馬ヶ岳・八高山
係 ◎登見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 登見守康まで
*定員19名

*2月28日まで
昨春の沢口山から大ノ段縦走を
つなぎ、登り残した高塚山(三百
名山)から天然記念物のヤシオ咲
く岩嶽山まで縦走し、翌日は一等

三角点の八高山を歩きます。
雨天決行(コース変更あり)
比良を歩く39

鶴川左殿から滝山(一般向き)
期日 4月24日(日) 日帰り
集合 JR北小松駅9時00分
コース 北小松駅→鶴川出合→鶴
川左殿→長谷出合→滝山
→オトシ→涼峰→楊梅ノ
滝→登山口→北小松駅
(解散16時頃)

費用 約13000円(京都かき
地図 2万5千・北小松
町文社「比良山系」
係 ◎桑 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

近畿百名山に登る(第80回)
若狭・青葉山(一般向き)
期日 4月24日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時40分
コース 京都駅(バス) 松尾寺→
西舞・東舞→鳳皇台→高

鶴川左殿の谷筋道から滝山に登
り、オトシの中をくだります(48
号参照)。雨天中止

2泊して佐渡の花を満喫します。
最終日は欲張って里山ながら花で
名を馳せる角田山も探訪予定。
雨天決行

◎登見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 登見守康まで
*定員20名
*2月28日まで

揚州・フトウガ峰(中級向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 JR加古川駅8時00分
コース 加古川駅(バス) 川上→
ヒシロガ峰→段ヶ峰→フ
トウガ峰→生野高原(バ
ス) 加古川駅(解散18時
頃)

費用 約40000円(バス代
地図 2万5千・生野・長谷・
但馬新井・神子畑
係 ◎古賀慶一・〇田田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之上684
の33・17A403
古賀慶二まで
*定員18名

三つの峰を巡る縦走コースです。
一部悪路あり。雨天中止

野分岐→中山寺(バス)
京都駅(解散19時頃)
費用 約35000円(京都駅か
らバス・拝観代)
地図 2万5千・青葉山
係 ◎村田智俊 ◎安倉止勝
◎奥比呂美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員40名

松尾寺から中山寺までの縦走コ
ースを歩きます。西峰から東峰へは
岩場があり、日本海を展望するす
ばらしいコース。中山寺もゆっく
り拝観します。雨天中止

北山ちよつと歩き66
佐々里峠から芦生トロッコ道
(一般向き)
期日 4月27日(例) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時10分
コース 京都駅(バス) 佐々里峠
→廣村灰野→トロッコ道
→カズラ小屋→七瀬谷→
廣村灰野→須後(バス)
京都駅(解散18時頃)

費用 約30000円(京都駅か
らバス代)

春のロングコースを歩く
北摂・箕面駅から妙見口駅
(中級向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 阪急箕面駅8時00分
コース 箕面駅→箕面滝→箕面川
ダム→みのお記念の森→
鉢伏山→明ヶ田尾山→光
明寺→園道423号線→
出世大黒天法輪寺→天台
山→古川峠→熊野電鉄妙
見口駅(解散18時頃)

費用 約15000円(大阪から
地図 昭文社「北摂・京都西
山」
係 ◎村田智俊
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

北摂の里山を巡って歩きます。
年末に雨天で中止になりましたの
で春に再行します。雨天中止

花巡り山行13
鈴鹿・雲仙山(一般向き)
期日 4月30日(日) 日帰り
集合 JR米原駅7時55分
コース 米原駅(タクシー) 上丹
生・谷山谷→漆ヶ滝→柏
原道出合→雲仙山→最高

点・終塚山・汗フキ峠→
養鶏場(バス) 醒ヶ井駅
(解散17時20分頃)
費用 約40000円(京都から)
地図 昭文社「彌生所・雲仙・
伊吹」
係 ◎田中 明
申込み HPからメールのみ受付
http://hana.04.hp.
infoseek.co.jp
*定員10名(会費に限る)
イチリンソウ・キバナイカリソ
ウ等、可憐な早春の草花を楽しみ
ましょう。雨天中止

四国・法泉山脈
赤石山縦走とニツ岳 赤星山
期日 4月30日(日) 5月3日(例)
3泊4日
集合 (30日) 大阪梅田北バス
ターミナル駐車場(ヨド
バシカメラ西側) 7時30
分
コース (30日) 梅田(バス) 日
浦→銅山越→銅山峠(泊)
(1日) 銅山峠→西赤石
山→東赤石山(夜津) (泊)
(2日) 夜津(バス) 別
子山→ニツ岳→中ノ川

フファミリーハイイク57
美濃・舟伏山(一般向き)
期日 4月27日(例) 日帰り
集合 JR新大阪駅→階正面口
構内6時45分
コース 新大阪駅(バス) あいの
森広場→桜峠→みのわ平
→舟伏山→小舟伏山→あ
いの森広場(バス) 新大
阪駅(解散)

巨大木古木の芦生滝薄層トロッコ
道を、由良川源流域の流れと新緑
が美しい風景を見ながらゆっくり
歩きます。小雨決行

昭文社「京都北山」
◎奥山笠三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行175
佐渡・ドテン山から金北山と
金剛山からドテン山/新潟・
角田山 (一般向き)
期日 4月28日(昨夜)5月1日
(日) 前後発2泊3日
集合 (28日) JR岐阜駅22時
00分
コース (28日) 岐阜駅(バス)
(29日) (バス) 佐渡汽
船新潟ターミナル(船)
両津港(バス) ドンデン
山荘→ドテン山→マト
ネ→金北山→白雲荘(バ
ス) 宿(泊)
(30日) 宿(バス) 白瀬
→金剛山→ドテン山→
ドンデン山荘(バス) 宿
(泊)

費用 約40000円(バス代
地図 2万5千・生野・長谷・
但馬新井・神子畑
係 ◎古賀慶一・〇田田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之上684
の33・17A403
古賀慶二まで
*定員18名

費用 約40000円(新大阪駅
からバス代)
地図 2万5千・金北山・西津
北部

赤石山縦走とニツ岳 赤星山
期日 4月30日(日) 5月3日(例)
3泊4日
集合 (30日) 大阪梅田北バス
ターミナル駐車場(ヨド
バシカメラ西側) 7時30
分
コース (30日) 梅田(バス) 日
浦→銅山越→銅山峠(泊)
(1日) 銅山峠→西赤石
山→東赤石山(夜津) (泊)
(2日) 夜津(バス) 別
子山→ニツ岳→中ノ川

山行報告
(11・12月号)
新ハイキングクラブ関西

但馬・妙見山
(近畿百名山に登る77回)
11月3日(日) 晴れ

(集合) JR新大阪駅8・00(電車・バス) 八咫駅10・40(バス待機) 12・20(バス) 林道大ナル線分岐12・45(バス) 登山口広場13・00(集合) 13・30(登山) 妙見山14・30(集合) 15・40(バス) 大ナル線分岐15・40(バス) 大ナル線15(解散)
一泊予約したバスが一台しか来ず、半分の人々は急ぎ特急電車まで八咫駅へ行った。もう一台が八咫に到着したのは12時を回っていた。先日の交番で名草神社への林道が崩壊して通行止めのため、バスを大ナル線分岐に待機させ、妙見山を往復した。車窓からも林道からも紅葉の痛みしい爪跡を見た。山は紅葉がきれいだった。
(参加者) 角田一江 砂原恵美子 小谷和子 朝倉利己 伊東ナナ子

波部和美 松井明忠 中嶋日出男 堀内智博 馬淵忠男 山多高重子 保田正 岩村春子 近藤さとし 塚本忠次 佐野信江 安田文美江 竹田善英 森本幹雄 濱本美和恵 吉藤孝次 平田輝美 宮下淳一 西 悦子 磯野重治 青木一雄 田中善雄 岩本彩子 長尾節子 桜庭 栄 桜庭和子 南 利恵 松尾一郎 綱 徳保 野末あや子 金森節子 川田洋子 山中あさみ 宮野哲郎 宮野敏子 首藤育子 岩田育士 西村文男 武部美美子
◎安倉正勝 ◎呉比裕美 (計47名)
◎村田智俊

大台・日出ヶ岳
(ファミリーハイイク46)
11月4日(日) 晴れ

(集合) JR新大阪駅7・30(バス) 大台ヶ原駐車場10・55(バス) 11・05(日出ヶ岳) 11・45(昼食) 12・30(正木ヶ原) 13・05(牛石ヶ原) 13・35(大蛇ヶ原) 13・55(14・05) シオカラ谷 14・45(50) 駐車場15・30(バス) 新大塚駅19・20(解散)
日出ヶ岳の展望台から眺めを羨しみ、秋色深まる大台ヶ原をめぐって歩く。大蛇ヶ原では女性陣は手

駅10時50分

コース (4日) 湯の山温泉駅

(タクシー) 御在所中道 登山口おぼれ岩(御在所) 所登口(園見) 根の平峠 (5日) 朝明ヒュッテ(道) (5日) 朝明ヒュッテ(道) ハト峠峠(釈迦ヶ岳) 中峠(八風峠) 三池(八風ヶ原) 湯の山温泉駅(タクシー) 湯の山温泉駅(解散) 16時頃 一片園温泉
費用 約16000円(大阪から交通費・宿泊代等)
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎呉比裕美
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
*定員20名(会費に際る)

近畿百名山に登る(第81回) 鈴鹿・御在所岳と釈迦ヶ岳 (健康向き)
期日 5月4日(祝) 5日(祝) 1泊2日
集合 (4日) 近鉄湯の山温泉

銅山跡が残る別子古道からアケボノツツジと瀬戸内海の展望、岩峰歩きが楽しめる赤石山縦走。ほどよいスリルが味わえる岩城、2ツ岳、カタクリの咲く赤星山の欲張り登山です。夜津でクマガイソウの花崗も訪ねます。雨天決行

をつなぎ合い、先端まで進んで絶景に酔いしれた。
(参加者) 中村静香 岩本彩子 吉藤孝次 妹尾一正 西藤良彦 市野博文 木間明忠 中澤ちず子 村上吉恵子 古川明子 金藤千恵子 田中 明 里見裕生 田中三恵子 小田潤子 松村雅子 千葉千枝子 兼田幸子 星根文子 成川みさお 磯部 茂 ◎秋葉正人 (計23名)
◎木村太郎

奥美濃・金峯岳から白倉岳 (自然観察山行160)
11月6日(日) 晴れ

(集合) JR大垣駅8・55(バス) 鳥越林道滋賀県側登山口10・55(小朝の頭) 11・35(岐阜県側コース) 分岐点11・50(金峯岳) 12・30(昼食) 13・05(白倉岳) 13・35(50) 金峯岳 14・25(30) 岐阜県側コース分岐点 15・00(岐阜県側登山口) 15・05(バス) 池田温泉 16・40(入浴) 17・30(バス) 大垣駅 18・00(解散)
バス使用なので予定を変更して滋賀県側から登り、岐阜県側に降りた。大気は少々かすんでいたが青空の下、美濃の山並を眺め、燃えつきる紅葉の谷を見降ろして気

電ヶ岳・静ヶ岳 (鈴鹿を歩く203)
11月7日(日) 晴れ

(集合) 茶臼山林道(ヘリポート) 広場8・00(車) 丈治谷合出合置車(車) 8・10(車) 石橋峠8・45(電ヶ岳) 10・10(静ヶ岳) 11・05(昼食) 12・00(静ヶ岳) 12・20(12) スングリブナ 12・45(丈治谷合出合) 14・25(解散)
電ヶ岳の山頂はササが刈られて大パノラマが展開。冬枯れの落葉の模様も最高。セキノコバの日溜りでのんびり昼食。静ヶ岳からの下りは紅葉の茶屋川に向かって一気に降りた。
(参加者) 吉藤孝次 大石智美 川田洋子 宮野哲郎 宮野敏子 武村千鶴 金谷 昭 神野孝允 永戸鉄治 白木良弘 白木やす子

大西節郎 友田 毅 友田美保子 小林 修 堀田勝利 早川奈美子 炭田明美 一芝義雄 一芝美知子 池田隆一 岩本彩子 網本美恵子 原 光一 原 幸子 石田真由美 杉山能久 谷 守 加藤誠計
◎後藤康幸 ◎山田景二 ◎岩野 明 (計32名)

京都北山・鎌倉山から峰床山 (平日ふれあいハイイク49)
11月11日(日) ◎寺井恒夫
*雨天のため中止しました。

吉野・白倉山から仏ヶ峰 (西上利和)
11月11日(日) ◎西上利和
*雨天のため中止しました。

数賀・夕暮山
11月13日(日) 晴れ

(集合) 国道8号と161号線合流点8・30(車) 小河口登山口8・55(第1鉄塔) 9・10(第2鉄塔) 9・40(590) びく10・15(夕暮山) 11・20(昼食) 12・35(590) びく13・25(第3鉄塔) 13・55(小河口登山口) 14・40(解散)
つるが山菜会が開いた新コース。広葉樹がほとんど落葉して、木の間越しに数賀市街や数賀湾が美しく

く見えていた。
(参加者) 神野孝允 金谷 昭 内田康夫 白木良弘 白木やす子 吉村 昭 光川伸史 光川二美子 谷 守 石原初子 木下朝子 池田智俊 白石初男 木戸雪江 高島洋子 ◎高島伸浩 (計16名)
◎高島伸浩 (計16名)

美濃・鍋倉山 (自然観察山行161)
11月13日(日) 晴れ

(集合) JR大垣駅9・00(バス) 広城林道東海自然歩道入口10・15(20) 鍋倉山 12・00(波瀬小屋) 12・10(昼食) 13・00(春日村) 14・45(春日村) 16・50(16) 00(バス) 池田温泉 16・25(入浴) 17・00(バス) 大垣駅 17・40(解散)
予定の西台山はクマ出沒による入山禁止のため鍋倉山に変更。坂内村日板から東海自然歩道を春日村六合まで歩いた。春日村谷山からの高橋渓谷は白風峠により林道が著しく崩壊し、「通行止め」の措置がとられている。
(参加者) 石田高教 荻野美和恵 富田尚子 鳥居信吾 菅 キヤウ 平田輝美 松見 昭 砂原恵美子 宮本真幸 宮本悦子 武藤由美子

森昌好 佐々木三千代
森美香子 ○三井秘一
◎鷺見守康 (計16名)

興比敷・比叡山から大原
(地図読み山行65)

11月14日(日) くもり
(集合) 飯田出町橋駅9・00〜07
(電車) 八瀬比叡山駅9・21〜45
(ケーブル) ケーブル比叡9・55
(10・10) 釈迦堂11・00 玉体杉
11・45 橋高山12・00 (昼食) 12・
50 水井山13・10 御木峠13・40
上御木バス停14・20 (バス) 比叡
JR駅出町15・02 (解散)
京都一周トレイル(北山コース
No.1) からスタート。比叡山の縦
走路の美しい紅葉のなかに地形図
とコンパスの勉強をしながら歩く
大原の観光客の混雑を避け、御木
峠から堅田にくだった。
(参加者) 山岸勝雄 山岸勝雄
熊木秀雄 磯部 茂 染矢つや子
木下信行 本間 隆 岩本いすゞ
隣 嘉子 川俣 勲 島田京子
森澤元博 森澤源子 ○中村 登
◎塚元一彦 (計15名)

11月14日(日) くもり
(集合) JR堅田駅8・40〜45
(バス) 坊村9・35〜50 御殿山
12・00 ワサビ峠12・05〜20 武
奈ヶ岳12・45 (昼食) 13・30 一
コヤマノ岳分岐13・41 イブルキ
コバ14・06 八雲ヶ原14・20〜30
北比良峠14・45〜50 カモシカ
台15・30〜40 大門口16・10 ト
イレ前休憩所16・20 (解散)
イン谷口16・40 比叡山17・10
下見の折に「背カレ付近は落石・
土砂崩れが起きやすい」との看板
があり、予定を変更して武奈ヶ岳
から北比良峠に出てタケ道をくだ
った。雨こそ降らなかったがずっと
曇り空で、水蒸気で覆われた琵琶
湖に浮かぶ沖島や、ぼやっとかす
む対岸、それに上半身だけが姿を
見せる伊吹や鈴鹿の山並が、水墨
画のようだった。
(参加者) 佐野信江 中嶋日出男
橋本 寿 白木良弘 白木やす子
菅井克己 渡部和美 前田初雄
大川直澄 武部 剛 武部美美子
宮野哲郎 宮野祐子 福間 章
西原俊弥 西原裕子 和田鶴子
大森康行 三上伸夫 中尾美智子
中川光郎 内田康夫 川北重美子
奥比呂美 山口喜弘 木本慈子

森 晴代 小林 修 上阪知子
長尾一令 ○宮下淳一
○大東 哲 ○秦 康夫 (計33名)

若狭・多田ヶ岳
11月14日(日) くもり

(集合) 京都駅7・20 (バス) 小
浜妙楽寺9・40 55 瀬戸ノ滝
10・10 15 15 15 15 15 15 15 15
線広場11・45 (昼食) 12・45 多
田分岐13・20 多田ヶ岳13・40
14・00 多田分岐14・15 林道終
点15・10 遠敷トンネル西口15・
50 16・05 (バス) 多田寺16・10
(バス) 京都駅18・30 (解散)
多田ヶ岳山頂は360度展望。昼
食場所も見晴らしがよく、風もな
く暖かくてゆっくりした。新遠敷
(おにゅう) トンネル西口からバ
スに乗って帰途についた。
(参加者) 井上慈子 砂原重美子
中川節子 中村英雄 川上久堅
松村雅子 岩崎健司 大西幸孝
沖 伸 布地清美 木村 豊
狩野東彦 若林文夫 三井敏一
金森節子 吉塚孝次 川田洋子
長沢佑美 多賀久子 首藤育子
○加藤元彦 ○森脇貞義
○磯野重治 ◎中西信行 (計33名)

美作・後山
(ファミリーハイック47)

11月17日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00 (バ
ス) 後山登山口10・15 25 沢徒
歩地点11・00 05 尾根筋分岐11・
30 35 船木山12・10 15 後山
12・40 (昼食) 13・30 尾根筋分岐
14・15 20 後山登山口15・15
25 (バス) 宮本駅の甲斐野16・
00 (入浴) 17・10 (バス) 新大阪
駅19・50 (解散)
沢筋ではカエデ類が残っていた
が、尾根にかかると紅葉は終わっ
ていた。積雪下では先の台風で木々
は落葉していた。その埋め合わせ
に頂上に立つと、すばらしい全方
位の眺めが待っていた。
(参加者) 上田久子 緒方由子
小倉和子 角田一江 中澤ちず子
本間昭恵 村上嘉子 金藤千恵子
吉藤孝次 妹尾正一 木村 豊
保田 正 川上久堅 渡部和美
西 悦子 沖 伸 猪狩美枝子
田中 明 塚本忠次 岩本彩子
白鳥孝子 宮西和子 山本千鶴子
宮野祐子 松尾節子 佐古田文字
古川正字 山科邦彦 小嶋野里子
市野博文 藤村勝彦 網 徳保
朝倉利己 澤田高治 岩村登子

盛 敏子 植木敏子 山中あさみ
星根文子 松村雅子 榎 美奈子
榎 麗司 ○西條良彦
◎木村太郎 (計44名)

紀州・果無山脈縦走
(週末ハイック61)

11月20日(日) 22日(月) 2泊3日
(20日 晴れ) (集合) JR新大
阪駅7・30 45 (バス) 安堵山登
山口11・55 (昼食) 12・35 安堵
山12・50 55 和山の森13・50
14・00 小森登山口14・40 45
ヤマセミの郷15・00 (泊)
(21日 晴れ) ヤマセミの郷7・
25 (バス) 安堵山登山口7・50
8・00 馬尾山8・30 冷水山8・
50 9・10 カヤノダン9・40
公門のツエ10・00 公門の頭10・
25 35 筑前タワ10・50 ミヨウ
ガタワ11・15 北面が開けた鞍部
11・30 (昼食) 12・15 源助の墓
分岐12・20 プナの平12・35 40
1石地力山13・10 果無峠13・35
45 1 観音堂14・00 05 天水田
14・30 果無峠登山口14・45 柳
本橋15・20 16・05 (バス) 那
郷16・10 (入浴) 17・10 (バス)
上真川民宿17・50 (泊)
(22日 晴れ) 上真川7・40 (バ

ろ 玉置山駐車場8・00 玉置神
社8・10 20 宝冠の森9・35
45 玉置山10・35 55 林道展望
台11・25 35 (バス) 三軒茶屋12・
35 熊野本宮14・20 (バス) 大坂
駅18・30 (解散)

ら和道の森に到着。明確に残った
山道をハルリンドウが咲く小森登
山口に下山。2日目は冷たい風が
吹いたが、アップダウンの少ない
長下場の縦走路を踏破した。那の
郷で入浴を済ませ、民宿ではシン
編で盛り上がった。3日目はあま
りの好天に縦場を楽しむ宝冠の森
コースをオマケコースに選び、ツ
ツジの花がほころぶ行場から、奥
駈の山やかすんだ熊野川の眺望を
楽しんだ後、中辺路を自由行動で
散策した。
(参加者) 宮松雅子 船本裕日子
蓮井洋子 南 利恵 萩野暢子
三井敏一 村井寿和 草野賢雅子
岩城敏子 山縣勝美 上田久子
岡本佳子 金谷 昭 山本京子
加藤元彦 原 文字 堀江八重子
磯部 茂 富田満子 加納由紀子
小松志信 吉瀬 清 藤井 紘
◎瓜阪利明 ◎狩野東彦 (計43名)

横根三山(鈴鹿白山63)
11月21日(日) 晴れ

(集合) JR関ヶ原駅8・35 3
岐鉄道西野尻駅8・30 (車) 時山
集落入口9・10 (車) 林道終点車
止9・30 五箇集落10・00 権現
谷 5 5 ツツ谷と横根分岐10・
15 横根最高点10・50 西横根・
三角点峰手前鞍部11・50 (昼食)
12・40 西横根三角点12・45 東
横根13・05 五箇集落14・15 車
止14・30 (車) 関ヶ原駅15・30
(解散)
五箇集落は標高500mで紅葉
もちょうどよく、ルート変更で三
山共歩け、とてもよかった。(記
録・佐古田文字)
(参加者) 山田妙子 伊藤重美子
春見重美 丹下由子 嘉瀬井 豊
稲垣勝義 大西節郎 石倉真佐子
島尾信吾 谷 久雄 藤原美佐子
奥野民憲 奥野富美 岡本美千子
村田紀生 山村恭男 南 智恵子
西村文男 木戸五郎 落合ひろ子
西村慶子 池倉秀子 伊藤喜久男
佐古田文字 ○高原秀彦
◎山田明男 (計26名)

日本コバ(鈴鹿を歩く204)
11月21日(日) 晴れ
(集合) 水原寺町役場8・00 (車)
もみじ荘広場(車) 如米堂8・30
1 約の穴10・00 若尾11・00 日
本コバ11・40 (昼食) 12・20 尾
根分岐13・10 水原寺15・30 1
みじ荘広場16・10 (解散)
水原寺ダム周辺は紅葉が朝日に
映えて見事。約の穴は真つ暗で奥
に神秘的池。洞窟岩屋を巡り、日
本コバ山頂で昼食。冬枯れの広大
な山頂から南の水原寺へと続く長
大な尾根をのんびり歩いた。
(参加者) 木下信行 神野孝允
永戸鉄治 樫田勝利 奥野太一郎
栗本敏夫 三上伸夫 磯部 純
小林 修 一芝義雄 一芝美知子
武村千鶴 宮野哲郎 石田真由美
多賀周二 多賀久子 光川一葉子
谷 守 杉山能久 木下朝子
◎山田景三 ◎若野 明 (計33名)

つめたい西風が吹いていたが、いい山行だった。ガケ崩れてバスが入らず宮袋町まで歩いた。

(参加者) 児島愛子 砂原重美子 宮本真幸 宮本悦子 水見真砂子 中川節子 東中次夫 猪野美枝子 栗橋崇吉 栗橋君子 中村佳津子 板橋栄 松村雅子 久保田順一 岩本彩子 繁田正美 前田喜久子 吉原孝次 川田洋子 吉原喜久子 宮野純子 川島勝美 ○磯野重治 ○森脇貞義 ◎中西信行(計27名)

京都西山・小塩山から大畷山 (北山ちよと歩き61)

11月24日(日) 晴れ
(集合) 阪急桂駅8・30―老の坂西口9・20―鶴の子谷9・35―林道終点10・40―小塩山分岐11・20―小塩山鉄塔広場12・00(昼食)
13・00―涼相天皇陵13・30―大畷山14・10―見晴らしの鉄塔14・40―洛西高校前バス停15・30(解散)
里山の谷コースを歩いた。台風23号による巨木の倒木があったが無事クリア、予定通り歩けた。
(参加者) 塚本忠次 砂原重美子 栗橋崇吉 栗橋君子 道平さきみ 市野博文 星根文字 榎 美栄子 松尾麗子 志水明美 水間賢子

山岸勝雄 入江武史 岩本彩子 細道徳雄 田中 明 柳川常雄 藤本吉吉 尾崎光子 青木一雄 岩城豊子 伊藤信男 寺戸順司 森 和久 巻田 晃 中上紀代子 和田直樹 榎木金三 光川二美子 若林文夫 川崎敏雄 坂井克久 中川光郎 小谷和子 中谷繁子 竹田善英 角江朝子 ○水間 隆 ○藤尾一正 ○金谷 昭 ○谷 守 ○石原君子 ○奥山繁三 (計43名)

遠征 麻布山から前黒法師山と熊伏山 (自然観察山行162)

11月26日(日) 28日(日) 前後発1泊2日
(28日) くもりのち雨(集合) J R 岐阜駅23・00(バス)
(27日) 晴れ(バス・時間調整して走行) 水窪町旅館4・40(朝食) 6・50(バス・通行止めのため1時間ほどロスタイム) 天竜スパー林道登山口8・30―40―麻布山10・35―55―前黒法師山11・35―55―麻布山12・30(昼食) 13・30―登山口15・30(バス) 水窪町旅館16・30(泊)
(28日) 晴れ 水窪町旅館6・50

(バス) 足持神社7・20―塩の道園地7・40―45―青崩峠8・00―反射板小広場8・40―45―熊伏山9・30―10―10―反射板小広場10・50―11・00―青崩峠11・30―塩の道園地11・40―足持神社11・55―12・05(バス) 龍山村トロン温泉14・05(入浴・昼食) 15・05(バス) 岐阜駅18・10(解散)
麻布山への道はツガ・ミズナラ・ブナ・ヒメシヤラの大樹がすばらしい。山頂から光石の見える光岳を見た。前黒法師山には何気なく到着。翌日、熊伏山頂からひときわ存在感のある聖岳・鬼岳・中盛丸山・大沢岳・冠雪の赤石岳・荒川中岳、独特な姿の増見岳、真っ白な間ノ岳、仙尾尾根の後に冠雪の頭をのぞかせた北岳、大きな仙丈ヶ岳など秀麗な南アルプスの眺めを堪能した。
(参加者) 上田裕子 石倉真佐子 沖 伸 金森節子 落合ひろ子 栗橋崇吉 栗橋君子 砂原重美子 多田陽子 川島勝美 的場たか子 原 文子 平田輝美 武藤由美子 松村雅子 三角彩子 森 美香子 夜久允子 佐々木三三子 ○森脇貞義 ◎鷺見守康(計21名)

一足早い忘年会 播磨・三辻山と黒尾山 11月27日(日) 1泊2日 (27日) 晴れ(集合) J R 姫路駅9・15(バス) 坂の辻峠11・00―三辻山登山口11・35―三辻山12・05(昼食) 12・45―977峠12・13・25―雪彦山分岐14・20―飯水山15・25―岡城林道分岐16・00―滝谷口17・00(バス) 福知溪谷休養センター17・30(泊)
(28日) 晴れ 休養センター8・00(バス) 黒尾山登山口8・40―不動滝9・20―虚帯蔵石仏9・50―黒尾山10・20(昼食) 11・15―893峠12・10―10―30―林道終点15・05(バス) まほろば温泉15・30(入浴) 16・30(バス) 姫路駅18・00(解散)
久しく出会って楽しく語り合っただこと。台風22・23号による植林帯の倒木の状況を体験でき、虚空蔵石仏そばのシクナゲの倒木を全員が力を合せて立ち上げたのが、今回の大きな収穫であった。
(参加者) 大和 紘 中村静香 眞田久子 船越利明 高山 雄 秋田楠壽 岡田 昇 岡田重美子 宮西和子 馬籠忠男 前田喜久子

小田潤子 兼田幸子 佐古田文字 石川 敏 岩田育士 光川一美子 松尾麗子 岩城豊子 渡辺一雅 中島 隆 星根文字 石原順次 小林優子 坂上 肇 奥比呂美 美村三枝 前川 一 (計29名) ◎須崎岡 輯

美濃・11月の舟伏山 11月28日(日) 晴れ

(集合) J R 西岐阜駅8・35(車) 夏坂林道車止9・45―あいの森登山口10・10―椋峠10・45―みのわ平11・15―舟伏山12・00(昼食) 12・45―阿弥陀仏の峠13・45―あいの森登山口14・30―夏坂林道車止15・15(車) 西岐阜駅16・30(解散)
林道途中で工事通行止めのため今回も歩いた。紅葉は標高700以下でちょうどよく、シロモジの黄色とカエデの赤がきれいだった。

(参加者) 山田妙子 伊藤重美子 丹下由子 笹岡庄蔵 北村つねみ 安藤ゆづり 成瀬忠市 成瀬みち子 小林一世 吉村 昭 生越重美子 今井雄雄 村田 浩 白木やす子 白木良弘 ◎山田明男(計16名)

朽木・白倉岳 (ファミリーハイク48) 12月2日(日) 晴れ

(集合) J R 堅田駅8・10(バス) 村井登山口9・10―15―松本地蔵9・35―40―尾根筋広場10・20―25―牛ノ平10・40―大倉峠分岐11・10―15―白倉岳11・45(昼食) 12・40―中岳12・55―13・00―南岳13・20―25―植林地道標14・25―30―栃生登山口15・05―野町駅休憩所15・15―25(バス) 堅田駅16・00(解散)
落葉の尾根道をたどり、関西アルプスの比良山系を眺め白倉岳へ登る。山頂から雪をかぶった白山が遠望できた。大杉の中岳、ブナ林の両岳を縦走し、転倒しそうな急坂を日野谷橋へくぐった。
(参加者) 堀田輝子 中澤ちず子 村上嘉子 市野博文 金藤千恵子 藤村勝彦 星根文字 本田久美子 西 悦子 盛 敏 中江清剛 堀江房雄 田中 明 藤本吉吉 木本恭子 松尾麗子 岩城豊子 青木一雄 松井明忠 本間 隆 水間賢子 植木敏子 渡部和美 川上久堅 加藤浩一 成川みさお 和田純子 吉野栄子 ○西條良彦 ◎木村太郎 (計30名)

湖北の山・田良原山 12月4日(日) くもり

(集合) J R 木之本駅9・15(タクシー) 上丹生登山口10・05―田良原山11・35(昼食) 12・15―泉道12・45―大見集落13・10―20―菅山寺13・50―14・10―大見集落14・40(解散)
あまり知られていない余呉町の山で、横山岳や葵谷山が近くに見える。下山後、菅原道真ゆかりの菅山寺(名残の紅葉を見に行った。
(参加者) 堀田輝子 首藤育子 宮西和子 西田俊治 石倉真佐子 川島勝美 吉村 昭 三上伸夫 池田繁美 内田康夫 小原さゆ子 山形 明 白木良弘 白木やす子 緒方由子 光川博史 光川一美子 竹田善英 金谷 昭 岩田利嗣 白石初男 中山 勇 山下末登 ◎高島伸浩 (計24名)

若狭・青葉山 (近畿百名山に登る78回) 12月4日(日) ◎村田智俊
*雨天のため中止しました。
播州・白岩山 12月5日(日) ◎吉賀慶一
*雨天のため中止しました。

鈴鹿・藤原町聖宝寺付近散策 12月5日(日) 雨 (鈴鹿百名山64)

(集合) 三郷鉄道西野原駅集合9・05(車) 坂本JA駐車場9・30―聖宝寺10・00―敬善寺10・30―藤原自然科学館10・45―坂本谷入口11・10―会場11・30(昼食忘年会) 14・50(解散)
忘年会は、雨の予報で仙香山の八風から藤原へ変更した。聖宝寺付近の紅葉はまだきれいだった。歩き足りない人がいたようだ。
(参加者) 馬場祥子 伊藤重美子 春見重美 丹下由子 伊藤紀子 伊藤 明 山田妙子 南 智恵子 西村文男 村田紀生 佐古田文字 島居信吾 白木良弘 白木やす子 鈴木 浩 鈴木友子 北村つねみ 吉村 昭 土井光正 山野志保江 奥野民憲 奥野富美 落合ひろ子 笹岡庄蔵 佐藤文枝 長坂友知子 吉田峰子 栗本敏夫 大岩明美 中神恵子 山村恭男 ○高原芳彦 ◎山田明男 (計33名)

①川辺橋から藤白神社
②藤白神社から坪の峠越

12月11日(日) 12日(月) 泊2日
12月11日(日) 12日(月) 泊2日
町駅8・00〜10川辺橋北詰9・
50〜10川上王子10・30川
崎王子10・50(昼食)12・20平
緒王子13・15(久々)13・40
一坂和道トネル手前13・50
14・05一松殿王子14・45一蜘蛛池
群14・50〜15・00一松代王子15・
20〜30一R370コンビニ前15・
40〜16・00(バス)美里温泉「か
じか荘」16・50(泊)
(12日 晴れのち雨)「かじか荘」
8・10(バス)R370コンビニ
前9・00一飯戸王子9・30一藤白
神社10・00〜10一有馬王子大森10・
15一赤松松・硯石10・35一藤白塔
下王子・御所の芝10・45〜11・00
一橋本王子11・30一所坂王子11・
45一蕨王子12・00(昼食)12・
40一坪の峠13・20〜30一藤坂王子
13・40〜50一山口王子14・10一熊
野古道ふれあい広場14・30一宮原
橋北詰14・40〜15・00(バス)な
んば駅16・50(解散)
山の斜面は色づいたミカン畑が

の時期としてはめずらしい。下り
は月輪寺を巡る一燈道を利用した
が休憩場所が苦勞した。喜ぶ声が
うれしい初りゲー。
(参加者) 船越利明 西 悦子
栗橋栄吉 栗橋君子 田所真里子
吉條孝次 金森節子 石倉真佐子
市野博文 平田輝美 小河美奈子
木村 豊 塚本忠次 後藤純子
田中 明 櫻 蘭 神 美奈子
中勢孝彦 加藤元彦 佐々木輝子
若林和人 尾崎光子 松尾尾子
岩城敏子 寺戸順司 巻田 晃
眞田久子 松井明忠 本間 隆
本間孝子 小谷和子 小林 桂
日野照代 伊藤正延 岡田史一郎
岩佐 修 須藤浩子 藤野つるみ
杉本島士 櫻島康一 堀江八重子
多田陽子 前田初雄 山添登美子
妹尾一正 山岸勝雄 菅 キヤウ
上田真代 和田直樹 坪田美子代
志水明美 小栗大直 友田美奈子
安良陽子 谷 守 市橋千代子
渡部和美 森 康夫 中原真理子
炭田明美 森 和久 西原成夫
木下朝子 大谷章子 森澤勝子
大東 哲 川上久堅 砂原恵美子
角田一雄 津方忠子 市田敬子
竹田美英 石原君子 〇沖 伸
〇青木一雄 〇加納由紀子

美しく、収穫中の農家の人からも
らって水分補給になった。2日目の
藤白神社から古道らしい空開気
となり、路傍の道草を見学した
り遠く太平洋を望んだり、飽くこ
とのないハイキングが楽しめた。
(参加者) 高松雅子 佐古田文子
中川光郎 山科邦彦 中嶋日出男
森本 勝 森本淳子 武部美美子
田中 明 中川節子 伊東ナナ子
萩野暢子 岩崎健司 河原美代子
馬籠忠男 山崎勝美 村田はる江
岩村春子 宮野敏子 野末あや子
川田洋子 和田純子 下村啓子
岡崎知子 〇長比裕美 (計26名)
◎村田智俊 (計26名)

美濃・塔ノ倉
12月11日(日) 晴れ
(集合) JR大垣駅9・00(バス)
聖心殿9・45〜50一聖心の院10・10
〜20一塔ノ倉11・10(昼食)11・
50一奥の院12・40一聖心殿13・05
〜15(バス)久瀬川温泉13・35
(入浴)14・25(バス)月夜谷山
荘14・50(忘年会)17・10(バス)
大垣駅18・20(解散)
塔ノ倉は中腹までヤブツバキ・
シキミ・アカガシなどが多く、久

しぐりに緑の葉がつかややかな常緑
樹の山を歩いた。入浴後に忘年会
開催。知る人ぞ知る月夜谷山荘で
熊鷹を食べて歓喜した。
(参加者) 石川 敏 岡田直規
伊藤 直 伊藤和代 萩野美紀恵
小田潤子 小松志信 加納由紀子
栗橋栄吉 栗橋君子 小崎由利子
富田満子 中村賢吾 砂原恵美子
宮本真幸 宮本悦子 武藤由美子
堀江房麿 宮西和子
佐々木三千代 〇鳥居信吾
◎登見守康 (計22名)

忘年会
湖北・賤ヶ岳から山本山
(週末ハイイク65)
12月11日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅八条口7・55
(バス)余呉自然休養村管理セン
ター9・40〜45一中山清美(大
岩山)10・20一賤ヶ岳11・00〜15
一ピーク3・20一賤ヶ岳11・45(昼食)
12・30一海老越13・10一山本山14・
05〜30一字賀神社15・00〜05(バス)
野洲駅16・45(解散後・忘年
会)
落ち葉の道歩いて賤ヶ岳に到
着。余呉湖と湖北の山の景色を楽
しんだ。山本山への縦走は「湖辺

(つみのべ)の道」で、琵琶湖と
竹生島の眺めがよい。熊出沒注意
の看板が随所にあったが、期待に
反して出会うことはなかった。婦
路は湖畔のささなみ街道を走って
野洲駅前入浴後、忘年会で盛り
上がった。
(参加者) 船越利明 船越みよ子
仲谷社司 渡部和美 佐野信江
金森節子 村井寿和 船本裕巳子
南 利恵 秋田楠師 山本京子
武田元可 加藤元彦 前田幸子
〇瓜阪利明 ◎狩野東彦(計19名)

愛宕山シリーズ1
中尾根・炭焼き跡から愛宕山
(火曜ハイイク1)
12月14日(日) 晴れ
(集合) JR保津駅9・10一登
山口9・24一犬岩10・28一炭
焼跡10・58〜11・05一七丁目出合
11・27〜35一社務所12・09(昼食)
13・00一月輪寺13・35〜50一梨木
林道出合14・20〜33一金路橋14・
50〜15・00(解散)
山頂でも10度と暖かい快晴に恵
まれた。中尾根はシダに覆われた
道を踏み、炭焼き跡のある道では
雲海に浮かぶ山々の景色が楽しめ
たし、山頂も陽だまりが多く、こ

〇山縣勝美 〇小松志信
〇中山節子 〇村井寿和
〇長尾一令 〇田中善雄
◎仲谷社司 (計83名)

北摂・熊野妙見山
(ファミリーハイイク49)
12月15日(日) 晴れ
(集合) 熊野電鉄妙見口駅10・00
一緑の百瀬石碑10・20〜25一車道
出合12・00一妙見山12・25一東屋
広場12・30(昼食)13・15一上杉
尾根出合13・25一伐採地13・40
45一上杉尾根口14・15一妙見口駅
14・30〜40一観音井神泉15・15一
高代寺山15・30〜35一高代寺15・
45一妙見口駅16・10(解散)
初谷川渓谷の清流は優しく道は
ゆるやかだった。そのぶん、つめ
上りに時間がかかった。計画の天
台山道を変更し、展望よい上杉尾
根道をくだった。忘年会までの時
間合わせに、希望の半数だけで高
代寺山を往復した。
(参加者) 西條良彦 中澤ちず子
本間昭恵 眞田久子 金森千恵子
中村桂香 川上久堅 田中三恵子
小林 桂 長沢佑美 道平さきみ
木下朝子 山根弘美 千藤千枝子
兼田幸子 小田潤子 山根木慈子

古川正子 長登美子 田所真里子
(忘年会のみ) 村上嘉子
◎秋葉正人 ◎木村太郎(計83名)

忘年会山行
室生・額井岳から戒壇山
12月16日(日) 晴れ時々曇り
(集合) 近鉄榛原駅9・10〜12
(バス)レストラン香前9・25一
額井岳10・45一戒壇峰11・30一戒
壇山11・55一戒壇寺12・20(昼食)
13・00一山部赤人の墓一十八神社
13・35一上流谷屋平白(バス停)13・
40(バス)榛原駅14・00(電車)
鶴橋駅焼き肉パンパハウス16・00
(忘年会)18・00(解散)
冬枯れた山々の姿はさびしい
が、小春日和に恵まれ、会う人も
なくのんびりと山歩きを楽しんだ。
参加者のほとんどが忘年会参加と
なり、今年も大いに盛り上がった。
(参加者) 井上聡美 宮路ちへ子
竹田勝英 山下恒三 水本加津栄
岡田芳員 岩本彩子 橋 照子
山根弘美 山縣 隆 山縣勝美
東山澄夫 中村英雄 櫻田勝子
〇井上由紀晴 ◎西上利和 (計16名)

美濃・大黒山
12月19日(日) くもり
(集合) JR西岐阜駅8・35(車)
山奥市役所支所9・20〜30一太黒
山11・10一駐車場12・40一グリー
ンプラザみやま12・50(昼食)入
浴15・30(車)西岐阜駅16・50
(解散)

最後の舟伏山だったが、林道が
通行止めで大黒山に変更。大黒山
は手軽に行ける山だと思ったが、
しつかり歩かされた。案内書にな
いルートを地元の人に教えられ、
入るなと言われた谷をくだれば、
荒れていて時間がかかった。
(参加者) 山田妙子 北村つねみ
馬場佳子 西村文男 佐古田文子
春見直美 栗木敏夫 伊藤恵美子
丹下由子 沖 伸 岡本美子
笹岡正蔵 島屋信吾 奥出八重子
安藤ゆう 成瀬忠市 成瀬みち子
岡平くみ子 手塚美英江
◎山田明男 (計20名)

忘年会 12・50 途中分岐13・05 途中谷14・42 (バス) 京都駅 17・00 (解散)

二の谷からこのルートは以前と違い、仕事道が複雑まで整備されていて驚いた。何なく二の谷山に登頂。三角点の少し下の雑木林での忘年会は、ポタン鍋で盛り上がった。帰路は後線を南へ途中谷にくだった。
◎参加者 仲谷利司 宮本真幸 宮本悦子 多賀周二 多賀久子 栗橋崇吉 栗橋野子 中村佳津子 吉藤孝次 青木一雄 三井敏一 金森節子 佐野信江 布地清美 福井清之 宮野藤子 小河美奈子 川田洋子 高橋裕治 加藤元彦 石原順次 中川節子 水見真砂子 岩本彩子 藤本紀子 上田裕子
◎磯野重治 ◎中西信行 ◎森脇貞義 (計29名)

忘年会・猪の鼻ヶ岳
12月19日(雨) 鈴鹿を歩く206
(集合) 日野町北畑口バス停9・00 (車) 鎌掛峠9・10 猪の鼻ヶ岳9・50 林道10・30 鎌掛峠11・10 (車) 水無山ロッジ11・30 (昼食忘年会15・10) (解散)

鎌掛峠から40分で猪の鼻ヶ岳。後線を東に歩き林道をくぐって水無山の専用ロッジに移動。トン汁・水炊き・サラダ・海産物・鶏等の炭火焼。その他各自に持ち寄ったの楽し盛大な忘年会だった。
◎参加者 宮野哲郎 奥野太一郎 永戸鉄治 榎田勝利 伊藤勇久男 武村千鶴 炭田明美 光川二葉子 木下信行 白木良弘 白木やす子 谷 守 今井武司 石田真由美 久保豊和 原 光一 原 幸子 神野孝允 一芝義雄 一芝美知子 伊藤則男 大西哲郎 網本美恵子 杉山能久 小林 修 原 文子
◎山田景三 ◎後藤康幸 (計29名)

比叡・比叡山裏道八丁谷
12月22日(雨) 晴れ一時雪
(集合) ケーブル八潮駅9・30 40 松尾坂峠11・00 八丁谷林道11・15 (昼食) 12・15 林道終点 15地蔵13・00 八潮八幡宮13・50 14・00 (解散)
比叡の山々の東山で、自然豊かな里山を五地蔵峠と八潮八幡宮まで歩いた。松尾坂峠には無名のお墓が多いのに驚いた。

◎参加者 栗橋崇吉 栗橋野子 中村悠一 井上聡美 井上由紀晴 後藤野子 金谷 昭 尾崎光子 本間 隆 本間勝子 松井トキ子 田中善雄 秦 康夫 秦 美代子 小川 桂 岩本彩子 砂原美美子 入江武史 山岸勝雄 志水明美 渡部和英 和田直樹 磯部 純 磯 嘉子 市野博文 平 幸子 川上久登 安良陽子 中嶋日出男 武田高司 武田和巳 山盛加奈子 妹尾一正 湯浅康夫 松上美代子 竹田善英 星野正弘 石原裕子
◎呉山整三 (計42名)

京都市西・ボンボン山
(近畿百名山に登る79回)
12月23日(雨) 晴れ一時雪
(集合) J R山崎駅8・30 40 1 天王山9・30 40 1 柳谷観音社 車場10・30 11・10 坂田11・35 45 1 大杉12・00 坂田12・15 1 鉄塔広場12・30 (昼食) 13・10 1 ボンボン山13・25 1 35 1 本山寺14・30 1 旧本山寺参道 1 神峰山口15・45 1 6・00 (解散・バス) 高槻駅16・25
やや長いコースになったが、急坂の少ない里山歩きで気分よく歩

けた。本山寺からは東道の参道でなく、山道の旧参道を巻田さんに教えてもらったかった。

◎参加者 福井清之 宮西和子 宮下芳一 山岸勝雄 近藤 恭 松尾淳洋 松尾藤子 塚本忠次 田中善雄 青木一雄 伊藤正延 吉藤孝次 榎 龍司 榎 美奈子 大川直澄 川戸せつ 笹井百合子 矢野 稔 柳川富雄 和田直樹 佐野信江 中村英雄 中村真美子 上坂知子 西原辰夫 中川八千代 川上久登 中澤弘子 小島フジ子 嶋田幸子 萩野暢子 河合寛行 前田初雄 河本英機 河本美千子 林 信男 伊藤則男 宮村孝次郎 川田洋子 巻田 晃 小塚きぬ子 妹尾一正 和田純子 武部美美子 宮野哲郎 宮野敏子 川北東英子 榎原良彦 松本勝子 井上恭子 近藤美子 西 悦子 茨木良雄 堤 良男 ◎比叡宮
◎安倉正勝 ◎村田智俊 (計31名)

北摂・箕面駅から砂見口駅へ (年末にロングコースを歩く) 12月29日(雨) ◎村田智俊
*雨天のため中止しました。
(11・12月の参加者 延928名)

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。
この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年発足で14年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。
会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませるか。
リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。
会費には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。
四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。
入会金 500円(バジ代)
年会費 3000円(送料共)
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。
なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号随時にお手元に届きますので便利です。
切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集
リーダーは2ヶ月に1回程度、山行例会を計画・実施していただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必読」をご参考に送ります。

訂正とお詫び
80号(新巻)31ページ付近右上「上山ヶ岳」は「山上ヶ岳」が正しい。
80号(新巻)37ページ付近右上「金葉岳」は「金葉峠」が正しい。
80号(新巻)40ページ下段19行目「ガリバー旅行社バス停(バス10分) 近江高島駅」は「……(20分)……」が正しい。
80号(新巻)86ページ一段7行目「海山道」は「深山道」が正しい。
80号(新巻)99ページ三段14行

○新入会員(定期購読者)紹介
新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5034番から5048番まで

- 【愛知】 武田誠司 長谷川雅俊
- 【三重】 田中賢治 島本多美代
- 【福井】 長谷川洋子
- 【滋賀】 横江正敏
- 【京都】 豊村雅子 藤野つるみ 仲 義信 仲 しん
- 【大阪】 坂田誠治
- 【奈良】 中山 暉 中山貴久子
- 【兵庫】 多井 孝 石井良子 (15名)

総目次掲載について
「新ハイキング関西」では、1の付く号数に最近10号分の総目次を掲載しています。今号は81号につき、71と80号の記事を分類し、索引として載せています。(108と111ページ)
データとしても活用できますのでご利用ください。
毎号お求めになりたい方へ
前もって書店に毎月ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。偶数月の20日ごろ(隔月刊)の発売です。